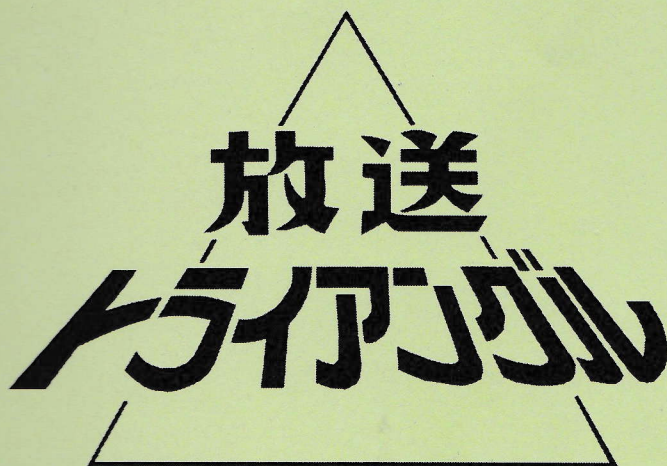


第10号

2003.10



～放送労働者・視聴者・研究者をむすぶ～

特集

テレビはイラク戦争をどう伝えたか

～ニュース3番組を検証する～

第14回「放送を語るつどい」報告・資料集

放送を語る会

目 次

テレビはイラク戦争をどう伝えたか

～ニュース3番組を検証する～

報告 「放送を語る会」番組分析作業チーム

はじめに 調査の動機とねらい	2
第1章 各番組が伝えた情報の分類と量的比較	4
第2章 ニュース・オーダー比較	7
第3章 キャスターのコメント	10
第4章 ワシントン特派員報告	18
第5章 戦況報道(V構成・記者リポなど)	23
第6章 戦況解説(スタジオ中心)	30
第7章 番組ゲスト	35
第8章 企画・特集	41
第9章 自局(系列社をふくむ)従軍記者リポート	49
第10章 米中央軍司令部(カタル)リポート	56
第11章 バグダッドリポート	60
第12章 反戦運動	67
第13章 各番組の報道スタンス	70
(基礎データ)	
(1) 番組分析シート(一部)	74
(2) 情報量比較	99
(3) ニュース・オーダー比較	111
(参考資料)	
(1) イギリス BBC 放送「戦争報道ガイドライン」	123
(2) TBS 戦争報道ガイドライン	125
(3) NHK 放送番組基準(抜粋)	126
(4) イラク戦争関連番組リスト	128

「放送を語る会」の歴史

「放送を語るつどい」14年の歩み	129
放送を語る会主催「放送を語るつどい」の記録	130
放送を語る会主催「放送フォーラム」の記録	134
「放送フォーラム」から(投稿・「放送を語る会通信」に掲載できなかったもの)	135

はじめに 調査のねらいと動機

マスメディアは、イラク戦争の報道で視聴者の求める情報、視聴者が公正な判断をするに役立つ情報を伝えただろうか？

私たちは、夜の時間帯のニュース 3 番組を比較分析することによってこのテーマの一部の検証を試みた。ニュース 3 番組とは、NHK「ニュース 10」、TBS「NEWS23」、テレ朝「ニュースステーション」である。

調査を始める動機となったのは4月中旬、定例の「放送を語る会」運営委員会の議論だった。米英軍のバグダッド占領から数日を経たこの日、イラク戦争を伝えるテレビを見続けていた会員たちから次々厳しい批判の声があがった。「政府の広報番組を見ているんじゃないかと思えて仕方がなかった」「あの特派員報告は、アメリカ政府スポークスマンの記者会見聞いているみたいだ」「ベトナム戦争時の報道と比べると戦争報道というよりゲーム感覚の戦況報道だ」「軍事オタクの兵器解説じゃないか」等々。

しかし、怒りに任せた感想のやり取りがしばらく続いた後、「これは自分の見た番組だけの印象批評の域を出ていないのではないか」という冷静な指摘を受け、「ではみんなでできるだけ客観的に番組を分析してみようではないか」というのがこの調査を始めた動機である。

会員 6 人によって番組分析作業チームが作られ、先ず資料収集が始まったが、最初に突き当たった壁が基礎資料・ニュースの録画テープの入手である。

新聞雑誌などの活字資料は後からでも比較的簡単に入手できるが、ビデオテープは誰かが意識的にエアチェックしなければ手元に残らない。ましてや放送局に録画テープ提供を求めても著作権その他の複雑な問題が絡み応じてもらえないのはご承知のとおりである。

今回の場合、あらかじめ計画があって担当を決めて録画していたわけではなく、後から調査活動の話が持ち上がったので会員が個人的に録画したテープをかき集めたのだが、日々のニュース番組を録画する人は少なく収集に苦労した。

結局、日頃から「放送を語る会」会員の間で話題になることも多かった上記の 3 番組の計 12 日分のテープを何とか集めることができ、これを基礎資料に作業した。従ってテレビの主なニュース番組を調査分析の視野に入れ、その中からこの 3 番組を調査の対象にピックアップしたというより、たまたま資料として集った 3 番組を便宜的にとりあげたという調査の限界をあらかじめお断わりしておく。同様に、調査した 12 日分も意図的に選んだ 12 日ではなく、3 番組の録画テープがたまたま揃い比較分析ができる日であることもご了解いただきたい。

調査は、先ず手分けして録画テープから「番組分析データ」を作ることから始まった。録画テープから番組構成表を作り直すようなこの作業は意外に時間と手間のかかる忍耐の作業だった。

この 12 日間×3 番組＝延べ 36 番組の「番組分析データ」をもとに、各番組の伝える情報の分類と量的比較を行った。

また、各番組の報道スタンスを読み取る手がかりとして、その日のニュースオーダーを 3 番

組で比較した。

数量化した比較のほか、各番組の報道スタンスを総合的・多角的に検討しようということで、キャスターのコメントなど第3章以下に記したような個別の検討項目ごとに記録し比較した。

時間的制約から第3章以下はチーム全体での討議が充分できず記録分担者の個人責任に任された。内容の要約だけでなく、論評や評価も加えられているが、これは記録を分担したメンバーの個人的見解であることをお断わりしておきたい。また分類の難しい“情報”を相手に整理・数量化する作業のため、「情報の分類と量的比較」をふくめ、データ化に際して一部個人差やばらつきが残されたままであることもお許しいただきたい。

テレビを視聴者の手に取りもどすことを願いに進めてきた私たちの視聴者運動の今後に、このまとめが何らかの役に立つことを願ってここに報告する。

最後に、録画テープの収集にあたりご協力いただいた会員・各方面の方々にもこの場を借りて御礼を申し上げます。

第1章 各番組が伝えた情報の分類と量的比較

情報の内容や質の比較検討は後の章にゆずり、ここでは分類した情報を各番組がどのようなバランスで伝えたかを見ておきたい。(表1 参照)

戦闘情報

先ず第5項「従軍記者リポート」に注目したい。NHK「ニュース10」(以下「N10」と略)が、イラク戦争関連ニュース合計放送時間の9.8%を従軍記者リポートで占めているのに対し、TBS「NEWS23」(以下「N23」と略)は0.5%、テレビ朝日「ニュースステーション」(以下「N・S」と略)1.6%と「N10」が圧倒的に多い。('N・S'は独自には配置しなかったのも系列社記者)

今回のイラク戦争では、事前に米・国防総省からメディア各社に従軍取材の意思確認が行われ、記者が部隊に埋め込まれ兵士と一体化して行動するエンベッド方式が新たに持ち込まれるなど、従軍記者のあり方についてはこれまでに多くの問題が指摘されている。

「N10」の従軍記者リポートをこのように多用した報道姿勢は、メディアのあり方を考えるうえで見落とせない内容をはらんでいないだろうか。

第6項カタルの米中央軍司令部情報は、従軍記者リポートほど突出してはいないがやはり「N10」が他局に比較して多い。

第4項「米英軍の戦闘に関する情報」と併せた第4～6項の戦闘情報の合計は「N10」25.6%、「N23」12.6%、「N・S」18.1%で、「N10」は米英軍の戦闘情報量が他番組に比較してかなり多いといえる。

イラク側の被害

第7項は、「N・S」12.5%、「N23」10.0%に対し、「N10」は6.4%と少ない。

しかも、空爆開始前にバグダッドから日本のマスメディアが一斉撤退した後は、「N10」はアンマンからの記者リポートだったのに対し、「N23」「N・S」はフリージャーナリストによるバグダッド中継が多用されて視聴者に強いインパクトを与えた。

政府の動きや記者会見

第2項「米英政府の動き・・・」、第3項「イラク政府の動き・・・」を比べると、「N10」がほぼバランスを取っているのに対し、「N23」「N・S」は米英政府の動きをより多く伝えている。

しかし、後に見るように米英政府や首脳の主張をそのまま伝えるより、言動を批判的に随所にインサートしていることの積み重ねが量的な多さにつながっているともいえる。

一方、第10項「日本政府の主張・動き・・・」は、「N23」2.9%、「N・S」5.7%に対し、「N10」は9.7%と格段に多い。

反戦運動

国際的な反戦の広がりへの伝え方は、各番組に大きな差はないが、国内の反戦運動については、「N23」が7.1%と最も熱心に伝え、「N・S」は1.3%だが、「N10」は極端に少なく0.2%で、「反戦の盛り上がり伝えていない」という多くの人々の批判を裏付ける結果になっている。

戦況解説と戦争の性格や本質を問う姿勢

「N10」は第1項「戦況解説」が17.6%と他番組に比較して多いのに対し、第16項「戦争の性格や背景にかんする企画・討論・・・」は逆に10.9%と少ない。「N23」は第16項が28.0%と各局の中で最も多い。

このことは、後の報道スタンス比較で詳しく検討したいが、「N23」「N・S」が折りに触れ戦争の性格や本質、大義を問う企画や、ゲストを迎えての討論を組んだのに対し、戦争そのものを問うことには踏み込まず、ひたすら客観的な戦況解説に終始した「N10」の報道姿勢を数字の上で示しているといえる。

表１・伝えた情報の分類と量的比較

数字は秒数（3月20,21,24,25,26,31日、4月1,2,3,4,14,15日、計12日分合計）

		NHＫ ニュース１０	TBS NEWS２３	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況解説	5057 17.6%	2792 12.4%	4158 15.1%	
2	米英政府の動き・会見・演説等	2555 8.9%	2278 10.1%	2013 7.3%	
3	イラク政府の動き・会見・演説等	2611 9.1%	1508 6.7%	1616 5.9%	
4	米英軍の戦闘に関する情報 （自局従軍記者リポートを除く）	3096 10.1%	1943 7.3%	3559 12.9%	
5	自局従軍記者リポート	2808 9.8%	103 0.5%	431 1.6%	
6	米中央軍記者会見・発表情報 （記者リポートを含む）	1627 5.7%	1068 4.8%	986 3.6%	
7	イラク側被害の情報	1848 6.4%	2241 10.0%	3443 12.5%	
8	米英市民の反応・世論にかんする情報	253 0.9%	334 1.5%	424 1.5%	
9	イラク市民の反応・世論にかんする情報	1638 5.7%	679 3.0%	748 2.7%	
10	日本政府の主張・動き	2794 9.7%	643 2.9%	1576 5.7%	
11	野党の主張動き	90 0.3%	59 0.3%	39 0.1%	
12	米英に批判的な各国政府、国際団体の主張・行動	536 1.9%	195 0.9%	699 2.5%	
13	米英に協力的な各国政府、国際団体の主張・行動	269 0.9%	588 2.6%	334 1.2%	
14	反戦運動・国際	333 1.2%	255 1.1%	456 1.7%	
15	反戦運動・日本	46 0.2%	1588 7.1%	349 1.3%	
16	戦争の性格や背景に関する企画・構成部分・討論・インタビュー等	3136 10.9%	6296 28.0%	6245 22.6%	
	放送時間計	28745	22477	27572	

(7時間59分05秒)

(6時間14分37秒)

(7時間39分32秒)

第2章 ニュース・オーダー比較

基礎データとして作成したその日の番組ごとの「ニュース・オーダー表」をもとに、調査した12日間の各番組のニュース配列を比較検討してみた。

表2「ニュース・オーダー比較・最初の項目」は、フラッシュ・タイトル、リード（冒頭のキャスターのコメント）、戦況解説などを除き、イラク戦争の事実を伝える項目が何から始められたかをもとに表にしたものである。

一見して判るように「N10」は、米英軍の動きや情報から始めている日が10日間と一番多い。他の2番組「N・S」は8回、「N23」7回となっている。

戦争が始まった3月20日の番組開始は当然のことながらどの番組も似ている。「N10」が「攻撃の第一段階」、「N23」は「一日ドキュメント」で共にブッシュ・フセイン演説・ミサイル発射・バグダッドの被害と双方の動きを同じように伝えている。「N・S」も似ているが「開戦までのドキュメント」を設け「日本政府の動き」を最初に据え、「駐日イラク代理大使インタビュー」を入れているのが目を引く。

しかし、第2項目は「N10」が「現地記者報告」で米歩兵師団従軍記者リポを最初に置いて先ず米軍の動きを伝えたのに対し、「N・S」は「攻撃後の反響」としてフリージャーナリストのバグダッド中継、アルジャジーラ・アブダビ両TVの引用などイラク市民の犠牲や空爆被害を重視し、「N23」は「各国・国内の反応」でフィリピンその他の反対デモや抗議行動、仏・ロ・中国など米英に批判的な諸国首脳談話などを並べ、明らかに編集姿勢の違いが見られる。

3月21日、「N10」は冒頭のキャスターコメントの後、直ぐに第3歩兵師団・空母キティホーク各従軍記者リポと続くのに対し、「N23」はフリージャーナリストのバグダッド中継。「N・S」も「イラク攻撃2日目」で双方の動きを伝えた後バグダッド中継を入れるなど、米英軍の動きを重視するのか、イラク市民の犠牲や空爆の犠牲を重視するのか、配列の違いが鮮明になる。

この他の編集姿勢の違いが顕著に見える日をいくつか見たい。

3月31日

「N10」が相変わらず冒頭が「米軍最前線」のタイトルで従軍記者リポ、その後に「イラク国内の最新状況」を並べているのに対し、「N・S」は最初に「空爆の犠牲・自爆攻撃・戦場で起きていること」と、この日の「N10」ではとりあげていない多数の死傷者を出したバグダッドの空爆被害を詳しく伝えている。「N23」も戦況解説に続けて「戦争ドキュメント週末から

の動き」でイラク情報省爆撃と並べて「最大の誤爆か」の字幕で50人以上死亡の市内市場の空爆被害を詳報している。

4月1日

「N10」は冒頭「米軍補給基地にミサイル攻撃」、続いて「自爆攻撃警戒する米軍」「空母艦載機最大の空爆」と従軍記者リポを並べる。「N・S」の冒頭は「首都バグダッドの状況」を生中継、「N23」の冒頭はアンマンからの記者リポだが生中継で「人間の楯に負傷者」となっている。

表2に戻って、「N10」が番組冒頭イラク側の被害から伝え始めている2日間に注目したい。3月26日はバグダッドで住宅地が空爆を受け市民14人が死亡、29人が負傷など大きな被害が出た日である。「N10」はアンマンから記者リポートでこのニュースを伝えている。この日は「N23」も冒頭スタジオからの戦況解説につづいて、直ぐに住宅地空爆のニュースをフリージャーナリストがバグダッドから中継で伝えている。「N・S」のこの日のトップは米軍発表だが「イラク兵300人死亡」である。

「N10」がイラク側情報から伝え始めたもう一日は4月15日で3番組揃ってバグダッドから伝えているが、この時期すでにバグダッドには米軍が入り大半のマスメディア記者もバグダッドに戻ってきている。

この日の各番組のトップ項目を見てみよう。「N10」は「イラク軍武器おびえる市民」のタイトルで、バグダッド市内民間住宅で大量の武器が見つかり市民が処理を米軍に要請したことなど、治安の悪化・略奪にもまして「残された武器が最も危険」と伝えている。

「N23」は、暫定政権づくりの協議開始、「N・S」はティクリートの大統領宮殿の略奪を伝えている。

その日のニュースのトップに何をすえるかは、編集上重要な選択だと思う。そこからは各番組の編集姿勢が読み取れると考える。

今回ニュースオーダーの比較で、最初の項目に何が置かれたか、その後の配列がどう行われたかを見ることによって、米英軍の動きを重視する「N10」、市民・民間人の犠牲や困難、イラク側の空爆被害などを重視する「N23」「N・S」と、調査した12日間に限って言えば、各ニュース番組の編集姿勢の違いがかなり明確に読み取れたと考えられる。

表2 ニュースオーダー比較・最初の項目

ニュース10			NEWS23			ニュースステーション		
米英軍の動きから	イラク側の被害から	その他	米英軍の動きから	イラク側の被害から	その他	米英軍の動きから	イラク側の被害から	その他
3月20日			3月20日					3月20日
3月21日				3月21日		3月21日		
3月24日				3月24日		3月24日		
3月25日			3月25日			3月25日		
	3月26日			3月26日		3月26日		
3月31日			3月31日				3月31日	
4月1日				4月1日			4月1日	
4月2日			4月2日			4月2日		
4月3日			4月3日			4月3日		
4月4日			4月4日			4月4日		
4月14日			4月14日			4月14日		
	4月15日			4月15日			4月15日	
10	2	0	7	5	0	8	3	1

第3章 キャスターのコメント

3月20日(木)

【ニュース10】

「ついにイラクへの攻撃が始まった。フセイン大統領に亡命か戦争かを迫った最後通告の期限切れの今日正午前のこと。ブッシュ大統領はフセイン政権打倒に向けた軍事作戦開始を明らかにした」「イラク側もミサイルなどで応戦。フセイン大統領は攻撃を強く非難、国民に聖戦を呼びかけた」

【NEWS23】

「ついに米のイラク攻撃が始まった。シラク大統領は将来に重大な悪影響と言明、プーチン大統領も政治的判断ミスと共に批判したが、小泉首相は、かけがえのない同盟国を可能な限り支援すると答弁。世界が大きなコーナーを回った感じ。この戦争の正体は何か、ゲストと伝えたい」

「世界が変わった日」＝「多事争論」 筑紫キャスター

「ジャーナリズムはものごとを誇張しがちだが、今回は明らかに世界が変わった日だ。圧倒的な力を持つ国が世界を自分の考えどおりに変えることに着手した。国際協調がこれほど軽んじられたことは例がなく、日本の姿は国際協調の場で消えかかっているという指摘も。自分たちの国がどんな姿になっていくのか、自らに問いかける日でもある」

【ニュースステーション】

「ニューヨーク国連本部には、ピカソの『ゲルニカ』がかかっている。スペイン内戦で焦土と化した街が題材。描かれているのは帝国主義と国益追求の文化に踏みにじられた市民の命だ」

3月21日(金)

【ニュース10】

「イラクへの攻撃は2日目を迎えた。米軍は地上部隊を投入、首都バグダッドへ向けて前進している。英軍も本格的軍事行動に。バグダッドをめざす地上部隊は、きょう午後5時の段階で既にバグダッドの南200キロまで進む」

「バグダッドに向けて前進しているのは、地上部隊の主力第3歩兵師団の部隊で、時速40キロ以上のスピードで進む」

【NEWS23】

「超大国アメリカの指導による帝国の戦争は2日目に入った。空爆に加えて地上戦も開始。その一方で、世界各地で反戦のうねりも高まっている」

【ニュースステーション】

「バグダッドからの映像には昨日にも増して爆発音とともに、大きな炎と黒煙が映し出されている。しかし米は本格的な攻撃はこれからだと言っている」

「バグダッドでは、米軍がフセイン大統領らに的を絞った空爆が続いている。クウェートに展開する地上部隊は、国境を越えてイラク領内に進撃した」

「N10」は、20日、21日とも、他番組キャスターが今回の戦争について一定の批判的な感想を率直に述べたのに対して、客観的情報をそっけなく伝えるというスタイルで通し、憲法上、戦争は許されないのだという公共放送の規範を無視してしまっていないか。

「N23」は、開戦初日は攻撃反対国の首脳と小泉首相の発言を対比させ、世界がコーナーを回った感じと指摘、翌日は超大国アメリカによる帝国の戦争と位置づけるなど、戦争に批判的な姿勢をはっきりさせた。20日の「多事争論」では筑紫キャスター自身が「世界が変わった日」をテーマに、圧倒的な力を持った国が世界を自分の思うがままに変えようとする危険性と、自らの国の将来を真剣に考えるべきことについても力説。

「N・S」の20日は、冒頭ピカソの『ゲルニカ』を例に今回の戦争を「人類の営みで最も愚かで悲しい行為」と表現し、21日は、バグダッドからの映像に「前日にも増して大きな炎と黒煙が上がっている」と心情をのぞかせてコメントした。

3月24日（月）

【ニュース10】

「5日目、空爆を続ける中、米英軍の地上部隊はバグダッドに迫っている。イラク軍は局地的にはげしい反撃をつづけ、米軍は10人死ぬなど最も大きい被害を受けている」と米、イラク双方の動きを客観的に報道、番組のラスト・コメントはなし。

【NEWS23】

「イラクへの攻撃が始まって5日目、米英軍の作戦は順調とされているが当初の見通しとは異なる読みちがいも出ている」とやや米に批判的。ラストは視聴者からのメールでイラク戦争賛否、日本の政治やアメリカへの意見を紹介しているのが「N10」「N・S」にない特徴。

【ニュースステーション】

「リアルタイムで伝えられる衝撃と恐怖、地上戦で飛び交う砲弾、とらえられた兵士のふるえる声、ブッシュ大統領のいうイラクに自由をもたらす為の戦争です」とやや文学的な表現でイラク戦争に批判的なコメント。

番組ラストでは評論家寺島実郎氏の日本人の歴史観が試される戦争だというまとめで終わっている。

3月25日(火)

【ニュース10】

「当初、米英軍は圧倒的有利が伝えられていたが、地上戦に入り局地戦で戦死者が相次いでいる。まもなく米英軍はバグダッドを守る共和国防衛隊と対峙する見通し、ブレア首相のいう最も重大な局面をむかえようとしている」と客観報道、ラスト・コメントはなし。

【NEWS23】

「ここへ来て死傷者の多さなどから、アメリカの世論では長期化を懸念する声も出はじめている」と。

ラストは筑紫キャスターが「多事争論」で「テレビゲーム」について。「子供にとって現実とゲームの区別がつかない、そんな子供がどう育っていくかが私はこわい気がする」と発言、この「多事争論」はジャーナリストとして筑紫キャスターが発言するのが他局にない特徴。又視聴者のメールでイラク戦争についての様々な意見を紹介している。

【ニュースステーション】

「机の上で練り上げられたシナリオには命の重さという概念は存在しないようです。米のパウエル国務長官はいいました『これはテレビゲームでなく戦争なんだ』とやや文学的表現、ラスト・コメントはなし。

3月26日(水)

【ニュース10】

「バグダッドの住宅地が爆撃を受けた。イラク当局は少なくとも14人死亡、30人負傷したと伝えた」(この後、アンマンから中継でイラクの国営テレビ局が巡航ミサイルで攻撃されたこと、米英地上軍を阻むのはイラク軍ばかりでなく、すべての視界をさえぎる猛烈な砂嵐だと放送) ラスト・コメントはなし

【NEWS23】

「砂嵐とイラク軍のゲリラ戦で米英軍の進撃はやや停滞ぎみです。米英軍に何か誤算があったのか検証します」と米英側に批判的なコメント、ラスト・コメントはなし。

【ニュースステーション】

「猛烈な砂嵐の中をバグダッドの玄関先までセマッタとする米英軍。イラク軍は一般市民に向けて手段を選ばずに闘えと命じた」と客観報道、ラスト・コメントはなし。

3月31日(月)

【ニュース10】

冒頭コメントは、米・イラク双方の動きに触れ公平性に配慮し、見解や評価を加えない客観報道。

【NEWS 23】

冒頭で「初め衝撃的な爆撃に驚いた人間も連日の猛爆で見慣れてしまうというところが戦争の怖いところではありますが、確実に人は死に続けています」と戦争の非人道性に触れる。「長期化の様相を帯びつつあります」と懸念。

【ニュースステーション】

「イラク攻撃では誤爆による一般市民の犠牲が続出しアラブ各国が怒りの行動に出始めています」とコメント、「N10」との違いを見せている。

ラストで『「バグダッド四日で包囲」の甘い観測も。チェイニー『われわれはイラクで解放者として歓迎されるだろう』、ラムズフェルド『戦争の期間6日間ないし6週間』とも。彼らが甘い見通しをしていたことを私たちは忘れないようにしよう』（清水コメンテーター）といずれも戦争長期化への懸念と見通しの甘さへの批判をにじませているのに対し「N10」はこの2点には触れていない。

4月1日(火)

【ニュース10】

「首都バグダッドの防衛にあたるイラク共和国防衛隊、首都攻略を伺うアメリカ軍の地上部隊。各地で激しい戦争が続いています」と双方の動きを並列に並べ論評抜き。

【NEWS 23】

「イラク戦争ですが今夜は『戦争とは人を殺すことだ』と言うことを改めて示す話が集まっております」と非人道性を訴える。

【ニュースステーション】

「大特集を組んであります。タイトルは『民主化という名の戦争』。今起きているイラク戦争の本質は何なのか考えてみたいと思います」と戦争の本質を問う姿勢を示している。

4月2日(水)

【ニュース10】

この日も「首都バグダッド攻略を狙うアメリカ軍とこれを阻止しようとするイラク共和国防衛隊。双方の地上部隊の間で開戦以来最大規模の戦闘が行われた模様です」と等距離に双方の動きを並列。

【NEWS 23】

冒頭「テレビで見ていると良くわからないんですが空爆が続くバグダッドに身を置いている

と、一番強く身体に感じるのは風だそうです。つまり爆風です。数キロ先に着弾しても爆風で椅子から転げ落ちるほどだそうです。それが一日数百発という単位で打ち込まれるわけですから私たちの想像を超えるところがあります」と市民の感覚・目線で戦争を捉えようとしている。さらに「多事争論」コーナーで「ベトナム化」を設定、筑紫キャスターが「民間人の死傷者が次々に出始めている。攻め込んだ側には、一般住民なのか攻めかかってくるのかわからないのがゲリラ戦。近年少年兵や女性も。安全のために先ず相手を撃ち殺すことに。ベトナム戦争で起きたことにだんだん似てきた。ちなみにベトナム戦争の死者の95%は民間人。『戦争はそういうもの』と考えるか『だから戦争はいけない』と考えるか。私たちの判断も問われている」とここでも戦争の非人道性を問う姿勢を明確にしている。

【ニュースステーション】

冒頭で「自由をもたらすために使われた巡航ミサイルはすでに700発、精密とされる誘導爆弾は9000発を越えています。誤爆や兵力不足という作戦ミスの指摘を吹き飛ばしたいペンタゴンが新たな命令を下しました」とアメリカの主張する戦争の大義名分と戦争のもたらす非人道性を対比してコメント。

ラストは「失敗と判っているにもかかわらず、そして戦争の痛みを知っている人がアメリカ人でも反対しているにもかかわらずリーダーが暴走してしまう。これは58年前日本が経験したことと全く一緒で、でもその結果起こったことは罪のない市民が傷つくということなんですよ」（森永コメンテーター）、「たしかに一番必要なのはスマートリーダーかもしれません」（久米キャスター）と名指しを避けながらも米英指導層への批判を展開している。

客観報道とは、人道的な視点に立つ批判や見解をも排除し等距離を保つことなのだろうか？

4月3日（木）

【ニュース10】

この日の冒頭は、「開戦から2週間。アメリカ軍などの地上部隊は首都バグダッドへの包囲網を狭めています」と事実のみの客観報道。

【NEWS23】

「N10」と同様米英軍のバグダッド包囲の情報を伝えた後、「このまま一気に攻め込むのか、それともいったん態勢を立て直すのか、世界はその行方を見守っています」と人々の懸念を伝える。

【ニュースステーション】

「あっけない大勝利が間近なのか、イラクの思う壺の展開なのか。いずれにしても人口500万人の首都での決戦は避けられない情勢です」、中間では「アメリカは繰り返し『罪のないイラク市民の犠牲を避けるためにあらゆることをする』と。ブッシュの開戦演説でも同様の強調。

国連決議なしで踏み切った武力行使ですからこういわざるをえないが、民衆を巻き添えにしない戦争ありえない。パウエルさんがいったように『これが戦争というものだ』というのが本当のところではないですか」（清水コメンテーター）と民間人への被害の拡がりを懸念している。また、「国連の決議ナシの武力行使」と指摘、米英軍の開戦に批判をにじませている。

4月4日（金）

【ニュース10】

「イラク戦争は、アメリカ軍地上部隊が首都バグダッド郊外のサダム国際空港をほぼ制圧するなど、戦況が動いています。今夜も最新情報をお伝えします」とあくまで客観姿勢。ラストコメントも「イラク戦争関連のニュースを終わります」という程度でそっけない。

【NEWS23】

トップが新型肺炎関連で、イラク戦争についての筑紫キャスターのコメントはなし。ただ、ブッシュがなぜ支持されるか、について、米海兵隊基地での演説を素材にしたワシントン支局金平記者のリポートを受けて、筑紫キャスターは「アメリカとそれ以外の世界の空気がまったくちがうのがどんどん進んでますね。とっても危険なことですね」とブッシュ支持のアメリカの空気に懸念を表明した。

【ニュースステーション】

イラク戦争関連ニュース冒頭は、久米キャスター「アメリカの地上部隊はバグダッドの攻略に向けて北上し、一部の部隊は、イラク軍が生物化学兵器を使う恐れのある危険領域、レッドラインを越えています」と戦況を伝えるコメントから入っている。

やや気になるのはレッドラインという言葉だ。“イラク軍が生物化学兵器を使うおそれのある危険領域”、という評価は、テレビ朝日独自の判断ではないだろうから、これはアメリカ軍側の表現であろう。とすれば、この表現を誰が言ったのかに触れず、無批判に使用したのはどうか、という疑問が残る。イラクが生物化学兵器を使う、ということを当然の前提としているかのような印象をうけるからだ。

ラストは、イラク戦争関連ニュースについて、メディアとしての検証を日々やることが務めだ、という萩谷順コメンテーターの発言をうけて、久米キャスターが「湾岸戦争の時から我々ずっと同じ悩みを抱えているわけですが、ニュースステーションは、なるべく情報の出所は、これはアメリカ軍側から、これはイラク軍の発表、これはほかのマス・メディアはこう伝えていますが、と、なるべくニュースの出所はきちんと伝えるようにしていますので、みなさまもお気をつけてごらんになっていただきたいと思います」と、ニュースに“出所”があり、視聴者が“気をつけて見る”必要があるものだとの注意を喚起した。

4月14日(月)

【ニュース10】

冒頭「北朝鮮による拉致被害者5人が帰国してから半年。ホームビデオで撮った心の中、イラク戦争最新情報に続いておつたえします」

「開戦から26日、米軍はイラクのバグダッドをはじめすべての主要都市を制圧した。テイクリートはフセインの重要拠点だが予想した抵抗はない」というカターの米中央軍指令部コメントもふくめて戦況を伝える。

ラスト「暫定政権を立ち上げるために不可欠となっているのが治安の回復だ。その障害となっているのが自爆テロによる攻撃。アメリカ軍はイラクと合同でパトロールを始めたが、以前（フセイン政権時）の警察を引き継ぐ事は問題を複雑化するとみられており、フランス司令官のバグダッド入りが戦争集結にむけての始まりか、それが今後の最大の焦点」と市瀬記者のコメントでイラク戦争関係をむすぶ。治安回復の障害に自爆テロをあげるだけでよいのかどうか。

【NEWS23】

冒頭「大統領の故里テイクリートは制圧され、豪華な宮殿の内部映像も入ってきた。イラクで戦闘は収束しつつあるが、政権の崩壊に伴って治安が悪化、バグダッドでは掠奪・破壊で混乱が大きな問題となっている」。

【ニュースステーション】

冒頭「イラクの北、テイクリートという都市があります。フセイン生誕の地、イラクにとって最後の拠点といわれていました」とイラクの地図を背景に紹介。そのテイクリートが制圧されたことを、アルジャジーラの報道、米中央軍司令部の発表双方の情報で紹介、インサート映像を交えたバグダッド市内の治安の悪化の状況まで圧縮したかたちで伝える。

ラスト久米キャスター「治安の責任はアメリカにある。水も食料もないではお年寄りや子どもが犠牲になる。これではフセイン政権よりも悪くなってしまう」を受けて、ゲストの荻谷コメンテーターは「治安、公衆衛生の責任が米英占領軍にある」としつつ、「フセイン政権が、敗戦国だったドイツや日本と異なり、敗北で政府の組織機構が消失してしまったことは米英政府の誤算だった。フセイン政権は匪族のようなものだった。被害を受ける人の救済に緊急、最大の努力をしなければならない。」と応える。

水や食料などの問題は「明日、明後日に解決しなければならないことだ」久米キャスターが発言を促す。「フセインは6カ月の食料を配ったといていたが実際は1カ月、我々をだました無責任な政権だった」とこたえるコメンテーター。二人の間に微かなすれ違いを感じるやりとりだった。

4月15日（火）

【ニュース10】

冒頭「イラク戦争は戦後復興に焦点が移ってきている。アメリカから“悪の枢軸”と名ざしされた北朝鮮はイラク戦争をどう見ているか。イラクの統治をどのようにすすめてゆくのか、その体制づくりが急がれている。」

ラストは暫定統治協議会の行く先不透明さを指摘、「米英は協議会の主導権を握っていない、…」という字幕。しかし暫定統治協議会の主導権はアメリカがおさえており国連もわき役にされているのは周知の事実でこの表現には違和感がある。

【NEWS23】

冒頭「イラク戦争は戦闘の山をこえたが、次なる復興支援を視野に入れる中で早くも問題がもちあがっている。」

ラスト「イラクの未来をアフガンから問いかける」をうけて、ゲストの中村哲医師はアフガンの状況を説明、「アフガンはすでに破綻している」と結ぶ。

【ニュースステーション】

冒頭「イラク戦争の後を気にしつつ、お祭り騒ぎ（金日成生誕の祝賀行事）です」と、アメリカのイラク戦争を視野にいれ、国民が指導者に結集してゆくように意図した北朝鮮の祝賀行事を批判的につたえる。

第4章 ワシントン特派員報告

3月20日(木)

【ニュース10】 手嶋龍一ワシントン支局長

「ブッシュの真意」「特殊部隊ヘリ不時着」を中心に語る。「米、イラクには圧倒的な軍事力の差。ハイテク兵器の25万兵力を投入できたが、イラク国民への攻撃との印象を避けるため、フセイン政権中枢に絞って限定的な攻撃。米国防総省の発表では、米特殊部隊のヘリがイラク領内で不時着、開戦前の工作裏づけた」

【NEWS23】 金平茂紀ワシントン支局長

「CIAが攻撃進言」「諜報機関重視の体質如実に」をキーワードに「テネットCIA長官がフセイン抹殺のチャンスは今と進言、ブッシュが攻撃のゴーサイン。軍事より諜報を重視するブッシュの体質が如実に。また、ワシントンの住民が攻撃の第1波を待ちつづけるという異様さも明らかに」

【ニュースステーション】 田畑正記者

「米メディアの報道の姿勢」「メディアにリーク、陽動作戦も」と。「米有力紙は『攻撃の照準はフセインだったが、第1撃では取り逃がす』と報じる。テレビメディアは攻撃開始の詳細を報道、リークではないかという感じ。戦争を仕掛けるブッシュ政権の力の前には、メディアもプレイヤーになってしまう怖さが」

3月21日(金)

【ニュース10】 手嶋支局長

「地上戦への対応」「油井確保」について。「ブッシュは会議で、攻撃全般が順調と自信を示す一方、生物化学兵器への備えと油井の制圧を指示。湾岸戦争後の経済で失敗した父の教訓から、油田を守れと前線の兵士にゲキを飛ばす」

【NEWS23】 金平支局長

「フセイン生死の消息」「戦争報道テクノロジー」について。「ワシントンの最新情報もフセインの生死に関するものばかり」「米メディアは、ビデオフォン・自動追尾装置を使い、砂漠を走りながら延々と生中継、戦争テクノ同様、戦争報道テクノも進化？」

【ニュースステーション】 田畑正記者

「米軍南部進攻とイラク軍の動向」について。「米軍は、今回の作戦がフセイン政権の内部崩壊で奏効と評価。忠誠心の高い部隊幹部との接触で、複数の幹部が降伏の意向と、さまざまな情報流す。イラク国民向けのリークの可能性も」

「N23」金平記者は20日、諜報機関を重視するブッシュの体質を指摘、21日はフセインの生死に関心が集中する米メディアの異常さや、ハイテクを使ってリアルタイムで戦争を伝えようとするテレビメディアの姿勢に疑問を呈した。

「N・S」20日の田端記者は米メディアの報道姿勢に触れ、密室での会議のもようをメディアがいち早く伝えた裏に、政権からのリークの疑いを指摘し、自分たちも含めて戦争推進のプレイヤーになる危険性に警鐘を鳴らした。

3月24日(月)

【ニュース10】 この日は手嶋支局長が2回出演。

1回目は「4日振りに演説したフセインが本物かどうかCIAが分析している。又フセインの居どころをイラクに潜入させたエージェントや同盟国の情報機関と連携しながら情報収集している」

2回目はブッシュ大統領と父ブッシュ元大統領の因縁話。「父は12年前、同じ敵フセインに挑み圧勝した。父はテレビには出ないと言っていたがNHKに次のように話してくれた『イラクは息子の問題だ。大統領は評論する父親を必要としない』と。手嶋記者の特ダネ意識が気になるレポート。

続けてワシントンの山下記者は「12年前は国連決議を取り付けて勝利したが今回は国連の支持は取れなかった。厳しい流れになる」とレポート。

【NEWS23】 金平支局長

「アメリカは91年湾岸、コソボ、ソマリアとメディア戦略を学んできている。イラクの米基地ではメディアの映像が流されていて、士気高揚のためにメディアを積極的に使っている」

【ニュースステーション】 田畑記者

「米軍に被害出る」というレポート。「マイヤーズ統合本部議長は『米軍の誤射やヘリの墜落などは毎日何千回もやっていたらこういう事故は起きるもの』と淡々としていた」。

3月25日(火)

【ニュース10】 神子田記者

「イラク戦争・米国経済への影響」というレポート。「影響を考えてブッシュはイラク戦費の公表をひかえている。マーケットが反応し景気の足を引っぱりかねないからだ。議会予算局は1ヶ月で終わって750億ドル＝9兆円超かかると見込んでいる。爆弾の大半が精密誘導爆弾で莫大な費用がかかるのは間違いなく、ブッシュ政府は今年度の財政赤字を36兆円と見込んでいる」。

このレポートは開戦6日目という時期でもあり、他局にないインパクトある内容だった。

【NEWS 23】 金平支局長

「戦費として9兆円の追加予算案をブッシュは議会に提出した。議会は民主・共和とも協力的で、挙国一致体制が出来上がったといってよい。ブッシュも長期戦を覚悟している」。

3月26日(水)

【ニュース10】 手嶋支局長

「きのうライス補佐官が国連のアナン事務総長に協力を求めた。今度の闘いの後には膨大な復興資金が必要になっている事が明らかになってきており、日本など同盟国から協力を得るため新たな国連決議を採択したいというのが米英の本音である」。

【NEWS 23】 金平支局長

「戦争はまだ始まったばかりだというラムズフェルド国防長官の発言はバグダッドの攻防戦がいかに困難を伴うものであるかを示すシグナルと受け取ることができる。今回放送された米捕虜の映像やフセイン大統領の健在ぶりを示す映像はアメリカにとって目ざわりそのものでした。アルジャジーラ TV をワシントンではホスタイルメディア（敵のメディア）と決めつける言葉もきかれるようになった」とアメリカ国内のイライラ気分をよく伝えているレポート。

【ニュースステーション】 田畑記者

「開戦から1週間で米英軍の死者が45人、うち誤射などが24人、最新の NY タイムズの世論調査では戦争が順調と思う人が44%から32%へと下がった」。

3月31日(月)

【NEWS 23】 金平支局長

「ラムズフェルド国防長官 作戦は順調??」のタイトルでレポート。政府・軍の発表をそのまま伝えるのではなく、先ず「アメリカで作戦計画に批判が出ている」ことを紹介。続いてラムズフェルド長官の混乱する弁明をVで「短期決戦(3/21)」「いつまで続くか判らない(3/26)」「地上軍日々増強、当初の計画通り(3/30)」「兵士数の判断はフランス司令官が作成」と日を追って伝えた後、戦争を支持するアメリカ世論の動向について「この戦争初めから勝敗が決まっているほど戦力に差。むしろ、むごい勝ち方（市民多数の犠牲）へ懸念」の一方、「世論・メディアには戦争への疑問ない」と伝える。

最後は「ピーター・アーネット記者『戦争は失敗』発言で、NBC解雇」と政府寄りの米メディアを象徴する事件を取り上げている。

4月2日(水)

【ニュースステーション】 田畑記者

「アメリカの思惑は」のタイトルで米政府の動向を伝え、「このままのペースで行っても戦争、5月下旬まで」と長期化への懸念で結んでいる。

4月3日(木)

【ニュースステーション】 田畑記者

「ヒッラの被害を NY タイムスが報道。しかし戦争報道の中では圧倒的に小さい扱い」「劣化ウラン弾の報道、アメリカ国内では見当たらず。アメリカのメディアで劣化ウラン弾使用に疑問呈する報道今のところなし。当事国のメディアになっている印象」と政府寄りの米メディアの状況を批判的に伝えている。

4月4日(金)

【ニュース10】 山下毅記者。

「“終戦のあり方”元国防次官が語る」というのレポート。湾岸戦争時、戦争終結に大きな役割を演じたというフレッド・イクレ元国防次官を紹介し、彼の著書「EVERY WAR MUST END」がパウエルに影響を与えたとしている。その上でイクレ氏の「早く戦争を終結させるべきだ」というインタビューを伝えた。

レポート自体は特段のことはないが、イラク戦争の焦点が、いつ停戦するかに移っている、と印象づける効果は生むかもしれない。

【NEWS23】 金平支局長

「ブッシュ大統領 人気のワケ」というレポート。ノースカロライナのキャンプ・ルジュン海兵隊基地でのブッシュ大統領の演説を取材。“まるでハリウッドスターを迎えるような熱狂ぶり”というスーパーに冷ややかな取材者の視線をにじませる。

兵士のインタビューでも「ブッシュはイラクの人びとにも温かい」「演説を聞いて私たちは良い事をしているという気になった」などの声を紹介。その無批判で、楽天的な兵士の雰囲気伝えた。

さらに、アメリカではブッシュはトルーマン以来と評価する声があるが、第二次大戦と違うのは戦場からの悲惨な映像が連日伝えられるなかで、ブッシュをみるアメリカ以外の国の目は厳しくなっていると指摘、イラクの傷ついた子どもの映像をレポートに組みこんでいる。

「N10」がアメリカ政権内部の人物の単純な紹介であるのにたいし、この日の「N23」は、取材者の批判的視点が感じられるという点が印象的だ。

4月14日(月)

【NEWS 23】 ワシントン記者の座談会

アメリカの動向と追随する日本政府を問う。(具体的内容は第8章企画・特集欄)

【ニュースステーション】 田畑特派員

イラクの治安回復へ米軍の対応、暫定政権づくりへの影響、米政府のシリアへの激しい攻撃・圧力は何を狙うのかなどをレポート。

4月15日(火)

【ニュースステーション】 出町記者

「暗雲漂う『戦後経済』 株安どこまで～」と戦争の経済への影響を短くレポート。

第5章 戦況報道（V 構成・記者リポートなど）

3月20日（木）、21日（金）については開戦直後のため、該当するものがほとんどない。

3月24日（月）

【ニュース10】

タイトル「開戦から3日間のまとめ」

英スカイニュースを使用、イラク南部の戦闘の生中継、デビッド・ボーン記者のリポート、米軍フランクス司令官、ブッシュ、フセインの声明や記者会見、世界各地の反戦デモも入れながら5分間にまとめたもの、客観報道。

【NEWS23】

タイトル「公開された米軍捕虜」

アルジャジーラ TV が米捕虜と遺体を公開、ラムズフェルド「ジュネーブ条約違反」と非難。

【ニュースステーション】

タイトル「本格攻撃はじまる」

バグダッド市街の空爆、米・イラク要人の発言、CNN 従軍記者のリポート「これはドラマではありません、実際の戦闘です」、アルジャジーラ TV の赤十字社50人死亡報道など、米・イラク双方の情報を公平に出す。

3月25日（火）

【ニュース10】

タイトル「まもなく重大な局面」

イラク南部で米兵10人、イラク兵数十人が死亡、英ブレア首相「まもなく共和国防衛隊と遭遇し、もっとも重大な局面をむかえるだろう」

イラク国営テレビ、カルバラ市民が氣勢を上げる様子を放送。

【ニュースステーション】

タイトル「米英地上部隊バグダッドまで80km」

フセイン、サハフ、アジズらの「闘う」発言、米フランクス司令官「順調」発言、投降したイラク兵、英下院議会でブレア首相「戦死者の遺族に哀悼の意を表します」、英国の世論調査（ガーディアン紙）イラク攻撃支持54%（1週間前は38%） など。

3月26日（水）

【ニュース10】

タイトル「バグダッドの住宅街に爆撃」

「今朝住宅街に爆撃、14人死亡、30人負傷した」

タイトル「反撃と砂嵐、米英軍阻む」

「はげしい砂嵐、米兵士インタ『目に砂が入り、息も出来ない』

イラク国営テレビ、米軍の無人偵察機を撃墜と放送」

【NEWS 23】

タイトル「迫る首都攻防戦」

バグダッド市内の久保田記者の電話リポート「いままでと比べものにならない位の空爆です。初めてハイテク爆弾が使われたようです」

「開戦以来最大の戦闘がナジャフであった。150－200人のイラク兵が死亡」

共同通信によると「カルバラでクラスター爆弾が使用された」

米捕虜となった兵士の映像、アメリカでは反戦気分が高まるのをふせぐため、この映像はほとんど放送されていないとのコメント。 4 '40 "

【ニュースステーション】

タイトル「バグダッド南で激戦」

「アメリカ側 イラク兵300人死亡と発表。イラク国営テレビの放送が空爆で一時途絶。バグダッド市内の市場を空爆、29人が死亡」など。

米軍が使用した可能性のある電磁波爆弾・クラスター爆弾などについて「N・S」は報道したが「N10」は全く報じていない。

3月31日(月)

【ニュース10】

タイトル「戦況・自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」

「巡航ミサイル、イラク情報省を直撃」「ゲリラ戦と掃討作戦（砂漠の戦場で死亡した兵士を悼む米兵たち）」「米統合参謀本部マクリスタル作戦副部長の自爆テロへのコメント」「ナシーリア・イラク南部・バスラなどの米英軍掃討作戦」など米英軍の前線の動きを中心に141秒。

これに対しイラク側情報は被害には触れず「ラマダン副大統領会見」、アルジャジーラTVの「アラブ諸国から志願兵集結」の2項で31秒。

ほとんどコメントなしで映像とテロップのみの客観報道だが米英の動きを中心に伝えているのが特徴。

【NEWS 23】

タイトル「イラク戦争ドキュメント～週末からの動き～」

「米英軍イラク情報省を攻撃」は「N10」と同じだが、続けて「最大の誤爆か50人以上死亡、市場でミサイルと見られる爆発」とイラク側の被害、民間人の犠牲を取り上げている。

タイトル「進めぬ地上部隊」

「補給活動に遅れ、一日一食の部隊も」と米軍の窮状もきちんと伝え、「世界中で反戦」、「日本の難民用テント到着」のヨルダン情報など前線の動きだけでなく多角的に伝えようとしている。

【ニュースステーション】

タイトル「空爆の犠牲・自爆攻撃・戦場で起きていること」

「イラク市民の被害確実にひろがり」の視点で「週末の空爆バグダッド市内（アル・シュラ地区 28 日夜）」の棺を運ぶ市民の姿、「住宅街が・・・」と告発する米慈善活動家インタビュー、サハフ情報相会見「負傷 107、殉死 68」などを伝える。

また「14 歳の少女が殺され家族も重傷」と伝えるアルジャジーラ TV を引用、少年インタビュー「僕たちは台所にいてミサイル爆発、弟は内臓が出ていた」、アルジャジーラ記者「アメリカは清潔な戦争といていたはず」など市民の犠牲と告発の声を伝えている。

さらに「米ミサイル隣国サウジにも被害、米司令部記者会見、レニューアート『サウジ領土に数発着弾、発射行程見直し約束』」「前線部隊バグダッドまで 100 km 足踏みしたまま、食事が一日一回になることも。ゲリラ、補給路寸断ねらい攻撃、増援部隊展開一ヶ月かかる」など米軍の誤射や窮状を伝える記者リポも入れている。

この日は民間人の被害・犠牲を重視した「NEWS23」「N・S」に比較して「N10」がイラク側の被害や犠牲にほとんど触れず米英軍の動きの方を大きく詳しくあつかっていたこと、

「NEWS23」「N・S」がいずれも米軍地上部隊の誤射や窮状に触れていたのに対し「N10」はその点に触れず、むしろ「死亡兵士を悼む米兵の姿」の方を伝えていることなど報道姿勢の違いがはっきり出ている。

4月1日(火)

【ニュース10】

AP 通信従軍記者リポなどによる米英軍の前線の動きとアンマンからのサハフ情報相会見報道。

【NEWS23】

タイトル「米兵発砲、女性と子ども 7 人死亡」

「イラク民間人 7 人を誤射」のテロップ、ワシントンポストを引用「発砲後、小隊長に『もっと早く警告射撃しないから家族を殺してしまった』と叫ぶ隊長」発言の他、「1 日シャトラでもトラック運転手射殺される。軍服の着用・武器所持なし」など民間人の犠牲を伝えている。

もう一本の「本格的な地上戦へ」では、「バグダッド南東 80 キロ激しい戦闘、ストレスのためカメラ前で芝居する兵士も」「自爆攻撃起こった中部では米軍一軒一軒探索、(AP 通信)銃所持などで村人 4 人連行」、など公式発表とは別の米軍の生の姿も伝え、親米エジプト・ムバラク大統領発言「イラク戦争は 100 人以上のビン・ラディン氏登場させる」も紹介した。

【ニュースステーション】

タイトル「最前線 激しい戦闘が」

「ヒンディーア、人口 8 万人の都市で市街戦が。イラク側死傷者捕虜 100 人、死者 5 人以上、犠牲はイラク国民」とこちらでも民間人の犠牲に目を向け、フラッシュバックでブッシュ「日に日に勝利は近づいている」、(負傷したイラクの子数カット)、ラムズフェルド『連合軍はすば

らしい』、(子どもの遺体嘆く父親)、締めコメントは「アメリカが攻撃を始めて 298 時間、奪われた民間人のいのちは 420 人以上」

タイトル「最新情報」

「シャトラ、米検問所で海兵隊員が小型トラックを攻撃、非武装のイラク人男性 1 人が死亡」「サハフ情報相『人間の楯攻撃受け数人負傷、バビロンで空爆受け子ども 9 人が死亡』」と民間人の犠牲重視の視点からの報道、「イラク攻撃は犯罪」とするシリア政府のアメリカ非難声明で結ぶ。

この日も、前線の動きや公式発表を中心とした「N10」の報道と、イラク国民の犠牲を重視する「NEWS23」「N・S」の姿勢に際立った違いが読み取れる。

4月2日(水)

【ニュース10】

カルバラからABC記者リポ「1時間前、チグリス川渡ろうとして激しい抵抗に」「次の目標ユーフラテス、渡ればバグダッドまで 20 マイル」。さらに救出された女性兵士・米軍発表特殊部隊撮影映像>「米司令部、捕虜一人救出を明らかに」「怪我してるが容態安定とのこと」と米メディアの引用と、公式発表をそのまま報道。

【NEWS23】

タイトル「4月2日戦争ドキュメント」

「カルバラへ最大規模の地上戦」「女性捕虜を救出」までは「N10」と同じだが、「成果ばかりが強調されるアメリカの発表の陰でイラク国民の犠牲者が増えている」と続け「アルヒラ、クラスター爆弾(空中で数百個の小型爆弾に分かれ着弾)使用、民間人 33 人死亡 310 人負傷」を伝える。「イラク北部に展開するアメリカ兵からは補給・兵力による士気低下」の項では「戦争を始めたのはぼくじゃない。来たくてイラクに来たわけじゃない」とカメラに語る兵士の肉声も。

「“作戦に不備?” 批判に、この人からは責任逃れな発言も、(ラムズフェルド記者会見)」、「パリ郊外、反戦訴え石油会社のビル登る。反戦ヒーローのアラン・ロベール氏発言『国連の一員米英が戦争、これは非合法』」、「米英軍に暗雲、砂嵐『カシマーニ』の警告」など米英軍への批判的視点を据えた編集。

【ニュースステーション】

タイトル「バグダッド南方米軍が大規模攻撃」

「アメリカ軍、本格的地上戦開始」「フセイン、国営テレビ通じて徹底抗戦呼びかけ」までは他番組と同様だがその後、「イラク戦争の最前線、すでにこうした市街地にまで及んでいる」と民間人が巻き込まれることへの懸念で結んでいる。

もう一本「激しい空爆経て本格地上戦へ」も戦況報道は他局と大きな違いがないが、「ラムズフェルド記者会見、長官への批判相次ぐ」の項では、厳しい記者の質問の矢面に立つ長官と記

者団とのやりとりが詳しく紹介され、国際世論の米政府への厳しい視線を伝えている。

4月3日(木)

【ニュース10】

タイトル「米軍バグダッドから20km地点に」「最新の動き・カルバラ付近」2本のVリポ
両方で米ABCテレビをそのまま引用、「ユーフラテス川に架かる橋掌握」のコメント、初めて
戦車が渡るその瞬間の映像、隊員インタビュー「渡る途中攻撃を受けた。我々も反撃」、連隊長「あ
の橋は重要、政権の裏庭に入るよう」の後、「橋を煙で包む必要なし米軍に掌握された。フセイ
ン、軍をバグダッドに温存市街戦長期かも」とABC記者コメントをそのまま紹介。

「米中央軍発表『米陸軍ヘリ機、F16戦闘機一機墜落』『イラク側の攻撃で撃墜された』」
など米軍の被害も伝えてはいるが、キャスターのコメントも「北上続けるアメリカ軍第3歩兵
師団の一部サダムフセイン空港周辺に到達」「複数のルートで前進続ける」と米軍側視点の戦況
報道に。勿論、後半ではアルジャジーラTV「ヒッラで空爆の死者、病院関係者『子どもふく
む3人死亡、けが人は310人に』、赤十字国際委『市民がひどい攻撃』、米軍ヒッラで激しい戦
い、これまで以上に壮絶な戦い覚悟せねば」も引用、バランスは取っているが、この日の報道
は他番組ワシントン特派員などがしきりに「政府寄り」と批判する米メディアの無批判な多用
が目立つ。

【NEWS23】

タイトル「4/3イラク戦争ドキュメント」

「米軍2機墜落」を含め米・イラク双方の公式発表を伝えているが、最後を「産婦人科病院
も空爆、多数の死傷者出た模様」で結んでいる。

【ニュースステーション】

タイトル「救出されたジェシカ・リンチさん」

家族の喜びの声を伝える一方、「ジェシカさんの所属師団の12名は先月2日以来行方不明のま
ま」とコメント、フライシャー報道官『大統領は救出成功に国の名誉見出した、大喜びだ』が
一面的な空騒ぎに聞こえる編集になっている。

その後は「バグダッド市街戦に備えて市民が銃購入」、アルジャジーラTV「確実に増える犠
牲者産婦人科の病院でも。赤新月社母子病院が被害、数十人の市民が死亡」などバグダッド市
民の動きや被害を中心に伝えている。

4月4日(金)

【ニュース10】

“米軍 国際空港ほぼ制圧”という見出しで空港付近の米軍の戦闘を伝える。スタンスは前
日4月3日と変わらない。このほかフセイン大統領の声明や停電続くバグダッド市街と空爆な
ど。市内の民兵が「徹底的に戦う」というインタビューも紹介。

また“空港制圧の道のり”という項目で、米ABCの記者リポートを紹介。その中で「ウェ

ルカム、ウェルカム」と米軍に手を振って近づく住民の映像を伝える。後は夜の暗視映像。

これら米側の情報中心の部分とバランスをとる形で、続いてアルジャジーラテレビのリポート「侵略の戦争は危険な段階にきている」を伝えた。

この中でアルジャジーラはアメリカの攻撃で死者が出ていることを伝えるなど被害を重点にリポート。

【NEWS 23】

“空港をほぼ制圧”という項目を立て、戦況報道。内容は「N10」「NS」と大きな差はない。ナジャフでモスクに入ろうとした米部隊を民衆が阻止する映像は「NS」とまったく同じ。

【ニュースステーション】

“首都空港ほぼ制圧・バグダッド停電”の項目で戦況報道。CNNロジャーズ記者の戦場リポート。イラク軍の破壊された車など。フセイン大統領の声明、バグダッド停電の映像も。開戦以来の死者、米軍同士の誤爆などの事実にもふれる。

更にクウェートの内藤正彦記者が、バグダッド市街戦の見通しについて報告。「連合軍はあと一歩というところで手詰まり状態。イラクは、バグダッドで500万人の市民の命を盾にして足止めをかける作戦です」とコメント。

この日の戦況報道では各社の差異よりも、共通性の方が目立つ。「N10」がアルジャジーラの報道を併せて紹介し、他局との違いを見せている。

4月14日(月)

3番組とも「フセイン大統領の出身地ティクリートを制圧」を伝えていて大差ない。

4月15日(火)

【ニュース10】

タイトル「米軍制圧後のティクリート」

ABC記者のリポートを翻訳放送。フセイン大統領の出身地のティクリート制圧した米軍、宮殿で搜索する模様や検問の様子「ティクリートはイラク軍の最後の激戦地になるはずだった。米海兵隊はわずかな抵抗を受けただけで午前中に市の中心部まで進んだ。今やフセイン政権の象徴は単なる写真の背景になっている」のコメント。また、米軍のバグダッド市内での地下トンネル搜索の様子をリポ「張り巡らされたトンネルの奥へ」「物資を見る米兵」「弾薬や医薬品らしい大量の品物を発見」の字幕もあり。

【NEWS 23】

ナシリーアでの暫定政権協議の様子。「この会議はイラクの暫定協議機構の発足に向け、アメリカが内外の反フセイン派のイラク人組織に呼びかけて開かれました」「またこの会議が開かれているナシリーアでは会議に反対するイラク人などおよそ二万人が集まり市の中心部でデモを行いました。デモの参加者は『アメリカもサダムもいらない』と訴えるなど、アメリカ主導の

新政権づくりに対する不信感をあらわにしました」。

【ニュースステーション】

フセイン大統領の出身地ティクリートでの米軍の搜索の様子、「連合軍は先月20日の開戦から26日目。昨日イラク全土を事実上制圧しました」。またナシリーアでの反フセイン派による暫定政権協議のレポート。

第6章 戦況解説（スタジオ中心）

3月20日（木）

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏（軍事評論家）

「作戦のねらいはフセイン政権打倒と、大量破壊兵器の無力化。作戦上短時間で済むのは要人暗殺だが、今回の成否は不明。湾岸戦時に比べ、ハイテク化がさらに進化し、高い精度とリアルタイムで戦況把握が。次ぎの作戦は南部制圧と、大量破壊兵器の無力化をいかに早くできるかがカギ」

【NEWS23】 解説者・小川和久氏（軍事アナリスト）、浅井信雄氏（国際政治学）

「ミサイルの到達時間を考慮に入れて、タイムリミットの数時間前には既にミサイル発射、CIA情報で最終目標を選択したのでは」「ブッシュ政権は5年前にイラク解放法をつくり、フセイン抹殺を目的にする異常さ」

【ニュースステーション】 解説者・森本敏氏（拓殖大教授）

「米軍は3方向からバグダッド目指すが、南部からの進撃はダム、油田破壊、大量破壊兵器の危険が。北部もクルド、トルコ問題で容易でない。バグダッド攻略に1か月以上かかると民間人に犠牲が出て非難されるので、2週間から1か月の短期決戦で攻略もくろむ」

3月21日（金）

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏

「予想より早く地上戦を開始、イラク軍の抵抗弱く、史上例のない速さで進撃。補給が間に合うか心配。肝心なのは首都の占領で、首都さえ落ちれば、フセイン政権の支配体制は崩壊へ」

【NEWS23】 解説者・浅井信雄氏

「米軍の進撃が予想より速いのは、飛行禁止区域がイラク軍の空からの攻撃の妨げになっているから。首都防衛の十分な備えが見えず、抵抗がどれほどか予測できないが、堅固な建物を市街戦に利用することも」

【ニュースステーション】 解説者・コーデスマン氏（戦略国際問題研）、田岡俊次氏（アエラストップライター）

コーデスマン「イラクの反撃の弱さは驚き。イラク側のミサイルは大半が迎撃され、影響なし。共和国防衛隊の忠誠心がカギ」

田岡「B52の投入で今後首都への猛爆も予想、地上部隊も2、3日中にはバグダッドへ。南部のイラク兵もかなり抵抗」

「N10」メインゲストの江畑氏は軍事専門家だけあって、作戦の詳細な説明は的確な部分が多かった。しかし、「戦車隊の進撃が速くて補給が間に合うか心配だ」など、説明のいたるところに氏の米英軍への思い入れが顔を出し、米軍側の立場からバグダッド攻略がスムーズに進展

することを当然視する論評が目立った。また、衛星誘導爆弾などのハイテク兵器の優秀さの誇張が目立ち、これまでの実戦で検証された実際の命中率の低さ、全爆弾中のハイテク兵器の割合の低さ、さらには劣化ウラン弾やクラスター爆弾などの非人道的兵器の使用にも言及しなかった。

「N23」、20日は現地の実際の作戦展開よりも攻撃の性格づけや裏話に重点が置かれた感じ。21日は浅井氏がイラク軍の戦闘内容についてコメントしたが、両日とも戦況解説にしては通り一遍の感も。

「N・S」、20日は軍事評論家の森本氏が戦況分析、渡辺キャスターと説明のナレーションが米英の戦力、特にハイテク兵器の性能について、それぞれ詳しく解説した。特にナレーションで、トマホークが自ら軌道を修正しながら誤差数メートルで目標を攻撃すると、何の疑いもなく説明したのが気にかかった。また森本氏も3方向からのバグダッド攻略には、それぞれ障害があるものの、2週間ないし1か月の短期に制圧したいという米側の思惑に沿った解説をした。

3月24日(月)

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏、大野元祐氏（中東調査会客員研究員）

地図と写真で示しながら、江畑「バグダッドへ進行している米英軍は早すぎる」、大野「アメリカは要人をねらっていると発表している。イラクの情報操作は（1）人道主義に訴える（2）米国の世論への働きかけ（3）国民の士気高揚（4）アラブ社会との連帯」

【NEWS23】

軍事評論家の解説はなく、佐古アナの簡単な説明のみ

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊治氏

地図を示しながら、「米英軍はイラク軍の作戦を甘く見ていた。15万の米英軍では簡単にはゆかぬ。今後の展開について、今まで砂漠の上を走っていたので早かったが、勝負はこれから。4～500万人の市街地に入って勝つという勝算が米軍にあるのだろうか」と。実証的というよりは、主観的な見方が多いのが気になる。

3月25日(火)

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏

米英軍の進軍状況、イラクのメディナ機甲師団の解説。「メディナ機甲師団、装備も古く、米に制空権を握られているので弱い。米軍は補給線を確保して本格的なバグダッド攻撃にうつる」など米軍情報にもとづいた解説。

【NEWS23】 解説者・小川和久氏（軍事評論家）

「イラクの米軍捕虜公開の情報戦は“イラクは人道的な国だ”という宣伝だ。これからは米英が望んでいない地上戦に入る可能性がある。イスラム教に忠実な女・年寄りも米軍に攻撃してくる可能性があり、そのとき米軍は対応しなければならない」「米軍は精密誘導兵器の空爆、

特殊部隊と情報機関をアフガン以来特に重視している。これで無用な殺戮を避けようというオペレーションをしている」

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊治氏

「誤爆、誤射が多いというが、湾岸戦争のときは米軍の死者の1/4は自軍に殺された。フレンドリー・ファイヤーという。これから激戦が起きると、ますます誤爆、誤射が増えるだろう」「イラク側の戦力は古いかもしれないが、戦意は非常に高い、砂嵐が強いので、この2〜3日アメリカ軍狩りをどこまでやるか見ものだ」と情動的にイラク軍寄りともとれる解説をしたのが気になる。

3月26日(水)

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏、大野元祐氏

江畑「米英軍は湾岸以来10年以上あの辺に展開しているので砂嵐対策はある程度できている。これから2万人のメディナ部隊と対戦するが、どこに隠れているかわからないので時間がかかる。ここ2〜3日が山場」

大野氏は共和国防衛部隊の組織を図解、防衛隊の訓練風景などを紹介しながら解説。

【NEWS23】 解説者・浅井信雄氏（国際政治学者）

「開戦1週間で当初いっていた速やかに終わらせるという言葉が聴かれなくなった。米軍も正規軍同士で戦えば圧倒的に強いだろうが、砂嵐とゲリラ戦には苦勞しているのだろう。アメリカでは当初戦争支持率が高かったが、長期化でガタツとさがる。カタールの米軍ではアメリカの爆撃の正確さを示すのに又ピンポイント映像を見せていたが、まだこんなものを見せるのかという感じがする。これからは新しい段階の情報戦が必要だと思う」。

浅井氏は米軍・米政府のやりかたを具体的に批判していた。

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊治氏

「砂嵐で進軍のスピードが落ちる。米軍の最強の戦車が2台撃破された。ヘリコの援護がないのでやられた」

3月31日(月)

【ニュース10】 解説者・秋元千明 NHK 解説委員

模型使用の戦況解説。「米軍、クエートから400km前進、ユーフラテス川にかかる橋2箇所を制圧、4つの方向に別れてバグダッド睨もうとしている」「101空挺師団＝『空の騎兵隊』、350機のヘリ所有、カルバラの北でメディナ師団を攻撃、ナシーリアに米軍補給の要衝作ろうとしている」「米軍、前進より立て直して空爆強化、イラクの戦力そぐねらい」「部隊の展開集結で大規模な首都攻略作戦可能に」と米軍の視点での行動・作戦の解説に終始。

【NEWS23】 解説者・佐古忠彦キャスター

模型使用で「現在の戦況」を解説している。「最前線カルバラ付近、米101空挺師団、共和国防衛隊にヘリなどで激しい爆撃」と「N10」と同じような内容を伝えた後、「反体制派クルド

人武装部隊交戦することなくゆっくり北からバグダッドへ」「補給路寸断で米英軍のスピード鈍り長期戦の見方」など周辺の動きも伝えているのが若干の違い。

4月1日(火)

【ニュース10】 解説者・大野元裕氏

この日も地図使用の解説。「共和国防衛隊、最も精鋭部隊、一個師団12,000人程度だが人数割れ起こし8,000人切る部隊もある」以下、部隊配置、トップの大統領次男クサイ氏、イラク軍の指揮命令系統などイラク軍について詳しく解説、米軍の作戦と行動解説に終始した前日とのバランスを取っている配慮がうかがえる。

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊次氏

「攻撃のポイント 橋と補給路」のタイトル。久米「イラク軍なぜ橋を爆破しなかった？」田岡「先頭の第3師団引っ張り込んで叩いてやろうと？」と推測の域を出ない解説が気になる。「米新しい橋かけて補給路拡大、しかしサダム決死隊が執拗に攻撃、輸送ヘリの空からの補給も順調とはいえない」「1個師団に1万台の車両必要といわれる。今でも大変、これからどうなるんだ。12万人の命綱伸ばし続けることできるのか」など、米英軍に厳しくイラク側に同情的になっている。

4月2日(水)

【ニュース10】 解説者・市瀬卓記者(NHK国際部)

地図使用で解説。「首都攻略に向け最大規模の地上戦開始、3つのルートから北上」「米空爆の50%以上共和国防衛隊に。『戦闘能力半分に殺いだ』『カルバラ、クートの線越えればイラク』『化学兵器使用も辞さず』の姿勢、米軍すでに防護服つける」など、米軍の情報を中心とした解説。

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊次氏

タイトル「米軍の進撃・田岡俊次の分析」

「『メディナ・ハムラビ師団の戦力50%に』、余り当てにならないかも(コソボの例引用)」「ラムズフェルドもともと5万ないし7万でやれると言っていた。妥協して12万で。それで足りないということは彼の言っていたこと事実で間違いと示され、自分で認めざるをえない。彼としては手持ちの兵力でおおむね勝負を決めてしまいたい」などの解説は、戦況の一局面でやむを得ない点もあるがやや正確さを欠いていたのではないかな。

4月3日(木)

【NEWS23】 解説者・佐古キャスター

現在の戦況を地図使用で解説。「最前線部隊すでに化学兵器の防護服着用、早期首都攻撃か追加投入部隊待ちながら体制整えるか？」

4月4日（金）

【ニュース10】 解説者・大野元裕氏

大統領宮殿付近の市街地の地理や、イラク側の情報戦やバグダッドにおけるメディアの配置などについて。

なにか独自のスタンスで、というよりは、客観的事実の紹介中心の解説。

4月14日（月）、4月15日（火）は、3番組ともになし。

第7章 番組ゲスト

3月20日(木)

【NEWS 23】

小川和久（軍事アナリスト）、浅井信雄（国際政治）、岸井成格（毎日・編集委員）、髙信彦（ジャーナリスト）、十市勉（日本エネルギー研）の各氏

「戦争の正体」＜1＞米デモクラシーの野望＜2＞新パワーバランスの出現＜3＞世界への挑戦＜4＞あぶりだされた日本の姿。

小川「ブッシュのシンプルな信念を、ネオコンが覇権主義に利用」

浅井「中東に親米政権できればメリットがあるが、親米政権ほど独裁的という矛盾」

岸井「ネオコンが外交の方向づけ、仏・独はこれまでの民主主義と異質だと警戒」

髙「今回の事態で国際外交の柱が崩壊、日本はもっとイニシアティブを」

十市「米が中東に介入する度に問題が起きる。米国型民主主義の導入も同じ」

【ニュースステーション】

森本敏（拓殖大教授）、高橋和夫（放送大助教授）両氏と萩谷順コメンテーター（朝日・編集委員）

高橋「米は孤立しているが、世界も米が必要。修正するほかない」

森本「戦勝国の管理システムとしての国連を見直し、再建の知恵を出すべき。一国主義と国際協調主義の調和必要」

萩谷「独裁・人権抑圧への関与で足並み揃わず、結局、国連が共通の枠組みをつくるほかない」

3月21日(金)

【ニュース10】

畑中美樹（国際開発センター）、高橋和夫（放送大助教授）両氏

畑中「油田火災は短期なら影響少、拡大すれば石油価格の上昇に」

高橋「ブッシュは限定的攻撃を強調、フセインは健在をアピール。米は特定部隊を攻撃、政権トップと将兵を切り離すメッセージ」

【NEWS 23】

姜尚中（東大教授）、ダグラス・ラミス（政治学）、浅井信雄（国際政治）の各氏

姜「日米関係は二国間主義症候群で、日本がこの症状から脱却できないと、奴隷の平和に」

ラミス「帝国戦争は比喩でなく、文字通り帝国になるため。国際法も無視」

浅井「長期的に見て行方が不確かな戦争に、どうしてコミットするのか」

【ニュースステーション】

水口章氏（敬愛大助教授）と、萩谷順コメンテーター

萩谷「フセインに何かあれば政権崩壊というシナリオどおりには、なっていない」

水口「反米感情が中東で高まっている。先進国の反戦の動きが、米の軍事政策にどう影響するか微妙なところに」

「N10」は、中東、イスラム社会に詳しい高橋氏、大野氏らに、戦況解説まがいのことを説明させ、イラクの権力構造が攻撃でどうなるのか、諸宗派がどう反応するかなど、肝心の解説が不十分なままだった。

「N23」20日は、小川、浅井、岸井、鳶、十市の各氏という顔ぶれで、それぞれが自分の豊富な専門知識の上にたって、米の攻撃の目的やブッシュ政権の精神構造、今後の中東での米戦略の行方など多岐にわたって意見を述べ合った。米型民主主義を世界に押し付けようというネオコン主導のこの戦争が、中東でうまく行くとはいえないという各氏の指摘は説得力があった。21日はさらに、姜、D・ラミスの両氏が、この戦争の性格が何であるのかについて根源的な批判を加えるとともに、戦争の火花が次には北東アジアに及ぶ危険性について厳しく指摘するなど、旗幟鮮明な論陣を張った。

「N・S」20日は森本氏のほかに、高橋氏、萩谷氏の多彩な顔ぶれで、国連を中心とする国際社会における米の位置づけと、米の国際戦略について自説を展開した。この中で、森本氏が国連の機能の限界を強調したのに対し、萩谷氏らが国際紛争解決の場は結局国連に期待するほかないと指摘したのが目立った。

3月24日(月)

【ニュース10】

酒井啓子氏（アジア経済研究所）でテーマは「イラク戦争とアラブ世界」。

「イエメン、エジプトの反米デモやヨルダンの難民、それにパレスチナ問題とアラブ世界全体に反米感情が高まっていて、フセインはそれもリンクさせてアラブの世論を引き寄せたいのだ」と中東専門家としての意見をのべた。

【ニュースステーション】

寺島実郎氏（日本総合研究所）でテーマは「日本のとるべき立場」。

世論調査の戦争支持31%、不支持61%や街頭の声などを受けて、寺島氏は「憲法と国際協調で生きてきた日本はいま試練に立せられている」とのべ、日米同盟31%、国連優先49%の世論調査も受けて、「今後国連の協調路線について世界の人々は気がつくだろう」と発言した。

3月25日(火)

【ニュースステーション】

高橋和夫氏（放送大学助教授）でテーマは「イラク、複雑な構図」。

「イラクはクルド人の問題や宗派の対立があり、まとまらないという意見と、もう1920年から80年間ひとつの国としてやってきたのだからフセインがいなくなっても大丈夫だという意見もある。宗教と国家という2つのアイデンティティーでいつも中東の人々は揺れているの

だ」

3月26日(水)

【ニュースステーション】

酒井啓子氏

「アメリカにここまで攻撃され、祖国防衛戦争になっている。イラク人としてのナショナルリズムが強く現れてきて『裏切り者になりたくない』という意識が市民の間にある」

3月31日(月)

【NEWS 23】

小川久和氏（軍事アナリスト）

「アメリカ、世界でも最も補給兵站重視の部隊、入り口バスの海兵隊『一日一食』？何かイラク戦略そのものに病根が？」「米、湾岸では外交努力、息子の時代外交努力全くしない、粗雑思い上がりともいえる行動で戦争に。『イラク国民アメリカを歓迎する』との思い込みも。仮に開城しても後、敵に回したイラク国民との長期化、年単位で覚悟せねば」など、米軍への厳しい批判的な視点からコメントしている。

4月1日(火)

【ニュース10】

大野元裕中東調査会客員研究員。

ほとんどイラク軍の構成や指揮命令系統などの解説に終始、戦争の性格や本質を問うコメントはなし。

【ニュースステーション】

藤原帰一東大教授（国際政治学）。

特集「『民主化』という名の戦争」を受けてコメント。「長期化にはならない。背後に中・ロいたベトナムと違う」「民主化＝アメリカの拡大」「ネオコン今後のアメリカの主流にはならない」「アメリカの今のよう政策、不安定を招く。国際主義・外交の舞台に戻らざるをえない」など、戦争の性格・背景・アメリカの今後の動きなどにも言及している。

4月2日(水) 3番組ともなし

4月3日(木)

【ニュース10】

酒井啓子氏でテーマは 「フセイン政権とクルド人」。

「トルコの一番の懸念、クルドの独立要求強まること。戦争を機会にトルコ軍、クルド自治区を軍事侵攻して自治侵害の恐れ」「パウエル、確約取ったけれど自由行動保障の裏取引の懸念

もクルドに」「バグダッド攻略南北から始まるとフセイン政権警戒を強め、クルドのキルクーク油田占領を心配、攻撃強めるのでは」「アラブの大儀掲げクルドの権利二の次、非国民裏切り者と湾岸前には化学兵器で攻撃」「バース＝復興（ルネサンス）、もともとシリアにできた政党、イラクに対する同情論生む軸に、米英軍の党施設攻撃バース党の支配壊していくねらいが」など、アラブの実情とともに、戦争に至る背景などにも言及した「N10」の中では数少ない解説。

【NEWS 23】

寺島実郎氏（日本総合研究所）でテーマは「イラク戦後の世界、日本の選択」。

「戦後日本の50年の価値が試されている。武力を紛争の解決手段とせず国際協調を心に刻んで生きてきた日本が武力解決に拍手・支持したことへの衝撃大きい。小泉ははっきり説明せぬままアメリカ支持」

「独・仏はヨーロッパの存在浮き立たせた。日本の決定にアジアの存在あったか？仮に日本常任理事国になってもアメリカ支持の一票増やすだけと失望感。広島・長崎の経験持つ日本は、世界の大量破壊兵器壊滅への主張、テロ対策でもアジア東ねて国際刑事裁判所構想への参画などの呼びかけできたはず」

「米の抑止力の中での思い込みから重層的多角的外交力取り戻すことにもっと真剣に」など。イラク戦争にたいする日本のあり方に踏み込んだ分析で、イラク戦争報道全般を通じたゲストコメントとして内容のあるものの一つと思われる。

4月4日（金）

【ニュース10】

大野元裕氏（中東調査会客員研究員）が、バグダッド市街戦の見通し、イラクの情報戦略など解説。

情報戦でのイラク側のねらいについて、「報道をうまく使うのがイラクのやりかただ。たとえば国内の士気を鼓舞するのに使ってきた。二つ目はアラブの民衆をなんとか巻き込みたい、あるいは国際世論にたいして働きかけをおこないたい、人道的にイラク人がいじめられている、殺されている、そういった映像を流すことがそのひとつだ。もうひとつ、戦争がはじまってから付け加わったのは、アメリカの家庭、世論に向けて発信が行われるようになった。捕虜の映像などがそうだが、アメリカの世論に訴えかけて、なんとかアメリカ軍の足を引っばろうとする。イラクにはアメリカまで届くミサイルはない、だとするとこれはアメリカまで届く心理的兵器だ」という解説。

大野氏に限らず、イラク側の動きについて、このようなスタンスのコメントは多い。内容が事実を反映していない、というわけではないが、この種の客観的解説は、侵略を受けている国の実情について、すべて意図的に操作されたもの、という印象をあたえ、被害の実態について人びとの想像力を閉ざす効果があるのではないか。

【NEWS 23】

「この戦争」の正体」という連続コーナーで後藤田正晴氏にたいする筑紫キャスターのイン

タビユーを放送。後藤田氏のつぎのような言葉を伝える。

「この戦争の正当性は疑わしい」「自衛のためと、国連憲章第7章にある行動以外は軍事行動はやらん、というのが世界の約束事だ」「先制攻撃は成り立たない」「日米同盟は本来軍事同盟だ。軍事同盟は仮想敵国ソ連が前提。その仮想敵国がロシアに変わった、その時日米安保をどう考えるかを考えるべきだった」「日本はアメリカの“半保護国”で、外交、政治ともずるずる無原則になった」など。

4月14日(月)

【ニュース10】

外部ゲストは無く、国際部・市瀬記者が米軍の動向を解説。

【NEWS23】

朝日・西村、共同・会田、JNN・金平の「ワシントン記者にきく」。

＜内容は第8章を参照のこと＞

4月15日(火)

【ニュース10】

この日も外部ゲストはなく、国際部竹沢記者が、暫定統治協議にイラク人の有力な指導者の革命評議会ハキム氏、国民会議チャラビ氏などが欠席、参加メンバーを見て、先行きの容易でないことを解説。

「率直に言いまして、反フセイン派のまとまりの無さ、イラクの人々の支持が十分に得られていないと言うことを考えると前途は多難と言わざるを得ないと思います」

【NEWS23】

中村哲医師（NGO ペシャワール会）が「この戦争の正体」コーナーのゲスト。

イラク暫定統治はアフガンで破綻したように失敗を予言。

「これはですね、ヤバいですね。もしアフガンをモデルとして復興すると言うならば既に破たんしていると言う状況をイラクで再現することになって、これは絶望的だと」

【ニュースステーション】

外部ゲストではなく清水建宇コメンテーター（朝日新聞編集委員）。

「日本は中東では一度も領土的野心を示したことがなくて日本は本当に中立の立場だと思われて来たんですね。それが今回の一早い戦争支持でせっかくの中立だと思われて来た立場を失って、その上 ORHA に文民を派遣するのだと息巻くと、せっかく中東で持っていた日本の良い立場をまた失うのじゃないかと思うのですね」

表3 番組ゲスト

	ニュース10	NEWS23	ニュースステーション
3月20日		小川和久（軍事アナリスト）、 浅井信雄（国際政治）、 岸井成格（毎日編集員）、 薦信彦（ジャーナリスト）、 十市勉（日本エネルギー研） ～この戦争の正体～	森本敏（拓殖大学教授） 高橋和夫（放送大学教授）
3月21日	畑中美樹（国際開発センター） 高橋和夫（放送大学教授）	姜尚中（東京大学教授） ダグラス・スミス（政治学） 浅井信雄（国際政治） イラク代理大使（インタビュー） 「人間の盾」4人	水口章（敬愛大助教授）
3月24日	酒井啓子（アジア経済研究所） ～イラク戦争とアラブ世界～	～「バグダッド『人間の盾』に心境をきく」～	寺島実郎（日本総合研究所） ～日本のとるべき立場～
3月25日		大西健丞（NGO） ～イラクのクルド人の状況～	高橋和夫（放送大学教授） ～イラク複雑な構図～
3月26日			酒井啓子（アジア経済研究所） ～アメリカに攻撃され祖国防衛戦争に～
3月31日		小川和久（軍事アナリスト）	
4月1日	大野元裕（中東調査会客員研究員）		藤原帰一（東京大学教授）
4月2日			戦略国際研究所 イーラン・ウルマン博士 ～「作戦立案者が語る『衝撃と恐怖の』の現実」～
4月3日	酒井啓子（アジア経済研究所） ～フセイン政権とクルド人～	寺島実郎（日本総合研究所） ～イラク戦後の世界日本の選択～	新倉修（青山学院大学教授） ～米軍の用いる兵器 大いに異義あり～
4月4日	大野元裕（中東調査会客員研究員）	後藤田正晴（元自民議員） ～この戦争の正体～	
4月14日		朝日・西村記者 共同・会田記者 JNN・金平記者	
4月15日		NGOベシャワール会・中村医師 ～この戦争の正体～	

第8章 企画・特集

3月20日(木)

【ニュース10】

「ブッシュの決断」＝「私の使命は国民を守ること」 リポーター・山下毅記者（ワシントン）

「ブッシュは国家安全保障会議を召集、ラムズフェルド国防長官らがイラク攻撃を進言。フセインの居場所特定したCIAの諜報報告をもとに攻撃開始を決断。側近に私の使命は国民を守ることと語る。フセインの所在を確認し、攻撃の火ぶたが切られたとの報告を受けてテレビ演説へ」

【ニュースステーション】

「ブッシュ決断の決め手」＝「メディアへのリークか」 リポーター・田端正記者（ワシントン）

「攻撃決断に際し、フセインの所在を確認したブッシュは、いい気分だともらず。密室でのやりとりをテレビメディアが細かい所まで伝えられるのは、リークの疑いも。攻撃時期でメディアを使った陽動作戦を仕掛けた節も。こうした情報を横流ししている自分たちも、一プレイヤーになるかわさが」

3月21日(金)

【ニュース10】

「決断は3分前」＝「ブッシュはレッツゴー」 リポーター・山下毅記者（ワシントン）

「攻撃4日前のアゾレス・サミットからの帰国途上で、すでに最後通告の草稿づくり。米軍司令官は攻撃開始のデッドラインの前に、爆撃機を出撃させる。ブッシュはフセインの居場所の情報で、デッドライン3分前に攻撃決断、レッツゴーと攻撃命令」

【NEWS23】

「イラク代理大使インタビュー」 聞き手・筑紫キャスター

「攻撃は主権国家に対する侵略で正当化できない。目的は石油利権と中東での政治的優位に立つため。被害を受けるのはいつも民間人、日本人はイラク政権に親近感を持たないだろうが、戦争防止のためにもっと良い役割が果たせる」

【ニュースステーション】

「フセイン映像の真偽」＝「本物？影武者？眼鏡のフセイン」

原田康郎（ベルリン）「フセインには以前から影武者説、ドイツの法医学者は、過去の映像分析から少なくとも、3人の影武者の存在指摘」

イラク人通訳「本物と思う。きのうは緊張していた」

水口章「声紋分析が進んだ現在、ちゃんとしたものを出した方がいいと」

「N10」ワシントンの山下記者は両日にわたって、ブッシュの決断の裏側についてリポートしたが、完全な裏話のスタイルになっていて、CIAがブッシュ政権で力を取り戻し、ネオコンとの協力でブッシュを後押しした構図について、突っこんだ説明をしなかった。

「N23」21日はキャスターがシャキール臨時代理大使にインタビュー、大使はイラクに対する国際世論を冷静に受止めながら、戦争防止に向けた反戦運動への切なる期待を表明。

「N・S」21日フセイン演説の映像の真偽について、ベルリンの原田記者がリポート。ドイツの法医学者の研究をもとに、顔の特徴の違いから判別する方法について解説したが、結局、結論は出ずじまい。この手の企画の難しさを改めて感じさせた。

3月24日(月)

【ニュース10】

「イラク戦争の難民問題」(V構成) 5'00

日赤の難民救援センターの榎島医師の活動を紹介、「4日間で2万人の難民が出ている。戦争で一番被害を受けるのは一般市民だ」と語る榎島さん。

【NEWS23】

「バグダッドの『人間の盾』に心境を聞く」(V構成) 4'00

水道施設に配置された日本人4人(会社員、フリージャーナリスト、民宿経営、元ダンサー)の紹介とそれぞれの意見をきくもの。

3月25日(火)

【ニュース10】

「クルド人地域」 現地に入った河野記者の報告(スタジオ中心) 8'00

「イラク北部で米軍を支援しているのがクルド人部隊、これまでフセインに弾圧されてきた」現地のNGOピースインジャパンが撮影した映像を使ってクルド人地域を説明。

【NEWS23】

「イラクのクルド人の状況」 NGO大西健丞氏のテレビ電話リポート 4'10

(自分たちの撮影してきた映像を見せながら)「NGOは医療活動をしている、以前からクルド人と米の特殊部隊は協力してきている」

3月26日(水)

【ニュース10】

「人道援助～ある日本人の取り組み～」 アンマンの井上記者リポート 4'00

「アンマンのユニセフ事務所、竹友有二さんは戦争の始まる直前までバグダッドにいた。『1991年湾岸戦争のとき難民を助けたいとユニセフに入った。バグダッドの現地スタッフは毎日できる限りの努力をされていて頭の下がる思いだ』と語った」

3月31日(月)

【ニュース10】

「イラク情報戦、CIAのたたかい～テネット長官を追う～」 リポート山下毅記者（ワシントン）

「ブッシュ政権の中で情報戦の主役を担うCIAテネット長官を追いました」で始まり「毎朝ホワイトハウスに報告」「ブッシュ大統領の絶大な信頼」「国連パウエルスピーチを支えた」「開戦直前の3/19ラムズに決定的秘密情報（フセインの動静）」「テネットの進言入れブッシュ最後通牒切れる48分前、フセイン狙う空爆命じた」と米政府内部の情報を詳しく伝えた後、ラストコメントで「情報武器にしてフセイン追い詰めるテネットの戦い、最後の局面を迎えている」と結ぶ。

他番組のワシントン特派員が、「意図的なリークはメディア操作の疑いも」と懐疑的、批判的にあつかっている内容を無批判に報告しており、比較すると相対的に肯定的あつかいと印象を受ける。

【ニュースステーション】

「焦りといらだち～米英政権中枢」 リポート 田畑正記者（ワシントンANN取材団）

ウォルフォビッツ国防次官「我々は敵を侮りすぎていたかもしれない」、ワシントンポスト引用「制服組と背広組の亀裂深まる」など米政府の足並みの乱れ、戦死遺族からウソつき呼ばわりされる英ブレア首相、品位と正確さが疑われる米ブッシュ大統領ラジオ演説『フセイン体制は恐怖支配、捕虜は残忍に処刑、戦い拒否者は殺され、米英軍に手振っただけで女性絞首刑』などを伝える。

この日の二つの特集は、客観報道に徹しているが批判的視点を感じさせず結果的に米政府の動きを肯定的に報道していると受け取られかねない「N10」と、米政府内部の足並みの乱れや国民の批判もきちんと伝えた「N・S」が対照的である。

4月1日(火)

【ニュース10】

「警戒のアメリカ・テロ対策最新事情」 リポート神子田竜輔記者（ワシントン）

短い企画で「連邦議会テロ対策用装備購入、特殊テント全米自治体から注文フル生産体制、アメリカは前線だけでなく国民もテロとの戦いに追われている」とアメリカ社会の動向を伝えた。

【NEWS23】

「名物記者解雇の理由」 リポート佐藤夕夏記者

NBCピーター・アーネット記者の解雇の経過とこの事件を受けて開かれた「戦争報道、メディアの役割は何か」をめぐるパネルディスカッションを取材、Q「なぜアーネットを解雇？」

CBCブラント記者「発言したのがイラクのテレビ＝フセインのプロパガンダの道具だったから」、Q「しかし国防総省やホワイトハウスの記者会見を連日流す彼らとどこが違うのか？」クラーク国防総省広報官「全く違います。アメリカのメディアは自由で独立。イラクのように国が運営しているのとはわけが違う」など興味深いアメリカのメディア事情や考え方を伝え、ラストコメントでは筑紫キャスターが「アメリカ側だって自由に取材できているわけじゃなくていろんな規制があったり追放されたり。問題は戦争になると国策報道というか、報道はその国の側につかなくちゃいけないということがあって、これが今度はまた厳しく出ている、メディアの中にも選択が迫られている」と戦争報道のあり方についての批判と自戒を述べている。

【ニュースステーション】

『『民主化』という名の戦争～パウエル長官とベトナムの記憶～』 Vリポ

ネオコンとは若干違う立場のパウエル国務長官にスポットを当てているが、ネオコン登場までの歴史や彼らの主張、イラク戦争開戦をめぐる米と仏・独との隠された駆け引き、ハンガリーの小さな村に置かれた亡命イラク人軍事訓練のためのキャンプ「フリーダム」など、イラク戦争の性格や背景を考える情報がむしろ光っている。パウエルについて国際戦略研ドミニク・モイジは「仏は突然パウエル見捨てた。パウエルもラムズフェルトも、軍事路線に違いないと気づいたからだ」と証言している。そのパウエルを、「ベトナム体験を教訓に国民の理解・支持しない戦争に黙って従うことはしない」人物とラストコメントしているのはパウエル過大評価の感がある。

4月2日(水)

【ニュース10】

「ヨルダン国境報告『祖国に戻る人々』」 井上祐司記者

Vリポで「ヨルダン政府設置のキャンプ、2万人収容だが今のところ空」「戦争開始後帰国イラク人増加、ヨルダンから6000人」「アンマン・バグダッド直行の無料バス、イラク大使館によって」「危険冒しての里帰り、切羽詰った思いが」と伝えている。

もう一つの企画は「今イラクの人々は」 スタジオ中心・国際部竹沢顕記者

「難民、イラク戦争では14人、湾岸戦争200万人」の背景などを解説。その中で「一日ヒッラ空爆、民間人33人以上が死亡」のVリポをはさみ、イラク人医師の「イギリスの友人たちよ、この惨状見て！英米によって何が行われているか。そして抗議して！」という訴えが紹介されている。ラストではアメリカの懸念＝自爆攻撃・米兵の過剰反応と併せて、今後市民巻き込まれる懸念をコメントするなど「N10」では比較的少ないイラク市民の動向を詳しく伝えた企画。

【NEWS23】

「韓国イラク戦争派兵を可決」 リポート梶井正人記者

短いリポートだが「ノムヒョン大統領派兵決める」「派兵反対のデモ」「賛成179、反対68、棄権3」と韓国の現状を伝え、デモ参加者インタビュー「媚売ってもアメリカ私たちに耳傾け

ない」で締めくくり、戦争に批判的な声を伝えている。

【ニュースステーション】

「作戦立案者が語る『衝撃と恐怖』の現実」 インタビュー戦略国際研究所ハーラン・ウルマン博士

「原爆使わず長崎・広島と同じ心理的打撃、軍事技術発達で可能に。最初の一撃が重要」「バグダッドの政権中枢を狙った小規模な一撃、これは間違っていた。『衝撃と恐怖』は機能せず長期化の可能性高くなった」などの作戦解説インタビュー。ラストコメントを「孫子の教え、アメリカに耳の痛いことも。『君主は一時の怒りの感情から軍を起こして戦争を始めてはならない』」と結び、アメリカの開戦への批判で結んでいる。

もう一つの企画「兵士の息子と父・それぞれの戦い」 V リポ

「侵攻4日目、ワシントンのベトナム戦争慰霊碑前で300人ほどのイラク戦争に反対するベトナム帰還兵、退役軍人の集会」を取材、そこに参加していた一人息子をクウェートへ送り出したベトナム帰還兵をリポート。アメリカ社会でも戦争に反対する人々のいることをきちんと伝える姿勢が感じられる。最後は『アメリカにはスマートボムでなく、スマートリーダーが必要なのです』というベトナム帰還兵インタビューでアメリカ指導層への批判を代弁させていた。

4月3日(木)

【ニュース10】

「湾岸後アメリカに脱出したクルドが語るフセイン政権の実態」 リポート神子田竜介記者（バージニア州から）

「湾岸後イラクの空爆に毒ガス浴びせられるのではないかと」「フセインの写真飾ってないと治安当局に判るとどんな目にあうか」などフセイン政権のクルド弾圧の実態を伝えている。

【ニュースステーション】

「米軍の用いる兵器大いに異議あり」 V リポ

久米キャスターが始めに「米軍、イラクの大量破壊兵器破棄のため開戦。しかし一瞬で多くの人殺害するのは米軍使用の兵器。戦争に正義なし」とコメント。

ナレーションでも『大量破壊兵器見つからない』と指摘。

デージーカッター・クラスター爆弾・劣化ウラン弾などの威力・被害・使用状況などを伝え、青山学院大新倉修教授が「ハーグ条約『一般的に無差別不必要な苦痛与える兵器禁止』、当てはまれば違反。しかし米、違反とは言わず」「1996年国連人権小委員会非人道兵器使用禁止決議、アメリカのみ反対」などのコメント。

ナレーションで「こうした兵器は国際法に違反しないのだろうか」と疑問を呈している。

タイトルからもうかがえるように、米軍への批判を明確にしている。

4月4日（金）

【ニュース10】

「“もうひとつの戦争” イラクの情報戦」 一矢好彦記者（アンマン）

イラク国営テレビの活動とアメリカ軍の国営テレビ攻撃など、情報戦の状況をレポート。

アメリカ軍のテレビ局攻撃の理由などを米中央軍会見で伝えるとともに、イラク国営テレビが、移動式のアンテナを使い、アラブ系衛星を経由しての放送を復旧したと報告。

【ニュースステーション】

特集「ナジャフのモスクで米兵VS民衆」

モスクに入ろうとした米兵をナジャフ市民が押し返したニュースから、湾岸戦争以来のイラク戦争で、モスクがどんな役割を果たしかにふれている。

この企画ニュースのなかには、「敵を追い詰めながら、次の一手に踏み切れない現状、しかしこれこそがイラクの戦略だった。イラク側は戦争のたびにモスクを利用してきた」というナレーションがあり「侵略はしたくない。神聖な場所に敬意を払いたんだ」と語る米兵のインタビューが組みこかれている。

モスクはやっかいな存在であり、イラクは聖地を利用している、という、アメリカ軍の軍事行動遂行上の立場が自然に身についた感じのレポート。

このほか特集「ヨルダン人義勇兵戦死に母は」

周辺国からの義勇兵の存在と、その悲劇を伝えている。義勇兵だがイラク側の戦死者に関する企画は珍しい。その中で、戦死した兵士の母親の「イラク戦争が悪いことだというのは世界中の人が感じています。息子も同じだったと思います」という言葉を伝えている。

4月14日（月）

【ニュース10】

「軍の動向と暫定政権を立ち上げるための治安回復について」 スタジオで今井キャスターが司会役で国際部・市瀬記者が解説。

「テイクリートはフセイン支配の最後の都市、制圧したがすぐ勝利宣言はない」「大量破壊兵器は探し出し、テロ組織との関係も突きとめねばならない」という米軍の見解を紹介する。

米軍の8つの目標の中、「政権の打倒、大量破壊兵器、暫定政権」の3つをスタジオにパネル表示し説明する。フセイン政権の幹部の探索用カードに1分以上の時間を使ったが、大量破壊兵器については10秒だった。

「暫定政権を立ち上げるのに不可欠な治安の回復だが、その脅威となっているのが自爆テロ」とする。脅威になっているのは“自爆テロ”だけなのか。

【NEWS23】

「ワシントン記者にきく アメリカの進む道は？」 3人の記者の対話で構成。

フセイン像の倒される映像の感想をもとめ「戦争の負の側面を覆い隠すもの。“解放戦争”として正当化しようとするアメリカの姿が浮かび上がった」と指摘する。3月20日の「米国の

武力行使開始を理解し支持いたします」という小泉首相の一番早い支持発言を紹介し、シラク・ブレアと比較。

「立場の違いはあるとしても、シラクやブレアは自分の言葉によって議会、メディアを説得しようという気概が感じられるが、小泉首相、川口外相には自分の言葉で説得しようとする気概がワシントンから見ていて感じられない。」「本当のアメリカ人は『日米関係だけ大切にする日本であってほしくない。なぜ、賛成するのか、賛成できないなら、自分の言葉と論理で言ってくれ』と思っている」

「これから何が大切か、アメリカの過信がアジアにきた時、日本は極東の英国として行動を共にするのか、極東のフランスとして異をとるのか？北朝鮮危機のときの選択が問われている」と日本の今後について問いかけている。

4月15日(火)

【ニュース10】

「竹沢記者解説」

イラクを中東地域における親イスラエル国家化・親米石油資源国家化しようとするアメリカの狙いと諸国の懸念・反発を伝える。＜別項でも重複して触れた＞

【NEWS23】

シリーズ「この戦争の正体」 ＜別項でも重複＞

アフガニスタンへの米軍攻撃、占領との比較をベシャワール会の中村哲医師と対談で。

【ニュースステーション】

「戦争の大儀発見できず」

ほぼ占領状態になっても大量破壊兵器が発見できていないことを検証する。また、シリアへの圧力を強めるアメリカの姿勢をレポート。

「アッバス君は今」

アメリカの空爆で家族10名（全員）と両手を失った少年アリ・アッバス君のその後を追うレポート。アッバス君「僕を殺すことが解放なの？この先どう生きればいいのか？」

「消えた政権幹部」

イラク政権下での厳しい情報統制（＝諜報省によるもの）を検証しその政権幹部たちがどこへ消えたかの追跡レポート。

「占領統治と日本」

占領行政への日本の参加が憲法に抵触するとの指摘を紹介。イラク復興支援金の供出問題と復興人道支援室（ORHA）への人員参加を考える。

「ある海兵隊員の死」

日本人を妻に持つ海兵隊員のホームビデオにより「兵士の戦死」と家族を見つめる企画。「ジェームズさんは家族の幸せを守るために戦争に行き命を落としました」「夫がいてくれるだけで幸せなのになぜ自らの命をかけてまで戦争に行ったのか」静かな反戦メッセージを含む。

表4 各番組の企画・特集

	ニュース10	NEWS 23	ニュースステーション
3月20日	「ブッシュの決断～私の使命は国民を守ることだ～」 (ワシントン山下記者)	「この戦争の正体」 (ゲスト浅井信雄、岸井成格、高信彦、十市勉) 多事争論「世界が変わった日」(筑紫キャスター)	「ブッシュ決断の決め手」 (ワシントン田端記者)
3月21日	「決断は3分前 ブッシュはレッツゴー」 (山下記者)	イラク代理大使インタビュー (久米キャスター)	「フセイン映像の真偽『本物？影武者？』」 (原田康郎、水口章:声紋分析者)
3月24日	「イラク戦争の難民問題」 (日赤難民センター 横島医師)	「バグダッド『人間の盾』に心境を聞く」 (「人間の盾」4人)	
3月25日	「クルド人地域」 (河野記者)	「イラクのクルド人の状況」 (NGO 大西健丞)	
3月26日	「人道援助～ある日本人の取り組み～」 (井上記者)		
3月31日	「イラク情報戦 CIAの闘い～ケネット長官を追う～」 (山下記者)		「焦りといらだち～米英政権中枢～」 (ワシントン田端記者)
4月1日	「限界のアメリカ・テロ対策最新事情」 (神子田記者)	「名物記者 解雇の理由」 (佐藤夕夏記者)	「『民主化』という名の戦争～パウエル長官とベトナムの記憶～」
4月2日	ヨルダン国境報告 「祖国にもどる人々」 (井上記者)	韓国イラク戦争派兵を可決 (梶井記者)	作戦立案者が語る 「衝撃と恐怖」の現実 (ハーラン・ウルマン博士)
4月3日	「湾岸後、アメリカに脱出したクルド人が語るフセイン政権の実態」 (神子田記者)		「米軍の用いる兵器 大いに異議あり」
4月4日	「“もう一つの戦争”～イラクの情報戦～」 (矢野記者)	「この戦争の正体」 (後藤田正晴:元自民党議員)	(1) 「ナシャフのモスクで米兵VS民衆」 (2) 「ヨルダン人義勇兵戦死に母は」
4月14日	「米軍の動向と暫定政権を立ち上げるための治安回復について」 (国際部 市の瀬記者)	「ワシントン 3人の記者にきくアメリカの進む道は？」 (朝日・西村 共同・会田 JNN・金平)	
4月15日	「暫定統治協議会の発足と厳しい前途～米政府の主導権、イラク周辺国は警戒」 (国際部 竹沢記者)	「この戦争の正体」 (NGOベシャワール会 中村医師)	「戦争の大義 発見できず」 「占領統治と日本」 「アッバス君はいま」 「ある海兵隊員の死と日本人妻」

第9章 自局（系列社含む）従軍記者リポート

3月20日（木）

【ニュース10】

＜米第3歩兵師団・油井英樹記者＞

「クウェート北部に駐留していた米軍もイラク国境へ向けて続々と兵士を派遣。同行している部隊も、あすは国境へ移動しイラク南西部から北上、バグダッドを目指す。米軍は、イラク軍の士気は低く大勢の兵士が投降すると見ているが、生物・化学兵器を使う懸念から、米軍兵士に防毒マスク、防毒スーツの着用を義務づけて警戒」

＜空母キティホーク（ペルシャ湾）・津屋尚記者＞

「5時間前から艦載機の出撃開始。F18A、F14などが目標を正確に攻撃できる衛星誘導爆弾を搭載して次々に離艦し、艦に戻った機は搭載した爆弾がなくなっていることから、イラク空爆に参加したようだ。艦内では地下施設を攻撃するための爆弾も準備され、今後さらに大規模な空爆が行われる見込み」

【NEWS23】

＜米空母トルーマン（地中海）・向山明生記者＞

「艦載機の大半が第2波の空爆に参加の予定で、精密誘導爆弾を装着済み。攻撃を効果的、連続的に実施するため、僚艦同士で時間帯シフトまで決めている。第1波攻撃では、同艦隊のイージス艦からトマホーク発射、今後も巡洋艦、駆逐艦から大量のミサイル発射を予定」

3月21日（金）

【ニュース10】

＜第3歩兵師団・油井記者＞

「イラク国境に近いクウェートの砂漠地帯を軍用車で北上中。間もなくイラク領内へ。今日中には同行の歩兵第3師団2万人がイラク領内に入り、バグダッド目指して北上の予定。30度を超える猛暑の中、イラク軍が生物・化学兵器を使う事態に備え、全兵士が防毒スーツ着用。米軍側は進撃が順調なことから、イラク国内に入っても大規模な襲撃はなく北上できると期待」

＜空母キティホーク・津屋記者＞

「空母キティホークは空爆を再開、F18Aなどがハイクラス兵器を搭載して次々に飛び立つ。司令官は『イラクの防空能力は脅威になっておらず、我々は地上部隊と連携して作戦展開中』と語る」

【ニュースステーション】

<空母キティホーク・田辺宏記者（共同通信）>

「開戦を受けて艦内は緊張が高まる。イラクへ向けてF 1 8 A戦闘機が精密誘導爆弾を抱えて次々に飛び立っている。きのうは9 1 機、今日は1 0 0 機の予定」

「N10」 第3歩兵師団の油井記者は、支援部隊同行ということもあって、比較的冷静に進撃の様子を伝えたが、イラク側が生・化学兵器を使うかも知れないという、米軍広報と、防毒スーツ着用については、身びいきなコメントも見られた。キティホークの津屋記者は、発進する攻撃機が搭載する爆弾について、衛星誘導の性能を一方的に説明するだけで、爆弾が実際には多くの民間人を殺傷する事には全く思いを致さないコメントを繰り返した。また、爆弾が劣化ウランを使っていることや、クラスター爆弾を含んでいることについて、予備知識がなかったのか最前線取材としては、勉強不足の感があった。

「N23」地中海の米空母・トルーマンから、20日向山記者がリポート。米軍発表の内容以外、記者自身の取材の深さ感じられず。取材制限の厳しさの証か。

「N・S」は同行記者を出さなかったため、20日は第3歩兵師団に同行しているCNN記者がリポートしたが、砂漠の環境の悪さを強調しただけ。戦争のきびしさは伝わらず。21日は共同通信の田辺記者がキティホークからリポート。ここでも、艦載機の出撃状況を説明しただけ、劣化ウラン弾やクラスター爆弾のことには全く触れず。情報統制のせい、事前の取材不足のせい。

3月24日(月)

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

ナジャフへ向かう様子を顔写真とボイスリポートで。

「砂嵐がひどい、イラク軍の反撃に米兵がおどろいている」

<空母キティホーク・津屋記者>

ビデオフォン映像リポート。

「空母から69回の出撃があり、18発のレーザー誘導爆弾が投下された」

3月25日(火)

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

ナジャフ郊外からビデオフォン映像でリポート。

「砂嵐で補給の速度を遅くせざるを得ない、安全な地域ではない」

<空母キティホーク・津屋記者>

この日もビデオフォン映像のリポート。

「今私のうしろをF A 1 8 攻撃機が出撃のため動き出している、24 日から 25 日にかけて 1 5 機の F A 1 8 がカルバラ周辺に 26 発の衛星誘導爆弾を投下し、共和国防衛隊の弾薬庫を攻撃した」

3月26日(水)

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

ナジャフ郊外からビデオフォン映像のリポート。

「今日もはげしい戦闘があり、イラク軍に 300 人の死者が出た。アメリカ軍は死傷者の中に民間人はいないと発表」

<空母キティホーク・津屋記者>

ビデオフォン映像リポ。

「25 日から 26 日にかけてバグダッドまで 100 キロのカルバラで地上部隊を援護するため、F A 1 8 機が悪天候でも正確に攻撃できる衛星誘導爆弾を投下した。攻撃の目標はぶあついコンクリートでおおわれた司令部やミサイルを搭載した車両にまで広げられている」

米軍発表の高性能爆弾を投下したとリポートするが、落とされる側には一般市民の存在があることを全く意識しない内容になっている

3月31日(月)

【ニュース10】

<第3歩兵師団(ナジャフ)・油井記者>

「米軍、同行する総ての取材陣に衛星電話の使用禁止、没収も検討」と米軍の報道規制を最初にリポート。「ドイツから派遣されたヘリ部隊到着、バグダッド包囲網に備え補給路警戒を強化」を伝える。

<空母キティホーク・津屋記者>

「艦載機、30～31 日 59 発の爆弾投下。戦車・装甲車など、フセイン大統領関連施設も」と空爆を伝えているが、「クラスター爆弾」「劣化ウラン弾」の用語は使わず「ハイテク兵器」と呼んでいる。

【ニュースステーション】

<イラク・クエート国境・ANN取材団内藤正彦記者>

作戦行動のほか、「米英軍の出撃拠点にイラク反撃」（「米軍キャンプ地内でトラック突っ込み15人ケガ」）を報道。

「米軍ルメイラ油田の取材許可」で現地取材。「消火活動に約100人ブッシュ大統領の地元の民間会社が参加」「イラク軍破壊の証拠は公開せず」など独自の視点からもリポート。

4月1日（火）

【ニュース10】

＜ナジャフ郊外・油井記者＞

「第3歩兵師団補給基地にミサイル着弾の緊急連絡、被害一切なし。固定した駐屯地にターゲットと懸念・警戒強める」「自爆テロ警戒、全ての人を車から降ろし武器確認、車も捜査。31日米兵、民間人の車に発砲、女性子ども7人死亡。米軍、反米感情の高まり、フセイン政権と一般市民の結束だけは避けたいと考えている」といずれも米軍の懸念を伝えている。

＜空母キティホーク・津屋記者＞

「ピンポイント攻撃のレーザー爆弾付けた攻撃機次々に飛び立つ」「あらゆる作戦同時並行的に。激しさもます」など作戦行動のみのリポ。

【ニュースステーション】

＜カルバラ・共同通信儀間朝浩記者＞

「インスタント食品20種、そろそろ飽きが。水はペットボトル、今のところ深刻な状況にはなっていない」と作戦行動報道とは別に兵士の様子を伝えている。

＜クエート・ANN取材団内藤正彦記者＞

「補給路ではゲリラ戦、西側砂漠ルート今後余りにも過酷」と米軍の直面する困難を報道。「アラブ諸国の新聞テレビ、反米一色。各国首脳アメリカに反論、アメリカの独断に疑問から非難へ」と周辺の動きも伝えている。

4月2日（水）

【ニュース10】

＜第3歩兵師団（ナジャフ近郊）・油井記者＞

「生物化学兵器使用の危険高まると予防薬飲み始め、取材陣にも飲むこと求められている」「未明にもイラク軍ミサイル攻撃、パトリオットで撃墜、警戒強めることに」

＜空母キティホーク・津屋記者＞

「これまで最大規模の空爆、100発越える爆弾投下、メディナ師団戦車など集中攻撃。司令官、余力を強調『我々の出撃ピークに達せず』。F14戦闘機一機故障で墜落」

いずれも米軍の作戦行動・指示・発表をそのまま忠実に伝える。

4月3日(木)

【ニュース10】

＜第3歩兵師団（ナジャフ近郊）・油井記者＞

補給基地前線リポート。

「前線に近いここにC130着陸させたい。隊員『作業は24時間体制、早期完成命じられている』と滑走路建設を伝え、「特殊部隊活動、昨日新たに5人ヘリから。取材に任務明らかにせず」

＜空母キティホーク・津屋記者＞

「米攻撃機墜落、空母に衝撃。空母報道官『パイロットの安否不明、墜落原因調査中』、イラク側に撃墜された可能性。記者全員集められ『捜索中』。以後8時間外部との連絡禁止」と事実のみ報道だがラストに一言「深刻な事態伺わせる、撃墜確認されれば作戦見直しも」と記者見解。

【ニュースステーション】

＜カルバラ近郊・儀間朝浩記者＞

「首都決戦に向けて・・・米軍VSイラク軍」「目の前で大砲が火を噴く、耳栓なしではいられません」と記者自身の感想。

＜クエート・ANN取材団内藤正彦記者＞

「共和国衛隊本当に壊滅？」「壊滅より封印が正しい。死者・押収武器数不明」「共和国衛隊、カルバラ、ナジャフではモスクに立てこもり連合軍包囲したまま進撃。部隊再編反撃の可能性も。バグダッド攻略に時間かかるのはこのため」と、壊滅発表への疑問を投げかけ。

この期間の従軍記者レポートは、各局比較すると「N10」が分量的に一番多いこと、
「NEWS23」は記者を派遣しているのも関わらず1本しか出していないことが目を引く。内容も「N10」が米軍の発表や作戦行動をほとんどそのまま忠実に報道していることが多いのに対し、「N・S」記者の場合、独自の記者の視点が織り込まれることも多い。

4月4日(金)

【ニュース10】

＜空母キティホーク・津屋記者＞

空港制圧を空母艦載機が支援したとリポート。その中で、アメリカ軍の攻撃が「作戦の指揮機能をイラク空軍から奪うことで、イラクが無人の小型機を使って空から生物化学兵器を撒き散らす攻撃に出ることを防ぐねらいがあるものとみられます」とコメント。

アメリカ軍がこう言っている、という事実の伝達ではなく、記者が、独自の判断として、イ

ラクが生物化学兵器を使う可能性がある、という立場にたっていることを示す。それを防ぐためのアメリカ軍の戦闘行為が肯定的にコメントされている。

4月14日(月)、4月15日(火)

3番組ともなし

表5 日本のマスメディアの従軍記者

メディア	エンベッド先	従軍記者
NHK	米陸軍第3歩兵師団	油井秀樹記者
	空母キティホーク	津屋尚記者
日本テレビ	米陸軍第3歩兵師団	今泉浩美記者
TBS	空母ハリートルーマン	向山明生記者
		(途中撤回)
フジテレビ	米陸軍101空挺師団	小川正己記者
テレビ朝日	派遣せず	
テレビ東京	派遣せず	
朝日新聞	空母キティホーク	石原剛文記者
	第1海兵師団歩兵部隊	野嶋剛記者
読売新聞	空母キティホーク	本間圭一記者
	機甲師団(ドイツ駐留)	展開の遅れで参加せず
毎日新聞	空母キティホーク	井上卓也記者
東京(中日)新聞	空母キティホーク	大島宇一郎
共同通信	空母キティホーク	一名
	米陸軍第3歩兵師団第110砲兵部隊	二名

* キティホークには、東京、共同、NHKは記者のほかカメラマンが同乗した。(NHKはカメラマン2名)

第10章 米中央軍司令部（カタル）レポート

3月20日（木）

【ニュース10】＜榎原美樹記者＞

「開戦後10時間以上経っても、フランス司令官会見の気配なし。メディアセンターでは各国報道陣が待機。英軍報道官は20日、イラク軍がスカッド・ミサイル1発を含む2発（誤読？）のミサイル発射、スカッドは迎撃で破壊したと説明。今入った米軍情報では、計4発のミサイルを確認。いずれも生・化学兵器搭載という情報なし」。

【NEWS23】＜竹島史浩記者＞

「米軍の空爆に対して、イラク軍が米軍最前線にミサイル攻撃。米軍情報では、クウェート北部に3発のスカッド・ミサイル発射、1発は撃墜、残りは砂漠に着弾。いずれも生物・化学兵器は搭載されていなかったが、クウェートの首都には空襲警報が。標的になった米軍では兵士に化学防護服の着用命令。これとは別に複数のスカッドがクウェートに着弾という情報も」

【ニュースステーション】＜川端進記者＞

「開戦後、メディアセンターでは記者会見は1回も行われず、発表文だけ。発表では第1波攻撃に参加した駆逐艦、巡洋艦などの艦名などを明らかにしただけ、詳細は分からず。英軍・広報担当はイラクが3発のミサイル発射、1発は撃墜、被害なしと伝える。事前の説明と違って記者会見が開けないのは、攻撃結果の分析に手間どっているか、本格的攻撃は始まっていないと米軍が認識か」。

3月21日（金）

【ニュース10】＜榎原記者＞

「司令官による会見はまだ行われず、作戦の全容を把握できない。英軍からの情報では、英軍は南部アルファウ周辺を制圧し、石油関連施設を確保。次ぎは港湾都市ウムカスルに進出して、人道支援物資の輸送を可能に。今後は主要都市バスラの攻防が焦点で、イラク軍の抵抗が軍事作戦の行方を見きわめる上で重要に」。

【NEWS23】＜福本芳朗記者＞

「米軍はバグダッドと南部主要都市バスラに進撃、南部の港湾都市ウムカスルの一部を占領し、250人のイラク兵を捕虜に。バスラ周辺でも戦闘の模様。南部で米兵1人が死亡。米軍は西部、北部からもイラク領内に、三方から首都攻略めざす。英PA通信は『西部の2飛行場制圧、フーン国防相がイラクが30の油田に放火と発表』と報道。BBCはキルクーク油田確保と報道」。

【ニュースステーション】＜川端進記者＞

「司令官会見による戦況説明なく、広報官が非公式に説明。英広報官は、英軍がアルファウ周辺を制圧、パイプラインを管理下に。ウムカスルではイラク軍が激しく抵抗して交戦、数十

人のイラク兵を捕虜にと説明。米軍発表ではヘリ1機が墜落、英軍発表では12人が死亡」。

「N10」記者は、他局記者と同様、司令官の記者会見が開られないことなど米軍広報の姿勢は批判したが、戦況に関する米英軍発表はそのまま伝えるだけで、メディアセンターでテレビで伝えられるアラブ系メディアの情報には、ほとんど触れなかった。

「N23」20日は竹島記者が他局の記者同様、クウェートをイラク軍がミサイル攻撃したことや、米英軍が南部の拠点を押したなど、米英軍発表の内容そのままりポート。ただ、21日の福元記者は英BBCなどの情報も併せて伝えた。

「N・S」は、米軍の広報体制の不備について20日、21日とも指摘したが、米英軍情報をもとに、第1波攻撃の規模や南部でのイラク拠点押などのニュースを、発表どおりリポート。イラク兵の捕虜の数がTBSと違うのはなぜだろうか。

3月24日(月)

【ニュース10】<榎原記者>

「ナシリーアで米軍10人死亡、12人不明。イラク国営TVは『カルバラで米ヘリが不時着した』と報道」

【NEWS23】<福本記者>

「米軍ヘリ墜落の情報。英軍スポークスマンのインタ『最小限の犠牲で押できる』」

【ニュースステーション】<川端記者>

「米中央軍は1日1回しか会見がなく、皆テレビをモニターして情報を得ているのは皮肉だ。司令官がアルジャジーラの記者に『捕虜の映像を流したのは残念だ。他のメディアはまねしないでほしい』と発言した。他のメディアの記者が『アルジャジーラは敵意を持つメディアということか』と質問すると、司令官は『そんなことはない』と答えた」

米軍の発表をただ流すのではなく、質疑応答も伝えることで緊張感を出している。

3月25日(火)～26日(水)

【ニュース10】<榎原記者>

中央軍のフランクス司令官やブルックス准将の会見、英軍の報道官の発言をそのまま放送し、発言のねらいや背景説明が少ない。

【ニュースステーション】<川端記者>

米司令部がイラク国営テレビ局をトマホークで攻撃したことを認めたこと、またこの攻撃で新しい電磁波爆弾が使用されたという報道もあると大量破壊兵器についても言及している。

3月31日(月)

【ニュース10】<榎原記者>

「空と地上から作戦は順調に進んでおり共和国防衛隊拠点が攻撃目標の中心。包囲網狭めている」と発表戦況を伝えた後、「海兵隊ナシリーアで防毒スーツ、神経ガス除去の車両など発見、

イラク軍化学兵器使用能力の証拠と」「シリア売買の疑いの暗視スコープは未発見」など微妙な問題についても検証抜きで米軍発表を伝えている。また「フランス司令官クエート基地視察、負傷兵見舞い」と心情に訴える米軍のメディア操作・利用の疑いのあるものまでそのまま伝えているのが気になる。

4月1日(火)

【ニュース10】<榎原記者>

「ブルックス准将記者会見、検問所の市民7人死亡事件に質問集中。ブルックス『米軍極力犠牲者出さないように作戦。市民かえりみないのはイラク側、人間を楯に使っている』と米軍見解をそのまま伝えた。

【NEWS23】<福本記者>

「ブルックス『具体的状況把握してない。話したくない。調査中』、BBC記者『アメリカ軍撃ってから質問する軍隊との印象与える』、ロイター記者『アラブの怒りに油を注ぐ』、ブルックス『イラク軍、市民を車に乗せて突っ込ませる戦術多用』など、メディアが疑問・批判をぶつける様子とやりとりをきちんと伝え、「補給路脅かされた頃から米軍、従軍記者追放や幹部がマスコミ批判、事件は米軍の自爆テロへの恐怖と情報開示が限定的なことを改めて際立たせた」と批判的視点をラストコメントに込めている。

4月2日(水)

【ニュース10】<榎原記者>

この日も「ブルックス『米英合同軍の北上止められず、短剣はフセイン政権の心臓に突き付けられている』」「女性兵士救出の映像公開、病院に入る際イラク側と交戦、病院武器庫として使用、近くに11人の遺体」など米軍発表をそのまま伝えた。

【NEWS23】<竹島記者>

「ブルックス『進軍順調』重ねて強調」などの発表はそのまま伝えたが、「ジェシカ・リンチさん救出」については、「写真見せながら複数の特殊部隊の合同作戦明らかに」と伝えるにとどめ、「病院に入る際交戦」などその後明らかにされた救出劇の虚偽部分については触れていないことが注目される。

4月3日(木)

【ニュース10】<榎原記者>

米軍発表をほぼそのまま伝えているが、榎原記者が「ブルックス『バグダッドに迫っているがどの地点にいるかいつ入るかはいえない』と、手の内見せたくない姿勢感じられた」と一言だが記者の見解を付け加えたことが目につく。

カタールの米中央軍司令部の発表や動きについては、この期間「N10」のみ連日報道、ほと

んど記者の見解をつけず米軍発表を忠実にそのまま伝えているのに対し、「NEWS23」は、記者の見解や独自の視点からの記事が付け加えられるときがあり、「N10」が“米軍寄り”と批判される理由もこの辺にあるように思われる。

【NEWS 23】＜竹島記者＞

米軍発表をほぼそのまま伝えている。

4月4日（金）

【ニュース10】＜榎原記者＞

米中央軍ブルックス准将の記者会見の内容を伝える。サダム国際空港制圧を米中央軍が正式に認めたこと、空港制圧の意義などを、記者会見の内容を整理して報告。

同じ記者会見の中で、イラク領内のアメリカ軍検問所で「自爆テロ」があり、米兵2人が死亡、という発表もそのまま伝えている。

【NEWS 23】＜ 竹島史浩記者＞

ブルックス准将の会見内容をまとめて伝える。「N10」と大差なし。

4月14日（月）

【ニュース10】＜榎原記者＞

「近隣諸国や米英軍に脅威をもたらすフセイン政権の排除につとめてきた。軍事作戦は終わりにちかづいている。フセイン一族のDNAをもっている。死亡したのかどうか確認の（追跡）作業をつづけている」記者は指令部の発言を忠実にレポートしている。（2分10秒）

【ニュースステーション】

中央軍指令部の発言を情報として10数秒インサートする。

4月15日（火）

【ニュース10】＜榎原記者＞

（司令官は会見の半分以上をつかって）「水や電気などのインフラの整備、人道援助に力を入れている。」「脱出しようとしているフセイン政権幹部を重要地点のシリア国境近くで監視している。イブラヒム元内相を国境近くで拘束した。大量破壊兵器は1個旅団（5000人）で捜索を行なっている。情報を合わせていけば全体像が明らかになるだろう。隠しもっていると確信して、今後も発見に向け作業をすすめていく」など、米軍の発表をつたえる。

第11章 バグダッドリポート

3月20日(木)

【ニュース10】<出川展恒記者・隣国ヨルダンのアンマンから>

「サハフ情報相は会見で、『40発の巡航ミサイル着弾。標的はフセインだったが難を逃れた。攻撃されたのはバグダッド郊外などで、1人が死亡、10人以上がけが。軍事施設ではなく国際法違反の侵略行為』と非難。注目されるフセインの演説では、攻撃の日時を特定しており、攻撃後に収録された可能性高い。この中で、『パレスチナは永遠なり』と強調しており、米との対決をイスラム世界全体との対決に拡大する意図が」

【NEWS23】<久保田弘信氏（フリーカメラマン）バグダッドから>

「空爆後の取材では、街に人通りがなく、女性と子どもは疎開しているということ。街を警備していた兵士も重要拠点へ移動したのか姿がない」「第2波攻撃が予想される中でも、市民に緊張感がないのはテレビが米軍の攻撃のニュースを伝えないから。『人間の盾』の日本人には攻撃での死傷者なし」

【ニュースステーション】

<Q・サカマキ氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

「人っ子一人いない。今さらバグダッド脱出は不可能」

<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「午前5時半すぎ、大きな爆発音に続いて断続的に対空砲の発射音」「イラク政府の重要施設が空爆されたもよう。被害の詳細は報道陣に公開されず不明」

<宮嶋茂樹（フリー・ジャーナリスト）・バグダッドから>

「バグダッドの西270キロ地点で、空爆の跡に出会う。建物が粉碎され、遺体も」

3月21日(金)

【ニュース10】<出川展恒記者・アンマンから>

「サハフ情報相は『大統領宮殿が攻撃されたが、フセイン一家は無事。民間地域への攻撃で市民37人がけが』と非難。『クウェートでの米軍ヘリ墜落はイラク軍が撃墜したもので、イラク兵の投降映像はねつ造。ウムカスルの制圧情報も間違い』と否定。イラク軍は宣伝工作で弱体化しないと徹底抗戦を強調」「イラク政府は各国の報道関係者に対して、大きな被害を受けた政府関係の建物を映した映像を厳しくチェックする一方、民間の被害個所に案内。一般市民の被害を報道させ、米軍の不当性を国際社会に訴える方針」

【NEWS23】<久保田弘信氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

久保田「私のいるホテルの真上に向けて対空砲が…。また航空機、真上を飛ぶジェット機の音が聞こえる」（東京）「大丈夫か」久保田「落ちてこないことを祈るだけ」

「昨夜の空爆から1日経って、市内は平静を取り戻す。店はほとんど閉まっているが、バス

は運行。街中に配置された兵士は爆撃を受けた官庁街へ移動。昨夜の空爆は30分以上続き、大量の黒煙が上がった。建設省の建物がミサイル直撃でほぼ全壊している。国営ラジオは米軍のミサイル22発を迎撃、戦闘機も撃墜と伝えたが、バスラなどの都合の悪いニュースは一切伝えず」

【ニュースステーション】

＜Q・サカマキ氏（フリーカメラマン）・バグダッドから＞

「巡航ミサイルが轟音とともに飛来。イラク市民が予想したほどの破壊はなかった」

＜宮嶋茂樹氏（フリー・ジャーナリスト）・バグダッドから＞

「ホテルから1キロ地点に着弾、建物の屋根に大きな穴を目撃」

＜綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから＞

「昨夜の空爆は大統領宮殿をねらったのだろうが、実際には民間人にけが人。バグダッドでは民間人が武装して配置につく姿も。負傷者がいる病院は公開したが、政府関連施設は非公開」

「世界の反戦デモについてバグダッド市民はよく知っている。フセイン支持者は世界は我々の味方といっているが、あるタクシー運転手は、『国民は最後にはフセインを見放す、彼の時代は終わった』と断言した。空爆は今後さらに激しく、南部からは米軍が北上する状況下、バグダッド市民にとっての戦争は、これからが正念場」

「N10」他局がバグダッドにいるフリーのジャーナリストに依頼するか、あるいは契約で派遣したのに対して、NHKはあくまで自局取材にこだわったため、結局ヨルダン・アンマンからレポートするしかなく、バグダッド空爆の生々しい様相や、被害の実態は外国メディアの映像でしか伝えることができず、もどかしさが残った。

「N23」20日はフリーの久保田カメラマンが、比較的冷静に攻撃後の市内の様子などを伝えたが、21日のレポートでは、自分のいるホテルの真上で対空砲火や米軍機の轟音が交錯する生々しい雰囲気が伝わった。

「N・S」は、サカマキ、綿井、宮崎のフリーの3氏が、それぞれバグダッドから生々しい体験をもとにレポートした。綿井氏は大きな被害を受けた政府関連施設の取材を厳しく制限する一方、民間施設の被害はバスで案内するイラク当局者の姿勢を、一貫して批判し、空爆下における報道陣と政府権力とのせめぎ合いの実情を伝えた。

3月24日（月）

【ニュース10】＜出川展恒記者・アンマンから＞

アンマンからバグダッドのスタッフに電話で様子を聞く。「市内にイラク軍は見当たらない、女性や子供は米軍の爆撃を避けようと安全な場所に身を寄せ合っている」

【NEWS23】＜遠藤盛章氏（ビデオジャーナリスト）・バグダッドから＞

ビデオフォン映像で中継。

「バグダッド市街に白や黒の煙があがっている、イラク軍がわざと煙を上げているものもある」

る」

【ニュースステーション】＜綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから＞

久米キャスターとの掛け合いでバグダッド中継。

「バグダッド市内の市場が空爆され、民間人が死傷した、イラクでは報道規制が強まっている、軍事施設などは一切公開されていない」

3月25日（火）

【NEWS 23】

＜遠藤盛章氏（ビデオジャーナリスト）・バグダッドから＞

ボイスリポートで「バグダッド市民には米軍の攻撃の正確な情報は伝わっていない」

＜久保田弘信氏（フリーカメラマン）・バグダッドから＞

「バグダッドの『人間の盾』のデモは日本人が多かった」

【ニュースステーション】＜綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから＞

「きのう日本の『人間の盾』の人が身柄拘束された。民間人の負傷者は相次いでいる。誤爆はバグダッドやその北部でも起きている」

「人間の盾」の人たちが「ノーモアウオー」のデモする映像を流す。

「人間の盾」の人々については「NEWS 23」も企画風に取り上げたが、「N10」は全く無視している。

3月26日（水）

【ニュース10】＜二村記者・アンマンから＞

バグダッドのスタッフに電話で現地の様子を聞く。

「人口の密集地にミサイルが着弾し、大勢の死傷者が出た。軍用目標はない。被害者インタ『ブッシュは最低だ、犯罪者だ』。被害者が増すに連れ反米感情は強まり、イラク国民の解放というアメリカの戦争目的など誰も信用しないという怒りの声が上がっている」

【NEWS 23】＜久保田弘信氏（フリーカメラマン）・バグダッドから＞

電話リポート。

【ニュースステーション】＜綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから＞

「きょう午前、過去最大規模の空爆被害が出た。もう誤爆でなく無差別殺戮が始まったといっても過言ではない」

3月31日（月）

【ニュース10】＜出川展恒記者・アンマンから＞

「（アルジャジーラ引用）20分前数箇所では爆発音、プレスセンター・イラク情報省も再びミサイル攻撃。国営放送再開、電話不通に。（イラク国営放送引用）サブリ外相『イラク軍・市民

は力強く闘い、米英の選択肢撤退のみ』。イラク指導部、ナジャフきっかけに自爆テロ広範に行うと警告。アラブ諸国から 5000 人の志願兵集まったとも」

【NEWS 23】<福岡孝浩氏（ビデオジャーナリスト集団）・バグダッドから>
電話インタビュー。

「空爆されたサダム・タワー」、「アル・ヤクーム病院」に引っぱり無しに負傷者が運ばれてくる様子などを伝えた。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「断続的に空爆継続、市内全域で電話ダウン。情報省空爆でジャーナリスト市内のホテルに移動。街で奇妙な現象・次々商店開店。長期戦の予測で臨戦ムード和らぎ、警官・兵士の姿減る」と今の様子をリアルに伝えた。

4月1日(火)

【ニュース10】<二村 記者・アンマンから>

サハフ情報相記者会見内容のほか、「イラク当局バグダッド西のミサイル攻撃現場に報道陣案内、アメリカの攻撃の不当性・非人道性訴え」「市民の被害増えるにつれ『単なる侵略ではないのか』の反発、住民からも」など。

【NEWS 23】

<武田記者・アンマンから>

「N10」とほぼ同内容を伝える。

<遠藤盛幸氏（ビデオジャーナリスト）・バグダッドから>

中継で「一時間前、市の南部に大型の爆弾、激しい空爆始まりそう。外国報道陣への報道規制ますます強まり日本人記者二人強制退去」と伝えた。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「市内北部の民家訪問、『空爆始まると家の中心の部屋に』『空爆始まると歌ったり、あえて日常会話続ける』」という市民の声をレポート。「市場や店をオープン、日常生活続けることが抵抗の意思表示」と空爆下の街の表情をも伝えた。

4月2日(水)

【ニュース10】<出川記者・アンマンから>

「ヒッラ、住宅地爆撃され 30 人以上死亡、300 人以上が怪我」と民間人の被害を伝えたほか、「サハフ情報相記者会見『彼らの主張は幻想、毎日ウソ』。国営テレビ繰り返し大統領声明流しバグダッド攻防に向け一層引き締め」と政府発表も。

【NEWS 23】

<岡田徹也記者・アンマンから>

「イラク国営テレビ、フセイン声明」「ロイター通信『カルバラ付近第 3 歩兵師団軍事支配確立』」など。

< スタジオ・ゲストに久保田弘信氏（フォトジャーナリスト）>

「空爆の下で何が起きているか」を東京に送り続けた空爆レポート映像をインサートしながら、「イラク政府の監視の目くぐり撮影、『人間の楯』の取材にも力入れた。戦争始まると著しい取材制限」「市民が一番恐れているのは略奪、命令出ていないが一家で誰か一人は残っている」「米軍への協力、今は可能性薄い」など市民の表情を詳しく伝える。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「開戦以後初めてバグダッド以外の現場訪問、ヒッラの病院は入り口付近までベッド。昨日激しい空爆で死者 30 人以上。医師『クラスター爆弾使用』と二次・三次被害を警告」など被害状況を生々しく伝えた。

4月3日（木）

【ニュース10】<二村記者・アンマンから>

「サハフ情報相発表。バグダッド市街地にクラスター爆弾投下、14 人死亡 66 人ケガ。民間への攻撃を強く非難」「市内空港方面爆発音、国際展示場も大きな被害、イラク首都決戦に向け体制固め」など。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「病院近くの空爆現場報道陣に公開。国際トレードセンター完全に破壊、病院は報道陣に公開されず」の空爆被害の他、「アルジャジーラ記者退去命令など報道陣への締め付け非常に厳しく、市民は海外のアラビア語放送を」とイラク政府の報道規制、「市内平穏だが、銃持つ市民少くない、アメリカ軍に銃向けることになれば犠牲避けられない」と市民のようすをレポート。

この項で、もっとも特徴的なことは「N10」がバグダッドからの生情報がなくアンマンからの取材でカバーしていたのに対し、「NEWS23」「N・S」はフリージャーナリストの現地レポートによって、被害や市民の表情をリアルに伝えていたこと。

編集意図はともかく、視聴者には「NEWS23」「N・S」が、「N10」に比べ、空爆の被害・イラク市民の犠牲により強い関心を払った人道的視点からの報道だったこと印象付けた。

4月4日（金）

【ニュース10】<出川展恒記者・アンマンから>

イラク政府側、バグダッド市民の動きを伝える。フセイン大統領の声明を読むサハフ情報相、バグダッドの空爆、停電、モスクの市民、民兵 などの映像。

アルジャジーラのイラク市民の被害レポート。「バグダッド南部で大規模な空爆があり、クラスター爆弾で市民 18 人が死亡」と伝える。病院のベッドの少女の映像とインタビューも。

【NEWS23】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

バグダッド市民の生活について中継レポート。停電と水不足が懸念と伝える。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「N23」と同じリポーター、内容もほぼ同じ。

4月14日(月)

【ニュース10】<二村記者・バグダッドから>

「バグダッド市民が自警団をつくるなどの自衛行動」「米軍のよびかけでイラク人警察の再組織化が開始された」などを伝える。元警官のフセイン政権崩壊歓迎のインタビューも紹介、「米軍協力のもとで治安回復にのりだしたが、治安は悪化するばかりでイラク再建は容易でない」とコメント。

【NEWS23】<斉藤雅俊記者・バグダッドから>

掠奪の被害、治安の悪化にたいして、自衛措置をするホテルや商店、自警団の動きを伝えるが、「復活したイラク人警官などあっても能力は限られている」とコメント。掠奪行動に対し傍観視する米軍とラムズフェルドの「自由とはこんなものだ。自由な人間は間違いをおかすものだ。」、大衆デモの「新しい政府を!」の声などを伝え、「イラク復興に向けた治安回復に米軍が本腰をいれるよう求める」コメントで結ぶ。

【ニュースステーション】<鈴木大介記者・バグダッドから>

掠奪や治安の悪化、市民生活の被害を伝える。新生児のいる病院の医療酸素もない窮状や、水も電気もガスも深刻なバグダッドの市民生活を、公営住宅に住む個人の家の「空の冷蔵庫」、「止まっているガス」などの映像で詳細にみせる。これに対比させる形で「自由とはまとまりがないものだ。間違いや悪さをしたいし、自由に生きていい。それがイラクでおこっていることだ」というラムズフェルドの発言を紹介、「水も電気もない、銃声のする暗闇での生活は裕福な生活をしてきたイラク人には堪え難い。改善の跡をみせないと批判は高まる。」とのコメントで結ぶ。

4月15日(火)

【ニュース10】<二村記者・バグダッドから>

バグダッドの治安の回復と市民生活の状況をレポート。

イラク軍の残された兵器に脅かされる市民、怪我をしたこども、復活した警官と海兵隊の服を着るイラク人など治安回復に共同でとりくむ米軍とイラク人、不発弾処理を米軍に頼るイラク人の姿、営業を再開した商店と値上がりした商品、テレビ・ラジオ局再開の準備などバグダッドの市民生活を全体的につたえる。2週間以内に電気を復活させる米軍の予定などもつたえる。

【NEWS23】<斉藤記者・バグダッドから>

危険なバグダッドの状況をレポートする。

現場の叫び声や弾丸の実射音と共に「マレーシアの取材クルーが襲われ、ジャーナリストの宿泊するパレスチホテルの外人記者も寝込みを米軍に捜査される」と生々しい状況をつたえる。治安の乱れに抗議し「サダムもブッシュもいない」と民衆デモの姿も。

【ニュースステーション】＜鈴木大介記者・バグダッドから＞

家族全員と両手を失ったアッバス少年「僕らを殺すことが解放なのか？」の問いに、ブレア首相の議会答弁「敬意をもってアリ君をたすける」を対置したVリポを導入に、現地記者リポではフセイン政権の内部事情を伝える。元情報省幹部や職員の証言から「37000ドルの金を盗んで逃亡した幹部」など政権内部の腐敗した状況、「バグダッド陥落寸前に姿を消した政権幹部の逃亡に使われたかもしれない地下道」映像など国民を置き去りした政権の姿を伝える。

第 1 2 章 反戦運動

3月20日(木)

【ニュース10】

6項目にようやくアメリカ、ロシア、パキスタンの反戦デモを入れる。時間はわずか19秒、日本のデモは取り上げず。

【NEWS23】

アメリカ、フィリピンのデモを12秒出したあと、東京の米大使館前の抗議行動をリポートした。

【ニュースステーション】

前半でオーストラリア、韓国、メキシコなど5か国のデモ、中盤でロシア、イギリスのデモ、後半で米大使館と首相官邸の抗議行動をリポーターが伝える。計1分40秒ほど。

3月21日(金)

【ニュース10】

中盤になって日比谷公園と銀座のデモを簡単に紹介。続いて「世界に広がる反戦の声」の項目でアメリカ、フランス、ベルギーなどのデモを1分半ほどで伝える。

【NEWS23】

タイトルにも日本の反戦デモを挿入、前半の「反戦高まる」でアメリカ、フランス、イギリスのデモを伝えた。中盤では「反戦のうねり」で芝公園の集会とデモ、渋谷の高校生の集会を2人のリポーターが丁寧に伝えたほか、沖縄や広島での抗議行動などを7分あまり割いて伝えた。

【ニュースステーション】

後半の「世界包む絶望・怒り・反戦の荒波」のコーナーでは、トルコ、イギリス、フランス、ドイツからの記者リポートを交え、世界8か国の反戦集会・デモを伝えたほか、日本の集会では東京・芝公園と、渋谷の高校生の集会をリポートした。渋谷の集会では、主催者の実行委員長にインタビューするなど力のこもった伝え方をした。

3月24日(月)

【ニュース10】

世界各地で反戦デモ（サンフランシスコ、メキシコシティ、広島）。

【ニュースステーション】

NYの50万人デモ、日本の反戦デモ、米仏日英の世論調査とからませて伝える。

3月25日(火)

【ニュース10】

「世界にひろがる反戦の声」。 ハンブルグ、キャンベラ、ニューデリーのデモ、韓国では反戦の声強いので派兵法案採決を見送ったことなどを伝える。

3月26日(水)

【NEWS 23】

アメリカの誤算という観点で世界にひろがる反戦感情を取り上げている。
フランス、ドイツ、スペイン、韓国、インドネシア、台湾、フィリピン、日本、アルゼンチン、メキシコ、チリ、ヨルダン、シリア、バーレーンの反戦デモ。
参戦国ではイギリス、オーストラリア、アメリカ、アメリカでは反戦デモもあるが、戦争支持デモもある。

【ニュースステーション】

反戦デモは続いていると短く出す。

3月31日(月)

【NEWS 23】

39秒と短いながら、世界各地と大阪の反戦デモや市民集会を報道。

4月1日(火)

3番組ともなし。

4月2日(水)

【ニュースステーション】

平石アナのVリポで「平日夜、雨、それでもどんどん集まってきている東京明治公園・午後6時半の集会」を伝え「開戦から2週間、今も続く反戦の声、参加者5000人」のリポと参加者インタビュー紹介で1分半近くを割いている。

4月3日(木)

【NEWS 23】

ゲストコメントのインサートながら日本の若者の反戦デモを30秒ほど伝えている。

4月4日(金)

3番組ともなし。

4月14日(月)

【ニュースステーション】

アメリカ政府のシリア攻撃と合わせて周辺国のヨルダン、バーレーン、パレスチナ自治区の反

戦・反米デモをつたえる。

4月15日(火)

【ニュース10】

イラク国内で暫定統治に不信をつきつけるナシリーアの大衆デモ「アメリカもフセインもいない」（反戦でなく反米デモかもしれないが）

【NEWS23】

バクダッド治安の乱れに抗議し「サダムもブッシュもいない」と民衆デモ。（反戦でなく反米デモかもしれないが）

【ニュースステーション】

イラク、ナシリーアの大衆デモ、親米派のチャラビは批判を恐れて欠席、革命評議会も暫定統治の会議をボイコット（反戦でなく反米デモかもしれないが）

第13章 各番組の報道スタンス

3月20日(木) 21日(金)

【ニュース10】

項目別の情報量で目立つのは戦況解説と、日本政府関連情報、それに米英軍情報の時間の多さで、他の2番組に抜きん出ている。それに比較して日本国内の反戦運動については、20日は無視、21日も他番組に比べて極端に少なく、「N10」の政府寄り、米英寄りの姿勢がはっきり出ている。また、武力行使の背景について時間を十分割いて解説することがなかった。

項目の配列順では、20日、21日とも最初の方に米英軍の攻撃の進展を据えて、圧倒的な力の誇示を印象づけた。フセインなどイラク政府関係者の映像は、ブッシュなどとの対比で一応は入れたが、日本の野党、反戦運動のオーダーは低く設定されていた。

【NEWS23】

項目別の情報量では、戦況解説と米英軍の戦闘情報、それに日本政府の主張・行動の部分が他の2番組、特に「N10」と比べて極端に少なく、戦争報道で戦局に関する興味本位の伝え方をしないという姿勢をとった。それとは逆に戦争の性格や背景についてのゲスト討論に、両日合わせて50分以上かけて戦争の本質に迫ろうとした。

項目の配列順を見ると、20日は最初の部分に戦況や各地の反応をまとめて伝え、中盤から終盤にかけて「戦争の正体」をテーマに、長時間のゲスト討論の時間を設け、翌日は最初から同じテーマで、ゲスト討論を数回にわたって入れる熱の入れようだった。

【ニュースステーション】

戦況解説の2日目は、日本側のゲストに加え、米戦略国際問題研のコーデスマン氏と中継で結んで長時間伝えたのが目立った。また、海外と日本国内の反戦運動も2日目は、特に「N10」と比べると際立って長く伝えた。前日と変わらない政府の動きはほとんど無視したかたち。

項目の配列順は、20日が開戦前の日本政府や国内の動きと、開戦後の動きを対照的に伝えて、慌ただしい対応ぶりを印象づけた。21日は攻撃2日目のドキュメントを冒頭にまとめて伝えたのは、世界のさまざまな反応が分かってよかった。世界と日本国内の反戦運動は後半になったが、扱う国の数や国内の集会の扱い方は、リポートを交えて丁寧にしっかり伝えた。

3月31日(月)～4月3日(木)

今回の番組分析作業をしながら報道スタンスの問題で一番考えさせられたのは「客観報道」のありようについてである。

もとより、不偏不党の立場で主観をまじえず正確な事実を伝える「客観報道」を否定するも

のではない。一方的主張や見解をもとに誤った世論誘導を展開するより、正確な事実と判断材料を提供し公正な判断を視聴者にゆだねる「客観報道」を基本的に評価すべきだと思うし、「N10」はじめ客観報道を標榜する NHK 報道への信頼度をみれば、多くの視聴者もこれを支持していると思う。

しかし、個々のニュースは正確な事実やありのままが伝えられた「客観報道」であっても、それ以前の、各番組が何を伝え何を伝えないかを取捨選択する価値基準・報道姿勢が垣間見えてきたのが、今回の番組分析作業で得た最大の収穫ではないだろうか。

その垣間見えた報道姿勢のいくつかを 3 月 31 日を例に検討してみたい。

この日、「N10」は、Vリポ「ゲリラ戦と掃討作戦」。視聴者の心情に訴えるねらいか（砂漠の戦場で死亡した兵士を悼む米兵たち）などが入った米英軍の前線の動きを中心に 141 秒、イラク側情報は被害には触れず 31 秒。米英の動きを中心に伝えている。

「N23」は、「最大の誤爆か 50 人以上死亡、市場でミサイルと見られる爆発」とイラク側の被害、民間人の犠牲を取り上げ、「補給活動に遅れ、一日一食の部隊も」と米軍の窮状も伝えている。

「N・S」も、「イラク市民の被害確実にひろがり」の視点で「週末のバグダッド市内空爆」による市民の犠牲を伝え、「米ミサイル隣国サウジにも被害」と米軍の誤射を伝えている。

「N10」は、米英軍の窮状や誤射などのマイナス面を伝える事が少ない一方、量的には第 2 章の情報量比較データにあるように、戦闘情報は米英軍の情報が他の 2 番組に比較して圧倒的に多く、対照的にイラク側の空爆被害や市民の犠牲などの情報は少ない。

次に同じ 3 月 31 日の企画・特集を比べてみよう。

「N10」は、「イラク情報戦、CIAのたたかい～テネット長官を追う～」。

ブッシュ政権の中で情報戦の主役を担う CIA テネット長官を追ひ米政府内部の動きを詳しく伝え、ラストコメントでは「情報を武器にしてフセイン追い詰めるテネットの戦い、最後の局面を迎えている」と結ぶが、批判的視点を感じさせない。

同じ日、「N・S」は、「焦りといらだち～米英政権中枢」。

米政府の足並みの乱れ、ウソつき呼ばわりされる英ブレア首相、品位と正確さが疑われる米ブッシュ大統領ラジオ演説などを伝え批判的視点を明確に打ち出している。

「N23」は、この日短いながら世界各地・国内の反戦集会も伝えているが、「N10」は私の担当した 4 日間、一度も内外の反戦運動を伝えていない。

他にも、企画特集ではこの期間、「N・S」が 4 月 1 日「民主化という名の戦争」、「N23」が 4 月 2 日に「イラク戦後の世界ニッポンの選択」の特集を組み、この戦争の本質や性格を問う姿勢を見せているが、「N10」には、それに類する企画が見当たらない。

ここから読み取れることのひとつは、他の 2 番組に比較して、「N10」は「客観報道」に徹して米英軍への批判的コメントしないのはもとより、ニュース選択の上でも米英政府・軍への批判や批判的情報を伝えていないことである。

読み取れる報道姿勢の二つめは「N10」にはまったくといっていいほど戦争の本質や性格を問う姿勢がみられないことである。企画や特集ばかりでなくキャスター・コメンテーター・ゲストの解説や発言を見回しても戦争そのものを問う視点は感じられない。

「N10」は、米英軍が国連決議なしに武力行使に踏み切ったことにもほとんど触れない。

このテーマを回避したというより編集方針として「客観報道」に徹して論評や評価を避けたとも考えられるが、「客観報道」とは、人道的な立場からの戦争批判、先制攻撃という国際法に反する戦争にも等距離で無批判でなければならないのだろうか。

さらに言えば、国際紛争の解決手段としては武力行使を否定する憲法を持つ国のマスメディアとしてのスタンスはどうあるべきかも問われる必要があるだろう。

4月4日(金)

戦況報道については、この日は3番組に大きな差はみられない。むしろどの番組も似通った映像、情報が使われ、差というよりは共通性のほうが大きい。

スタンスの差がでてるのはワシントンからのリポートで、「N10」が客観的事実のリポートという印象にたいし、「N23」が取材者の批判的視点をにじませている。(該当の章参照)

また、この日に限らないが、「N23」が“「この戦争」の正体”という連続企画で「イラク戦争」そのものを問題にしている姿勢は他局にないものである。

4月14日(月)

<治安の維持、公衆衛生をまもる責任のありかたについて>

「N10」には、編集の基本的な視点として「米英占領軍に治安の維持や公衆衛生の責任がある」という認識がないのではないかと？

「N23」も「N・S」も治安の責任は占領軍にあること基本的な視点としている。掠奪や治安の乱れに対するラムズフェルドの「自由とはこんなものだ。自由な人間は間違いも起こす。だから自由に生きられる」という無責任発言を問題視して、掠奪などに悩むイラク人と対比させて編集している。

<大量破壊兵器について>

「N10」は、米軍の目標8つの中の3つ～政権の打倒、大量破壊兵器、暫定政権～をパネルで表示して解説したが、幹部・要人カードの説明には60秒以上使用しているのに、イラク戦争を始める理由とされた大量破壊兵器には10秒で軽い扱いである。

「N・S」は、「大量破壊兵器は？ みつからない“大義”」で、米政府の「発見できていない大量破壊兵器は捜査をする」との記者会見を伝える。「わかるのはいつになるか」と再度追求され、「兵器発見は軍の優先事項ではない、戦争中はやることがたくさんある」と逃げる政府と記者のやりとりまで見せて、戦争目的に掲げた大義に強い疑問を投げかけている。

<「フセイン像の倒されるシーン」について>

「N10」は、これを疑問視せず、戦況報告の背景に使っている(同じように15日も使用)

が、「N23」はこのシーンをアメリカがイラク戦争を「解放戦争」として演出する流れのなかに位置づけている。「意図的に仕組まれたやらせ」、という情報が伝えられたにもかかわらず、「N10」のこのようにあつかいには疑問を感じる。

4月15日(火)

<暫定統治の行方は？ 占領統治に日本の関与は？>

「N10」は、「安定した政権づくりは時間も労力もかかる」と伝えるが、その状況や理由が掘り下げられていない。例えば、ナシリーアの「アメリカもフセインもいない」という大衆デモにも見られるような対米不信が、イラク国内の1部のものか、広汎なものかという判断が必要であろう。「N10」はこの点について何も触れない。

暫定統治協議会については、「米英が会議の主導権を握っていない。とりまとめる役にすぎない」とする一方、「アラブ周辺諸国は“親米、親イスラエル、石油支配しやすい”アメリカ主導の政権づくりに歯止めをかけたい」と伝える。米英に協議会の主導権が握られているという報道も多い中で、こうした対比はアラブ周辺諸国の主張にリアリティーを欠き、単なるアラブ側の猜疑心とも受け取られかねない伝え方ではないだろうか。

「N23」は、「イラクの未来をアフガンから問う」としてゲストに NGO の中村医師。「イラク攻撃の始められた日にもアフガンではアメリカの空爆作戦が行なわれている。アフガンではカルザイ政権がいまも危なくて首都カブールから出ていくことも出来ない状況、アフガンはすでに破綻している」とイラクの未来を暗示、「復興人道支援室（ORHA）へ4人派遣、日本人要員にエネルギー担当がいることはイラク油田復興に日本の影響力確保が狙いか」との問題提起で結んでいる。

「N・S」は、ORHA が米中央軍の下部組織であることを指摘し「米占領統治へまたしても追随」と問いかける。午前中の官房長官の記者会見では「自衛隊の派遣可能」、午後には「派遣できない」という動揺ぶりも伝える。また、「憲法9条で禁じられている交戦権には占領統治が含まれる」とする1980年の政府見解を紹介、自衛隊の派遣に疑問を投げかけている。

放送日 3月21日(水) 番組名「ニュース10」 放送局 NHK イラク報道関連 91' 35" No. 1

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
1	タイトル・イントロ	地上放火、戦車、投降する兵士、 イラク軍幹部	「武器がある限り負けない」 「イラクへの攻撃は2日目を迎えた。米軍地上部隊はバグダッドへ向けて前進、英軍も本格的軍事行動へ。米軍、バグダッドの南200キロに」「すでにアルファウ制圧」「フーン国防相はイラクが油田に放火」「米軍情報では、第1撃当時フセインは現場に」			37
2	メイン・タイトル	戦車の進撃、B52発進、 イラク攻撃	バグダッドのがれき、油田火災	今井キャスター、森田キャスター	ABC, Fox	190
3	同行取材報告	米第3歩兵師団	「イラク国境に近い砂漠を米軍用車で北上中。同行の米軍は今日中にはイラク領内に入りバグダッド目指す。猛暑の中、イラク軍の化学兵器に備え兵士たちは防毒スーツ。米軍は進撃は順調と」	油井英樹 (第3歩兵師団)	クウェート・電話リポート	115
4	現地記者リポート	イラク側のミサイル破片、米軍戦車部隊 米空母キティホーク	「クウェートは2日連続で、イラクからミサイル攻撃。ミサイルは生・化学兵器搭載せず。米側はスカッドミサイル使用と非難、イラク側は否定。南部の米・英軍はアルファウの石油施設、ウナムカスルの一部制圧」 「攻撃機による空爆再開。F A戦闘機などが衛星誘導爆弾などを搭載して次々に出撃。イラク側の防空能力は脅威ではない。2日目は100回を予定」 「サハフ情報相は会見で、大統領官邸が爆撃されたがフセインは無事だが、攻撃で民間施設に被害、37人がけがと非難。南部で投降したイラク兵の映像はねつ造と」「イラク側は主要官庁などの被害取材を厳しく制限する一方、民間施設の被害は報道陣に公開、攻撃の不当性を国際社会に訴える姿勢」	池光敏弘 津屋尚 (同行取材)	クウェート中継 キティホーク	433
5	攻撃2日目ドキュメント	米軍機出撃、巡航ミサイル、地上戦 ラムズフェルド会見 バグダッドの病院、けが人、閣議 フレイシャー報道官 ブレア演説 戦車部隊の進撃 投降兵士・サハフ会見 油田火災	「攻撃は指導部の建物が目標、フセインの最後は時間の問題」 「フセイン演説が本人かどうか、断定できず」 「フセインを追放、大量破壊兵器を排除する」 「投降する兵士はイラク兵ではない」	出川展恒 (ヨルダン)	アンマン中継	280

放送日 3月21日(水) 番組名「ニュース10」 放送局 NHK イラク報道関連 91' 35" No. 2

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
6	戦況解説	戦車部隊	「地上戦の開始が早く驚いている。イラクの防衛能力が劣ると、首都占領を急ぐ必要があった。首都が落ちれば国全体の支配体制が崩壊する。南部の制圧も石油確保という点で必要だが、ウムカス	江畑謙介 (軍事評論家)	スタジオ	385
7	攻撃決断の裏側 記者報告	(字) プッシュ決断は3分前 プッシュ演説	「米・英・スペイン首脳会談からの帰国途上で、すでに最後通告の草案作り。前線司令官は攻撃開始のデッドライン前に、爆撃機を出撃。プッシュはフセインの居場所に関するCIA情報で、デッドライン3分前に攻撃決断、レッツ・ゴーと攻撃命令」	山下毅 (ワシントン)		265
8	フセイン演説の真偽	フセイン演説 フライシャー	「この映像について、米側は本人以外の人物である可能性も排除できないとコメント、フセインには影武者説が」 「フセイン本人かどうか、結論に達せず」 分析担当者「少ない資料では、同一人物でないと断定できない」	森田キャスター読み		188
9	戦況解説・第1撃のねらい	バグダッド空爆・炎上する建物 地図を見ながら詳しく説明	「地方のイラク軍部隊は、戦意、装備とも劣悪で、今後も投降が続く。米英軍は南部は制圧したが、バグダッドでは徹底抗戦することもある」	大野元裕 (中東調査会・客員研究員)	スタジオ	420
10	油田火災の影響	黒煙を上げる油田	「イラクの石油埋蔵量は世界1位とも。南部の3つの主要油田は生産量から見て、今後の復興からみても大変重要。油田火災の消火には大変なコスト。世界的に見て、短期間で終われば影響は少ないが、長期化すれば石油価格の上昇にも」	畑中美樹 (国際開発センター主任研究員)	スタジオ	313
11	米軍の展開	北部地域、西部地域 B52	「米ABC、Foxなどの情報では、北部と西部の飛行場を制圧。米地上部隊はバグダッドの南200キロまで到達。英国の基地からは、B52が相次いで離陸、イラク空爆へ。南部では米兵に最初の	森田読み	ABC, Fox	118
12	日本の対応	日米首脳・電話会談 小泉談話 関係省庁会議、経済動向報告、中東の日本人避難勧告、JICA支援チーム出発 テマパーク、横田基地の警備	「小泉は米の武力行使を支持と伝え、プッシュは作戦はうまく行っている、最少の犠牲で勝利できると確信と答える」 「復興支援は、日米だけでなく国際協調で」	森田読み		354
13	日本の反戦運動	東京・芝公園、銀座デモ				36

放送日 3月21日(水) 番組名「ニュース10」 放送局 NHK イラク報道関連 91' 35" No. 3

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
14	北朝鮮の反応	朝鮮中央TV・アナウンサー	「米は国際世論を無視して攻撃開始。米などの朝鮮半島での戦争準備行動は、我々に正当防衛のためにすべき事を教えている」			196
	韓国の反応	米韓合同軍事演習 (ウォール・イーグル)	「米韓の海兵隊3000人参加が演習に参加。イラク攻撃に集中しているうちに、北朝鮮が挑発行為に出る可能性も否定できないという観測も」	望月鶴雄 (ソウル支局)		
		米軍報道官	「我々の任務は、抑止力としての韓国防衛」			
15	各国の反応・ロシア	ロシア下院・イワノフ外相	「安保理の承認がない限り、米の武力行使は侵略で不当」	高尾潤 (モスクワ支局)		99
			「武力行使がTVで伝えられる中、ロシアでは反米感情高まる」			
16	世界の反戦運動	アメリカ	「反戦で立ち上がり」「イラク国民に罪はない」			83
17	各国で警備強化	フランス (中高生)、ベルギー、エジプト、韓国 (警官隊と衝突)	利用者「最近の情勢を考えると心配」			59
18	米軍動向	米軍、3方向から前進 北部砂漠地帯の特殊部隊 南部の戦車、B52発進	「米軍などは主力の歩兵師団をイラク南部に投入、一部部隊がバグダッドに向けて前進、北部西部でも輸送機を使って部隊投入」	読み		109
19	ブッシュ政権の動向	米・閣僚会議・ブッシュ	「ブッシュは攻撃全般が順調と自信を示す」	手嶋龍一 (ワシントン)	ワシントン中継	375
		マイヤーズ参謀本部議長	「イラク指導部は正当な攻撃目標」	手嶋		
		原油取引所	「生・化学兵器への備えと、油田制圧が作戦の大きな課題」	神子田章博 (ワシントン)		
			「ガソリン価格の上昇が景気回復を遠のかせることが心配される」	手嶋		
20	クウェート報告	戦車部隊、投降するイラク兵	「湾岸戦後の経済で失敗した父の教訓から、油田を守れと前線にゲキ」 「第3歩兵師団は間もなく全部がイラク領内へ。米英海兵隊がアルファールとウナムカスルの一部制圧。クウェートでは2日連続でミサイル攻撃。米側は禁止されたスカッド・ミサイルだと主張、イラク軍の抵抗はほとんどないが、油田の火災という懸念があり、北部などで特殊部隊を投入して制圧目指す。南部ではイラク軍の抵抗が伝えられているが、部分的な抵抗ではないか。このままで	池光敏弘		200
21	戦況解説	地形模型図で説明、米軍戦車部隊		江地謙介	スタジオ	390

放送日 3月21日(水) 番組名「ニュース10」 放送局 NHK イラク報道関連 91' 35" No. 4

配列順	項目名	映像・字幕	音声（キーワード・要旨・特徴）	リポーター・ゲスト	発信地	時間
22	バグダッド報告	サハフ会見	「投降しているのは金で雇われた連中、我々はヘリ2機を破壊」		アンマン中継	192
		メディアの民間被害地取材	「サハフはウムカスル制圧報道は正しくない。こうした宣伝工作で弱体化することはないと徹底抗戦強調。イラク当局は大きな被害を受けた計画省などの取材を厳しく制限する一方で、民間の被害箇所には報道陣を案内、攻撃の不当性を世界にアピールするねらい」	出川展恒		
		シリア国境の避難民				
		米中央軍司令部	「フランクス司令官の会見は1度も開かれず、作戦の全容把握は不可能。英軍情報では、合同軍がアルファウを制圧、米軍情報ではウムカスルも制圧。今後は油田の確保巡るバスラの攻防が焦点」	櫻原美樹		
24	米側の今後の作戦	ブッシュ演説	「大量破壊兵器を持つ無法者の国家を許さない」		スタジオ	427
			「フセイン一家の居場所をたいて彼らを排除できれば、血を流さずに戦争を終結できるというので、急きょ予想外の行動に出た」	高橋和夫（放送大助教）		
		フセイン演説	「犯罪者ブッシュは同盟国とイラクに攻撃を仕掛けてきた…。イラク万歳、パレスチナ万歳」			
			「にせもの説があるが、私は本人だと。フセインが生きていることを示す必要があった。アフガン戦同様、特定の部隊を攻撃して力を見せつけ、全体を震返らせるやり方で、政権トップと将兵を切り離すメッセージ」	高橋		
25	政府の対応	小泉会見	「ブッシュとは、復興支援は日米だけでなく、国際社会と協調しようとした」			109
		関係省庁会議・福田官房長官	「国民の安全確保・経済混乱回避に万全を」			

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
1	イントロ	夜の地上砲火、戦車				
	タイトル	バグダッド空爆、けが人(宇)米作戦名「イラクの自由」			FOX	68
	「この戦争の正体」	世界と日本のデモ				
2		ゲスト3人が、この戦争に命名	「超大国アメリカによる帝国の戦争2日目は、空爆に加え地上戦も開始。その一方で、世界各地で反戦のうねりが。番組では戦争の正体を探る」	筑紫キャスター	スタジオ	
		「妄想の戦争」	「やられる前にやるなど、いくつもの妄想が積み重なった戦争」	姜尚中(東大教授)		134
		「帝国戦争」	「帝国主義でなく、世界規模の帝国を目指す過程での戦争」	D・ラミス(政治学)		
		「ワンマン戦争」	「父ブッシュが果たせなかった夢の実現など、2つのワンマン戦争」	浅井信雄(国際政治学)		
3	攻撃2日目	第2波のねらいは「衛星と恐怖」、夜の空爆、GPS誘導のハイテク兵器も	「私のいるホテルの真上に向けて対空砲が。また真上を飛ぶジェット機の音が聞こえる。落ちてこないことを祈るだけ。昨夜の空爆は30分以上続き大量の黒煙が。建設省の建物がほぼ全壊している。国営ラジオは米軍ミサイル22発を迎撃、戦闘機も撃墜と伝えたが、バスクなどの悪いニュースは一切伝えず」	久保田弘信(フリー)	バグダッド中継	
		テレビ局も被害	「イラク情報省「テレビ局は問題ない」			158
		ワシントン支局員	「ブッシュは米軍はすばらしい技術と勇気を持っていると賞賛」			
		ラムズフェルド会見	「フセインに残された日はわずか、今後の攻撃はこれまでになかった規模に」			
		サハフ情報相、イラク閣議	「米はフセイン暗殺のためにミサイル40発を打ち込んだが、演説をみて落胆しているだろう」			
		セイモンも出席	バグダットの女性「女性も殉教者になる覚悟」			
4	各地の戦況	市内の病院、けがした子供(宇)地上戦ヘイラク市内150キロ TBSタカニュース	「海兵隊、第3歩兵師団バグダッドに向け進撃、一部はイラク市内50キロまで」	権元芳朗(中央軍司令部)	カタール中継局	
		北・南部の戦況				
		クウェートからハリヤー出撃			AP, FOX	
		ブレア演説	「多くの国の安定のため、英軍に攻撃参加を依頼」			
		油田火災の衛星写真(AP)	「クウェートはイラクの油田が火災と報じる」			
		進撃する戦車、投降するイラク兵	「アルジャジーラはバスクラで米、イラク軍が交戦」	読み		138
		撃落したヘリの同型機	「米のヘリ墜落、米英兵12人死、英軍はイラク軍の攻撃ではないと」			
		夜のバグダッド空爆、運転手死亡	同僚「彼は結婚して子どもが生まれたばかり」			
		ヨルダン領内・難民キャンプ地	「周囲には何もなない所に難民キャンプの予定地」	権元照幸		
5	世界の反戦デモ	サンフランシスコ	「1000人の建捕者」			22
		フランス、イギリス				
6	小泉・ブッシュ電	前の会談の映像	小泉「武力攻撃を支持する」			
		話会談	ブッシュ「最少の犠牲で最大の効果が得られるように願う」			36
7	バグダッド情報	昼間のバグダッド(中継)	「昨夜の空爆から一夜明けた市内は平静、路線バスも運行。昨夜の空爆は長く続き、政府系の建物に大きな被害」	久保田弘信	バグダッド電話中継	115

放送日 3月21日(水) 番組名「News23」 放送局 TBS イラク報道関連 52' 17" No. 2

配列順	項目名	映像・字幕	音声（キーワード・要旨・特徴）	リポーター・ゲスト	発信地	時間
8	イラク戦情報	米中央軍司令部	「地上軍がバグダッド、バスラめざして進撃、ワムカスルの一部を占領。英国防相はイラクが30余の油田に火を放ったと発表。BBCは、米特殊部隊がキルクーク油田を確保と伝える」	福元芳朗	カタール中継	75
9	イラク情報	フセイン演説	アナウンサー「戦機機撃撃は6000万円、ヘリは300万円が与えられる」 「黄金制度をフセインが直々に決定とニュース速報で伝える」 「イスラムの休日では礼拝の後、反米でも。60万人のイラク人が、アメリカに依存する政府に対して暴動の懸念も」	斎藤雅俊（ヨルダン）	イラク国営TV	110
10	アメリカ情報	抗議集会とデモ	「ワシントンの最新情報も、フセインの消息に関するものばかり。CIAが演説の映像分析をした結果でも、生死はまだ不明」「これ「米軍の北上が速いのは、南北の飛行禁止区域のため、イラク側の空からの反撃ができないため。最終的には首都決戦になると、イラクの防衛態勢が固まっているとは思えないが、堅固な建物が防衛基地になることも」	金平茂紀（ワシントン支局） 浅井信雄	ワシントン中継	97
11	戦況解説		「米国の正義である。米国流民主主義を世界に普遍化できる恐怖感にもづく先制自衛」ネオコンの中にいる世界同時革命信奉者「軍事テクノの通信という五つの妄想による戦争」 「帝国戦争は比喩ではなく、文字通り帝国になるという意味。国際法では帝国は作れないので、国際法を変えてアメリカは先制攻撃ができるようにするといい出した」	姜尚中 D・ラミス	スタジオ	106
12	戦争の性格について		「今回の攻撃は、主権国家に対する侵略で正当化できない。アメリカの目的は石油利権と、政治的にこの地域で優位にたつため。被害を受けるのはいつも民間人だ。日本は戦争防止のためにもっと良い役割を果たせる」			146
13	イラク代理大使インタビュー		「イラク攻撃を止めるのには間に合わなかったが、自分たちにもできることは、これだけ大勢の人が、 若い父親「どんな命でも大事。この子たちが生涯安心して暮らせる世界を…」 若い母親「できることからやりたいと思ってきた。この子の父は米軍人だが」 少女「アメリカにも戦争反対の人が大勢いることを知って！」 「若者の街にある公園を高校生が埋め尽くす。攻撃が始まった今でも、何かできるかもしれないという思い」 高校生「友だちとの会話で、戦争は駄目と…」 女子高生「対話で身近になった人たちが、なにかあったら嫌」 「攻撃に対してはもちろん、日本政府の態度に対しても疑問の声が」 信者「特にイスラムの子どもと女性のために祈る」	リポーター （聞き手・筑紫）シャ キール臨時代理大使		180
14	反戦のうねり	東京・芝公園 東京・渋谷の高校生集会 インターネットでイラクの若者と交信した女子高生 東京・芝公園からのデモ イスラム寺院 高校生のアビー・ウォーク（字）反戦のうねり、全国に 鳥手納基地前の集会、曹森 広島では反戦のペイント 米大使館、抗議文受け取り拒否	黒田征太郎「この空がなくなっているイラクは、今地獄…」	リポーター		428

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特記)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
15	反戦運動について		「参加している若者の顔が明るく、いきいきしている。ここ数週間で日本の運動も盛りあげた。」 「グローバリズムがこういう形で、やっと国境を越え人々の手に届いた。」 「戦争がもっと激しくなり、破壊力の大きい爆弾が使われるようになれば悲惨な様相に。米が意図したものと違う方向になる可能性も。」	リポーター・ゲスト D・ラミス 要尚中 浅井信雄	スタジオ	120
16	自立できない日本	小泉答弁・会見	「米の主張を理解し支持すると言え、勝手に追従と決めつけるのは…」 「仏、独などの国と日本の立場は違う。」 「米の武力行使を理解し、支持する。」 「小泉の言葉は、やはりこの人の言葉そのままなのか？」 「フセインは最初の国連決議も無視…」 「国連の決議を無視というか軽視というか…」 「武力行使はフセインに対してであって、イラク国民に対してではない。」 「ブッシュが言う通りだと、わたしも思う。」 「イージス艦が米軍への補給活動で名実ともに米支援。実質的に戦争のできる国へと変貌。」			
	日本の対応について	イージス艦の洋上補給	「ブッシュと小泉の言葉はほとんど同じ。大量破壊兵器の証拠を見たこともないのに、無批判に信じる。」 「日米関係を、二国関係主義シンдрームという人も。あらゆる分野にこの症状が広がっていて脱却できないでいる。この戦争が帝国戦争だとすると、日本にとっては“奴隷の平和”を意味し、その代償がどれほど大きいかが国民は知るべきだ。」 「日本の対応をみると、米のやり方に疑問をほとんど抱いていない。長期的に不確かな戦争に、そんなに思い込んでいいのか危機を感じ。」 「独は韓国・仏との関係を改善したが、日本は中国との関係改善ができていない。改善ができれば極東情勢全体が安定するのに。戦後外交の失敗のツケが今になって回った感じ。」 「独は戦争の過去を直視し反省した結果、考え方も自由になった。日本は歴代政府がそのような努力をしなかったたので、考え方も自由になれない。」	ラミス 素 浅井 ラミス		417
	日独の違い					

放送日 3月21日(水) 番組名「News23」 放送局 TBS イラク報道関連 52' 17" No. 4

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
17	イラクのつぎは北朝鮮	小泉演説 ブッシュ演説 朝鮮中央放送 キム・ジョンイル、軍事パレード ケリー国務次官補 日朝首脳会談 街の声 小泉会見	「今、国益という時の意識の中に北朝鮮問題がある。米が後ろ盾に「危険な大量破壊兵器が危険な独裁者に渡ったらどうなるか、日本も他人事ではない」 「北朝鮮・イラク・イランは悪の枢軸国」 「多くの国が反対する中、米が先制攻撃したことに強い抗議と糾弾」 「敵国と名指しされた北朝鮮は、矛先がいつ自国へ向くかと警戒」 「イラク問題が片付くまで北朝鮮を放擲するつもりはない」 「北朝鮮はNPT脱退、核施設再稼働など挑発行為」「日本では「日本も攻撃反対ばかり言われてられへん」「独裁者は排除すべき」「日本も攻撃反対ばかり言われてられへん」「独裁者は排除すべき」 「米は、日本への攻撃は自国への攻撃とみなすと明言、大きな抑止力に」 「北朝鮮問題で米はイラク攻撃同様、国連抜きで武力行使に出る可	筑紫 アナウンサー ナレーション ナレーション	スタジオ	138
18	イラクと北朝鮮	ゲスト討論	「米のイラク叩きが成功すれば、北朝鮮も叩く可能性があり、それに対して北朝鮮は核保有へと走るという、逆に危険なシナリオへ。今、日本ができることは、残された外交手段で日朝交渉を進め、日本が米・朝の仲介役になれるというシグナルを発すること。もし北朝鮮が先制攻撃すれば、国が消滅するだけでなく、非核の日・朝も共倒れに。北朝鮮問題で日本がイラク攻撃と同様に武力行使を支持すれば、地獄の釜のふたが開くまで米に追随するということ、自分の選択をしはば韓国だけでなく、中・ロに対しても孤立することに。今、拉致問題を早く解決することが必要」 「米がキム・ジョンイル体制を保証すれば問題解決の糸口になるが、追い詰めると逆効果」 「前日の攻撃で建設物の建物はほぼ全壊状態。イラク国営ラジオは米のミサイル、航空機撃墜と伝えたが、バスラなどの悪いニュースは一切伝えず」 「CBSが開戦後初の世論調査。攻撃は正しかったが62%、査察を継続すべきだった35%で、2週間前と比較すると支持が10ポイント増えているが、湾岸戦直後の支持78%と比べれば、決して高くない」	浅井 久保田弘信 金平茂紀(ワシントン支局)	スタジオ バグダッド電話 中継	360 72 62

放送日 3月20日(水) 番組名「ニュースステーション」 放送局 テレビ朝日 放送時間 70' 00" No. 1

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
1	番組タイトル		「バグダッドからの映像には、きのうにもまして爆発音、大きな炎、黒煙が映し出されている。しかし、米は本格的な攻撃はこれからだとやっている」	久米キャスター	スタジオ	54
	イントロ	米軍、イラク南部への進撃	「米軍はフセインと政権幹部に的を絞った空爆。クウェートの地上軍は、国境を越えてイラク領内に進撃」	渡辺キャスター		
2	イラク攻撃2日目 ダイジェスト	夜のバグダッド空爆、連軍する米戦車、巡航ミサイル、攻撃機、イラク兵投降	「空爆第2波は、きょう午前3時ごろ大統領官邸などに巡航ミサイル。イラク側はフセインは無事と」「バスラ周辺では戦闘があったが、全体的にイラク軍の抵抗は小規模。南部のイラク兵に一部が投降」	読み	CNN	188
		(字) 日本では深夜国会	小泉首相「米は日本にとってかけがえない同盟国、日本も同様でありたい」			
		クウェートにミサイル着弾				
		(イラクも攻撃認める)				
		マイヤーズ参謀本部長	「作戦成功のためには、準備段階の攻撃必要」			
		ラムズフェルド長官	「“イラクの自由” 作戦は、今後さらに大規模に。イラク兵は投降せよ」			
		南部油田火災				
3	サブタイトル・空爆・地上戦・油田火災・投降兵	英軍機出撃			FOX	180
		戦車の夜間進撃、炎上する大統領官邸、病院の負傷者	リポーター「まさに戦場が目にある」			
		イラク閣議	リポーター「38人けが、4人死亡…」		アル・アラビア	
		朝鮮中央放送			イラク国営TV	
		砂漠の戦車部隊を中継	「ブッシュは、米主導の連合軍がイラク攻撃を開始したと公言」		CNN	
		ブッシュ会見	「わが軍勢はすばらしい活躍」			
		(字) しかし全米で反戦デモ	CNNリポーター「全ての戦車がバグダッド目指す」			
		戦車の進撃				

放送日 3月20日(水) 番組名「ニュースステーション」 放送局 テレビ朝日 放送局 イラク報道関連 70' 00" No. 2

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
4	サブタイトル・夜の空爆 ブッシュの戦争	バグダッド・夜の空爆	「空爆直後にサイレン、巡航ミサイルが轟音をたてて飛来。イラク人が予想したほどの被害ではなかった」	Q サカマキ (フリージャーナリスト)	バグダッド中継	270
			「ホテルから1キロ地点に着弾。住宅の屋根に大きな穴を目撃」	宮崎茂樹カメラマン		
		破壊された住宅、死者				
		防衛マスク着用の兵士				
		夜間作戦				
		米軍ヘリ(字)ヘリ墜落、米英				
		兵士12人死亡				
		バスラでの夜間戦闘				
		イラク・ドゥーウリー国連大使	「国境を越えての侵略は、明らかに国連憲章違反」			
		(字)ブッシュ・小泉電話会談	小泉「早く圧勝するように」 ブッシュ「作戦はうまく行っている」			
5	現地記者報告	クウェートに空襲警報	「開戦後艦内の緊張高まる。F A 戦闘機が精密誘導爆弾を抱えて次々に発進、21日はのべ100機にも」	田辺宏(共同通信)	キティホーク・電話中継	503
		空母キティホークから出撃する				
		攻撃機				
		投降兵を調べる米兵				
		サハフ情報相	「投降したのは金で雇われた連中、イラク兵ではない」			
		バグダッド市街	「2日にわたる空爆は、大統領官邸をねらったものだが、実際には民間人にも負傷者が。イラク当局は、病院の負傷者は取材陣に公開したが、政府施設などは軍事地帯として公開せず」	綿井健陽(アジアプレス)	バグダッド中継	
		クウェート市街にミサイル攻撃、市民の避難	「クウェートではきょうも空襲警報、イラクが再度ミサイル攻撃。イラクのミサイルは少数で性能もおちるが、どこに落ちるか分からないこわさ」	内藤正彦(取材班)	クウェート中継	
		カタール・米中央軍司令部	「司令官会見による戦況説明なく、広報官が非公式に説明。英広報は、英軍がアルファウ周辺を制圧、パイプラインを管理下に。ウムカスルではイラク軍が激しく抵抗して交戦、数十人のイラク兵を捕虜に」と説明。	川端進(取材班)	カタール・ドーハ中継	
			「米軍発表ではヘリ1機が墜落、英軍発表では12人が死亡」			
			「米側は、今回の作戦がフセイン政権の内部崩壊に効を奏したと評価。忠誠心の高い部隊幹部との接触で、複数の幹部が投降の意思表明したなど、さまざまな情報流す。イラク国民向けのリークの可能性も」	田端正(ワシントン)	ワシントン支局	

放送日 3月20日 (水) 番組名「ニュースステーション」 放送局 テレ朝 イラク報道関連 70' 00" No. 3

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
6	地上戦の行方・短期か、泥沼か	ワシントン・スタジオ	「イラク側の反撃の弱さは驚き。イラクのミサイルは大半が迎撃され、影響なし。戦争終結まで最大限4～6週間と見ているが、早く首都を制圧して大量破壊兵器を抑えなければ長期化も。共和国防衛隊の忠誠心の強弱が、今後の戦争の動向を左右するカギ」	コーデスマン・戦略国際問題研・上級研究員	ワシントン中継	
	最悪シナリオ・米兵死者4千人	ワシントン	「短期間では良い結果が出るが、中規模の戦闘で7、8百人、イラクが化学兵器を使えば米兵に3千～4千人、イラク市民には数万人の犠牲者も。市街地でのゲリラ戦になれば、米軍に千人、イラク軍に1万人、市民にも同程度の犠牲者がでる。この戦争で多くの市民が犠牲になったら、人々には犠牲者の記憶が残り、過激派のテロは5年、10年と長く続くことに」	オハロン・ブルッキン グス研・上級研究員		837
	戦況分析		「作戦展開が予想より早いのは、進撃方向に攻撃目標がないから。都市の犠牲を抑えるということで、最初の空爆は小規模だったが、B52も出撃しているので今後猛爆も予想される。戦車隊はガンリオンを浪費するので補給が大変だが、2、3日中にはバグダッド近郊へ。民兵に等しい正規軍が、ウムカスルなどで意外に強く抵抗しており、投降した兵士の映像も本当か疑問だ」	田岡俊次 (アエラ)	スタジオ	425
8	最新情報		「サハフ情報相は会見で、フセイン一家の住居空爆では全員無事と発表。CNN情報では米軍に最初の戦死者。英メディア情報では、8機のB52が英国の基地からイラク空爆へ出撃」	鈴木悟 (外報デスク)	外報部	84
9	フセイン映像の真偽	フセイン演説	「恐れずに研を抜け、敵はすでに迫っている…」			
		フレイシャー	「本人かどうか結論はまだ…」			
		ラムズフェルド	「本人かどうか分析している最中」			
		CNNキャスター	「ずいぶん老けた感じ」			
			「フセインには以前から影武者説、ドイツの法医学者は過去の映像分析から少なくとも、3人の影武者の存在指摘」	原田康郎 (ベルリン)		
		ボーマン博士の研究室	「異なる年代、シチュエーションの写真450枚を比較検討」 ボーマン博士「顔の少しの違いも決定的、少なくとも3人の男が影武者」	ナレーション		355
			「しゃべり方が違うようだが、私は本物だと思う」			
		イラク人通訳カサブ氏	「声紋分析が進み、偽者を使うとこえって誤解を生む恐れ。ちゃんとしたものを出した方がいいと判断したのでは」			

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
10	フセインの居場所はどこ？	スタジオでのやりとり	「1か月前から2つの米特殊部隊が潜入、その一つは要人の所在把握が目的で、政権の内部崩壊を目指す作戦。閣議に鳥子の姿がないのは、攻撃の影響か」「共和国防衛隊幹部と米が接触との情報も。隊員に給与が払われていないなどの弱点を米側が突いて、フセインと兵隊を切り離す作戦では、	水口章(敬愛大助教授)	スタジオ	290
	共和国防衛隊		「フセイン本人に何かあれば政権崩壊という想定だったが、影武者ならそうはならない」 「フセイン不在の場合、集団指導体制で政権維持ということになっているのでは、	萩谷順(朝日・編集委員) 水口		
11	世界包む絶望・怒り・反戦の荒波	エジプト、警官隊と市民衝突	市民「イラクを助ける」「アメリカとイギリスはイラクから出て行け」			336
		ヨルダン集会	「ヨルダンではデモは許可制なので、集会は屋内で」	隠岐勝・報告		
		トルコ、バキスタンのデモ				
		ブレア演説	「イラクへの軍事行動を命じた」			
		イギリスのデモ全土に	「攻撃開始以後、反戦デモの規模大きくなる一方」	山田佳晴(ロンドン)		
		フランスのデモ	「米大使館前の広場を埋めつくす人々が抗議」	山田浩仁(パリ)		
		フランス・パリ	参加者「ブッシュを止めないと世界戦争に」			
		ドイツ・ベルリン	「若者の政治的無関心がいわれるが、開戦になると子どもたちもデモに」	原田康郎・報告		
		イタリア、スペインなど8か国の集会・デモ				
		バグダッドの病院のけが人				
		ニューヨーク、シカゴのデモ	少女「アメリカにも戦争反対の人が大勢いることを知って！」			
12	「春分の日」日本でも最大のデモ	東京・芝公園上空(ヘリ)	「イラク攻撃の反戦集会としては最大規模」	リポーター・平石直之		221
		子ども、若者も参加	参加者「これほど戦争に加担するのは憲法違反」			
		日比谷公園・運輸労組集会	労組員「まだ止められるという希望が…」			
		小泉談話	「最少のイラクの犠牲で、最大の効果が得られるよう希望する」			
		横須賀基地上空	「ほとんどの艦船が基地を出ている」	平石		
		大阪テマパーク・手荷物検査				
		佐世保・嘉手納基地の抗議集会				
		東京渋谷の高校生集会	「予想以上の高校生で埋まっている」	リポーター・上山千穂		
			参加者「反戦というより、人が死ぬこと自体に反対」			
		実行委員長にインタビュ	「小さな力だけど、無力ではない」			

放送日 3月20日(水) 番組名「ニュースステーション」 放送局 テレビ朝日 イラク報道関連 70' 00" No. 5

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
13	バグダッド市民は	バグダッド市民の抗議集会	「世界の反戦運動のことをバグダッド市民はよく知っており、世界は我々の味方だ」と…。しかし、あるタクシー運転手は周りを気にしながらも、国民は最後にはフセインを見放す、彼の時代は終ると断言した。空爆の激化と米軍の北上という状況下で、バグダッド市民にとって戦争はこれからが正念場」	リポーター・ゲスト 綿井健陽	バグダッド中継	
	クルド人の今	クルド人自治区・化学兵器に備えビニール・シートを窓に	「住民の8割は化学兵器を恐れて地方へ避難。わずかに残った老人などが、ガスよけのビニールを窓に張りつめている。医療支援もイラク軍の攻勢が強まって困難に」	大西健丞(ピースウインズ・ジャパン)	アルビル・電話中継	380
	ヨルダン国境難民	難民キャンプ	「国境から50キロ地点にある難民キャンプには、440人が到着。ほとんどが外国人、イラク人は国外脱出を許されていない。難民の一人は、今回は内戦になる可能性があり、米軍によって国土が完全に破壊されると怖がっていた」	山野孝之	ヨルダン難民キャンプ・電話中継	
	ウムカスルの今	砂漠地帯からリポート	「イラク軍の抵抗にあって小規模な銃撃戦。短時間で終わり、犠牲者なし」	CNN・ベリーニ記者	中継録画	
14	むすび		「情報戦の性格からみて、バスラが解放される時テレビがどう伝えるかが問題。市民が万歳といって星条旗をもって走る映像があれば、アメリカはイラク解放戦争だとアピールできる」 「バスラはシーア派の拠点で、バスラが喜んだとしても、スンニ派の街バグダッドが喜ぶか疑問」 「反米感情が中東で高まっており、金曜礼拝が終わった後のデモがどうなるか、週末の先進国での反戦デモがどう動くのか。反米と反戦の市民の動きがアメリカの軍事政策にどう影響するか、微妙なところに来ている」	久米キャスター 田岡俊次 水口章	スタジオ	136

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター ゲスト	発信地	時間
1	オープニング	バグダッドの住宅街に爆撃	今日住宅街に爆撃 14人死亡、30人負傷した	アナ読み	バグダッド 配信映像	135
2	アンマン中継	バグダッド空爆 爆撃上げた イラク国営テレビ局	市民は被害が増加するにつれ、反米感情が強まり、イラク国民の解放というアメリカの戦争目的など信用しないという怒りの声が出ている	二村記者	バグダッド	245
3	反撃と砂嵐	イラク南部の激しい砂嵐 ブッシュ会見	砂嵐の中、北上する米英軍 ブッシュは「軍事作戦は順調に進みつつある」	アナ読み	イラク南部	345
4	米軍従軍リポ	記者のビデオフォン映像(戦車)	きょうもはげしい戦闘があった イラク軍に300人の死者が出た	油井記者	ナジャフ郊外	210
5	米空母リポ	記者のビデオフォン映像(キティホーク)	砂嵐のために予定されていた出撃が3時間以上遅れた 25日から26日にかけてカルバラでF A 18機が悪天候でも正確に攻撃できると衛星誘導爆弾を投下した	津屋記者	ペルシヤ湾	150
6	<スタジオ> 解説	スタジオ	爆弾の座標がちがって誤爆したが、これからは誤爆が増えるだろう バグダッドまで400kmあるもので、1日2000トンの燃料・食料を運ばなくてはならない これからは2万人のメディナ部隊と対戦することになる	今井キャスター 江畑謙介(軍事評論家)	ナジャフ バスラ	540
7	砂嵐リポ	米ABC女性記者	この部隊は3日間砂嵐のため一切戦闘していない 精密機器への影響を司令官は心配している		配信映像	120
8	<スタジオ> 解説	イラク共和国防衛隊の解説	フセイン大統領を守る組織を図解して説明 特別共和国防衛隊と共和国防衛隊の違いなど	今井キャスター 大野元裕(中東調査会)		540
9	ロンドン中継	国立戦略研 リチャード・コボルト局長	イラクのメディナ機甲師団は装備古い、地勢にくわしい 米英軍は制空権を握っている	山本記者	ロンドン	400
10	<スタジオ> 解説	共和国防衛隊の訓練・幹部会議	フセインは化学兵器を使えば国際世論を敵にまわすので選択しない	今井キャスター 大野元裕(中東調査会)	配信映像	310
11	米中央軍	ブルックス准将の会見	空爆にあたっては精緻を極めて、民間人に被害が出ないよう努力している		配信映像	120
12	ワシントン中継	1月の米英首脳会談	今夜キャンピングデビッドで米英首脳会談が開かれる 今度の戦いがイラクに自由をもたらすものであることをアピールするため、史上かつてない規模の人道援助作戦を発動したいとしている そのため の新しい国連決議が必要と米英はいつている	手嶋記者		210
13	人道援助	アンマンのユニセフ事務所 職員の一と竹友有二さん	竹友さんは1991年湾岸戦争の時難民を助けたいとユニセフ入り 現在200人の現地スタッフ(イラク人)を後方支援している	アンマン 井上記者	アンマン	400
14	日本政府の対応	日本政府の対応	きょうラングポール首相と会談し、米などのイラク攻撃を支持することと一致した	アナ	東京	320

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター ゲスト	発信地	時間
1	オープニング	迫る首都攻防戦	市場爆撃で市民に犠牲者	アナ	バグダッド	20
2	スタジオ 戦況解説	バグダッドへ北上する米軍 (地図)		筑紫キャスター 草野アナ 浅井信雄 (国際政治学者)		
3	最大規模の空爆	バグダッドの空爆	いままでと比べものにならない位の空爆です、初めてハイテク爆弾が使われたようです	久保田記者電話リ ポート		
4	秘密兵器 初使用	米CBSテレビ	電磁波爆弾です			2~6 計420
5	遅れる首都決戦	ラムズフェルド米国防長官 英 ロックウッド報道官	この戦争がいつ終わるか分からない			
6	米捕虜の公開	捕虜の母親インタ	アメリカでは反戦気分が高まるのをふせぐため、この映像はほとんど放送されていないという事です	アナ		
7	アルジャジーラTVを排除	ニューヨーク証券市場	アルジャジーラTV側は米捕虜の映像放送に対する批判から排除されたと反発	アナ		40
8	もどるイラク人	ヨルダンからイラクへ戻る人々	イラク人労働者が1日400人のペースでもどっている	櫻元記者	ヨルダン	40
9	日本政府の対応	小泉首相インタ	自衛隊で出来ることは何かなど日本として判断すべきと自衛隊の派遣を積極的検討する姿勢			20
10	スタジオ 戦況解説		ブッシュは戦費の追加を議会に急に要請した ちよっと長引くかと思う	筑紫キャスター 浅井信雄		100
11	バグダッド中継	バグダッドの空爆	市中心から15kmの市場がミサイル2本で空爆され16人が負傷、15人が死亡	久保田記者の電話リ ポート	バグダッド	50
12	カタール中継	米中央軍ブルックス准将	戦争は民兵との間で続いている	福本記者		205
13	ワシントン中継	ラムズフェルド長官会見 イラク国営テレビへの空爆	イラク軍の抵抗が伝えられるにつれて、長期戦への覚悟や楽観論をいましめる発言が出てきました 今日放送された捕虜の映像やフセインの健在ぶりを示す映像はアメリカにとって目ざわりそのものでした	金平記者		計215
14	スタジオ アメリカの試算1	ラムズフェルド長官会見 米兵捕虜の映像	南部戦線のつまづき 米軍総兵力は24万人で湾岸戦争の半分以下で守るには少なすぎるとの指摘もある	佐古アナ		430
15	スタジオ 戦況解説		米軍も正規軍同士でぶつかれば圧倒的に強いだろうが砂漠とゲリラ部隊には苦勞するだろう	筑紫キャスター 浅井信雄		150
16	スタジオ アメリカの試算2	イラク国営テレビ	無人偵察機を撃ち落として喜ぶ市民たち、銃をかかてて氣勢をあげる女性たち	佐古アナ		145
17	スタジオ 戦況解説		強いアメリカに正面から戦っているのはフセインだけじゃないかという根強い人気があるのではない	筑紫キャスター 浅井信雄		205
18	スタジオ アメリカの試算3	世界にひろがる反米感情	フランス、ドイツ、スペイン、韓国、インドネシア、台湾、フィリピン、日本、アルゼンチン、メキシコ、チリ、ヨルダン、シリア、パレーンのデモ	配信映像		210
19	スタジオ 情報戦		カタールの米軍ではアメリカの爆撃の正確さを示すのにまたピンポイント映像を見せたが、まだこんなものを見せるのかという感じがする	配信映像		200

配列順	項目名	映像・字幕	音声(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト	発信地	時間
1	オープニング	バグダッド南で激戦	イラク兵300人死亡	アナ	バグダッド	50
2		バグダッド市内の市場が空	イラク国営テレビが空爆され、一時途絶	アナ	バグダッド	
3		CNN従軍記者	敵から攻撃を受けている、すごい砂嵐で混乱している	ロジャース記者		
4		イラク国営テレビ	フセイン大統領は全面的なゲリラ戦を指示した			2~6 計300
5		ナジャフへ向かう米軍	化学兵器工場が発見されたが、調査しただけで見つけられなかった		ナジャフ	
6		国連監視委 プリクス委員	我々が調査したときより、見つけるのは難しいだろう			
7	バグダッド空爆	国連監視委 プリクス委員	住宅街で29人が死亡と伝える		バグダッド	45
8	帰国するイラク人	ヨルダンからバグダッドへ向かうバス	イラク人インタビュー「今が一番大事なときだ」「アメリカが世界で一番悪い」	山野記者		20
9	ベントゴン	ラムズフェルド、ブッシュ	戦争がどれだけ続くかわからない でも結果は我々が勝つのだ			25
10	反戦デモ	ラムズフェルド、ブッシュ	戦争がどれだけ続くかわからない でも結果は我々が勝つのだ			25
11	カタール中継	空爆を受けたイラク国営テレビ	米前線司令部は国営テレビ局をトマホークで攻撃したことを認めた	川端記者		155
12	クエート中継	米中央軍レニョアード少将	アラブメディアは米英に対して、徐々に批判のトーンを強めてきている	内藤記者		200
13	砂嵐の解説	アルジャジーラテレビの映像	砂嵐のメカニズムを実践する	CNN記者		150
14	砂嵐の検証	イラクから持ってきた砂をスタジオへ 米軍をおそう砂嵐 CNN従軍記者	戦車部隊が停止しています、視界は悪く150mもない	平石記者		130
15	砂嵐の検証	鳥取大乾燥地研究センター 空母リンカーン	砂嵐は航空機にも影響を与えた、戦闘機20機以上が砂嵐のためイラクに着けなかった	アナ		150
16	スタジオ 戦況解説	アルジャジーラテレビ ラムズフェルド長官	砂嵐で進軍のスピードが落ちる アメリカはこれまで空爆は精密誘導爆弾だとしてきた	久米キャスター 田岡俊治 (AERAスタッフライター)		230
17	スタジオ 戦況解説	バンカーバスター(特殊貫通爆弾) クラスタ爆弾 (特殊貫通爆弾)				50
18	新兵器E爆弾	米CBSテレビの報道	空爆に電磁波爆弾E爆弾で強力な電磁波を放出する コンピュータなどを使用不能にさせる			300
19	バグダッド中継	バグダッド空爆	きょう過去最大規模の空爆被害が出た 誤爆でなく無差別殺戮が始まったといっても過言ではない	アジアプレス 記者	綿井	310
20	スタジオ イラク国民の本音	バスラ、ナジャフの戦闘	1991年湾岸戦争以降イラク人はアメリカ人に根強い不信感を持っている アメリカにここまで攻撃され、祖国防衛戦争になっている イラク人としてナシヨナリズムが強く表われてきている	川村晃司 (テレ朝コメントーター) 酒井啓子 (アジア経済研究所)		400
21	ワシントン中継		開戦から1週間で米英軍の死者45人、内諒射が24人 最新のNYタイムズの世論調査では戦争が順調と思う人が44%から32%へ下がった	田畑記者		145

配列順	項目名(字幕・キーワードなど)	備考(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト (肩書き・氏名)	発信源	時間
1	リード	(今井)米「作戦は計画どおり」イラクは徹底抗戦の構え、(森田)米補給路確保の掃討作戦強化	今井環・森田美由紀 キャスター		35
2	米軍最前線 1「激化する情報戦」衛星携帯電話の使用禁止(記者リポ、作戦将校インタ、)	将校「傍受されると発信源知られる」米軍同行するすべての取材人に衛星電話の使用禁止、没収も検討	油井秀樹記者	ナジャフ	98
3	米軍最前線 2「攻撃ヘリ集結」	ドイツから派遣されたヘリ部隊到着、攻撃ヘリアパッチ40機待機、輸送ヘリ頻繁に離発着バグダッド包囲網に備え、補給路警戒を強化	//	//	62
4	米軍最前線 3「激化する夜間爆撃」	艦載機30〜31日59発の爆弾投下、夜間に集中、ハイテク兵器で戦車・装甲車など、フセイン大統領関連施設、ペルシヤ湾艦艇からも巡航ミサイル・トマホーク10発、バグダッドの軍事拠点攻撃、補給路の安全確保の任務も	米従軍津屋尚記者	空母キティホーク	83
5	イラク国内の最新状況 1 爆撃	バグダッドの空爆激化、大統領官邸・情報関連施設・共和国衛隊に集中攻撃、20分前数箇所でも爆発音、プレスセンター・イラク情報省も再びミサイル攻撃を受けた、国営放送再開、電話不通に。	出川展恒記者	アンマン・アルジャジーラ	66
6	イラク国内の最新状況 2 サブリエル相記者会見、強気の姿勢	「イラク軍・市民が強く戦い、米英の選択は撤退のみ、アラブ市民の反戦の動き賞賛に値」、	イラク サブリエル相	イラク国営放送	49
7	イラク国内の最新状況 3 自爆攻撃	イラク指導部、ナジャフ郊外の米兵4人死亡の自爆テロきっかけに広範囲に行うと警告、「アラブ諸国から5000人の志願兵集まった」	出川展恒記者	アンマン・アルジャジーラ (?)・前線 (?)	36
8	米軍司令部ブルックス准将記者会見	「空と地上から順調に進んでおり、共和国衛隊拠点が攻撃目標の中心、包囲網狭めている」「海兵隊ナシリーアで防務スーツ、神経ガス除去の車両など発見、イラク軍化学兵器使用能力の証拠」「制空権はほぼ掌握」「シリア売買の疑いの暗視スコープ未発見」フランクス司令官クエート基地視察、負傷兵見舞い」	榎原美樹記者	カタール・前線 取材映像(?)	105
9	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 1巡航ミサイル イラク情報省を直撃		森田美由紀キャスター	バグダッド	35
10	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 2ゲリラ戦と掃討作戦	「攻撃だ!」「29日イラク側が自爆攻撃米兵4人死亡」「砂漠の戦場で死亡した兵士を悼む」	(コメントなし)	イラク南部・ナジャフ	33
11	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 3イラク ラマダン副大統領記者会見	「今回の自爆行為は単なる始まり」	(コメントなし)	イラク国営放送	13
12	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 4米統合参謀本部マクリスタル作戦副部長記者会見	「非常に懸念、我々の兵士守ることが常に必要」	(コメントなし)	ワシントン (?)	23
13	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 5米英軍イラク民兵組織の掃討作戦を強化		(コメントなし)	ナシリーア	12

配列順	項目名(字幕・キーワードなど)	備考(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト (肩書き・氏名)	発信源	時間
14	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 6 29日	「出て来い！」	(コメントなし)	イラク南部	11
15	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 7 30日	「英軍 イラク民兵組織を攻撃」	(コメントなし)	バスラ	12
16	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 8 30日放送	「アラブ諸国から志願兵集結と報道」「血も魂もサダムに！」	(コメントなし)	アルジャジーラ	18
17	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」 9	「攻撃開始から12日 戦争長期化の様相も」	(コメントなし)	前線取材映像	15
18	模型使用の戦況解説	「クエートから入り400キ以上前進ユーフラテスにかかる橋2ヶ所を制圧、4つの方向に別れてバグダッドを睨もうとしている」「ここ数日大きな前進なくイラク側の抵抗排除、地域の安全確保の作戦。101空挺師団＝空の騎兵隊、350機のヘリ所有、カルバラの北でメディナ師団を攻撃、ナシリアに米軍補給の要衝作ろうとしている。米軍攻撃的作戦でなく次の攻撃のための準備の作戦」「軍事専門家共通の『作戦の誤算』4つの指摘(パターン使用)」「米軍前進より立て直して空爆強化、イラクの戦力をぐねらい」「地上戦であっても限定的」「イラクへ向かう第4師団(デカサス州)」「部隊の展開集結で大規模な首都攻略作戦可能に」 *米軍の行動・朝のブッシュ	秋元千明解説委員		534
19	企画「イラク情報戦、CIAの戦い」(テネット長官を追う)	リード・森田キャスター(35") 大統領への報告(20")、テネットの生い立ち(17")、演説「イラクは大規模破壊兵器開発、テロ支援」(14")、ブッシュの絶大な信頼(13")、国連パワエル演説の支え(21")、ラムズフェルトへの最高の機密情報提供(28")、ステルス戦闘機のイラク上空待機(9")、19日国家安全保障会議フセイン空爆決定(25")、ブッシュ演説(11")、フセイン演説(6")、バグダッド空爆(8")、ウォーカウンスシル出席の常連(17")、国防省テロの教	山下毅記者	ワシントン	243

放送日 3月 31日(月) 番組名「NEWS23」 放送局(TBS) イラク戦争報道計(18' 30") No.1

配列順	項目名(字幕・キーワードなど)	備考(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト(肩書き・氏名)	発信源	時間
1	リード	長期化の様相、人は確実に死に続けている、アメリカの中からも短期決戦を掲げて戦争に突入した重の見通しの甘さを指摘する	筑紫哲也キャスター		35
2	現在の戦況(模型使用)	アメリカ・イギリス軍空爆を続けながら地上軍がバグダッドを包囲する態勢で進撃つづける。最前線カルバラ付近、米101空挺師団、共和国防衛隊にへりなどで激しい爆撃。反体制派クルド人武装部隊交戦することなくゆっくり北からバグダッドへ。補給路寸断で米英軍のスピード鈍り長期戦の見方。	佐古忠彦キャスター		50
3	3月31日イラク戦争ドキュメント 週末からの動き1 28日米英軍イラク情報省を爆撃	「最大の誤爆か50人以上死亡」市場でミサイルと見られる爆発、イラク側「米軍の誤爆」と強く非難。「米英軍は…『確認中』」	(コメント)	バグダッド	51
4	3月31日イラク戦争ドキュメント 週末からの動き2 初の“自爆攻撃”も	兵士「卑劣なテロ行為」アメリカ側に爆撃。ナジャフの検問所でタクシージャが停車、米兵が調べていたところ運転手がトラックを開けると爆発、運転手と米兵4人が死亡。検問所看板「止まらなければ撃つぞ」フランクス司令官「フセイン政権『名譽なこと』普通ではない」イラク側殉教者と称え更なる攻撃を予告「アラブ諸国から4000人の義勇兵が入国」と発表。	(コメント)	ナジャフ	110
5	3月31日イラク戦争ドキュメント 週末からの動き3 進まぬ地上部隊	「補給活動に遅れ」食料・燃料が不足「一日一食の部隊も…」ブッシュ「バグダッド攻略推進」長期戦への見方が拡がりフランクス司令官「いつまで続くかわからない」	(コメント)	カタル	29
6	3月31日イラク戦争ドキュメント 週末からの動き4 世界中で反戦	インドネシア、アメリカ、大阪、「中国でも初の反戦デモ200人参加」「イラクでは爆音の中でサッカーリーグ開催」	(コメント)		39
7	3月31日イラク戦争ドキュメント 週末からの動き5 日本の難民用テント到着	PKO協力法に基づく人道支援として「政府専用機2機ヨルダンに到着」	(コメント)	ヨルダン	13
8	バグダッド最新情報 電話インタビュー	「空爆されたサダムタワー(29日)」隣接する郵便局も破壊された。「近くの民家の窓ガラスも吹き飛んだ」(先月27日筑紫キャスターのサダムタワー取材映像)「アル・ヤクーム病院(29日)」「引っこ切り無しに負傷者が運ばれてくる」「27日の空爆で負傷したゼイ・ラーフェくん(4)」	ビデオジャーナリスト集団福岡孝浩さん	バグダッド	74
9	戦況解説1	筑紫「こう着状態？」小川「補給線維持できずは不思議。アメリカ世界でもっとも補給兵站重視の部隊、入り口バスの海兵隊「一日一食」も？イラク戦路そのものに何か病根が。	軍事アナリスト小川久和		116

放送日 3月 31日 (月) 番組名「NEWS23」 放送局 (TBS) イラク戦争報道計 (18' 30") No.2

配列順	項目名 (字幕・キーワードなど)	備考 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト (肩書き・氏名)	発信源	時間	
10	ラムズフェルト国防長官 作戦は順調?? 1 Vリポ	アメリカで作戦計画に批判、週末井明も混乱、「3月21日ラムズフェルト『短期決戦』」「『戦争長期化』」に長官は・・・「3月26日『いつまで続くかわからない』」「3月30日『地上軍日々増強、当初の計画どおり』」「兵士数の判断はフランク司令官が作成、フランク「3月30日『戦争前、兵力増強求めたことない』」「29日作戦見直しを協議」「作戦は順調か?」	(コメント)		148	
11	ラムズフェルト国防長官 作戦は順調?? 2 生中継	ネオコンの楽観論の狂いで犯人探し。ベトナムのような泥沼化は時限違ふ。この戦争初めから勝敗が決まっているほど戦力に差、むごい勝ち方 (市民多数の犠牲) への懸念も「世論メディアには戦争への疑問ない。逆に戦争指示の動きを一層引き締めようと言う方向」「ピーター・アーネット記者『戦争は失敗』発言でNBC解雇」	金平茂紀記者	ワシントン	126	
12	戦況解説 2	米、湾岸では外交努力。息子の時代外交努力全くしない。粗雑、思い上がりとも言える行動で戦争に。イラク国民アメリカを歓迎するとの思い込み。ラムズフェルトある種の壮大な実験＝新しい戦争、ガラス細工のようなところあるがそれが今ひび割れしだして、今修正中だが、仮に開城、後の敵に回したイラク国民との長期化、年単位で覚悟せねば」	軍事アナリスト小川久和		308	
13	派兵めぐり韓国苦悩	デモ「戦争反対! 派兵反対!」「ノムヒョン政権後方支援部隊派遣を閣議決定」「国家人権委員会『今回の戦争は反人道的行為』と声明」政府、北朝鮮の脅威でアメリカとの同盟重視せざるを得ないと判断、大統領「国益にかなう、建設工兵部隊と医療部隊派遣」世論調査「戦争反対74%」「派兵反対47.7%賛成47.5%」1年後に総選挙、採決先送り。	梶井正人記者	韓国	156	
14	イラク戦争株師を直撃	「株師8000円割れ、21年ぶり、「東証平均7972円71銭」一年で3000円以上値下がり「上場企業の含み損3兆6500億(02年9月の7倍)」対米輸出にも影が	草野満代キャスター	東京	92	

放送日 3月31日(月) 番組名「ニュースステーション」 放送局(テレビ朝) イラク関連時間計(25' 09") No.1

配列順	項目名(字幕・キーワードなど)	備考(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト (肩書き・氏名)	発信源	時間
1	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること1 週末の空爆バグダッド市内(アル・シュラ地区28日夜)	空爆映像の後インサート映像ラムズフェルト「うまくいっている」2カット。イラク市民の被害確実にはいるが、「市場が空爆」「棺運ぶ市民」市民・米慈善活動家インタ「住宅街が」、サハフ情報相「負傷107、殉死68」	(コメント)	バグダッド	80
2	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること2 アルジャジーラ引用	アナ「14歳の少女が殺され家族も重傷」家族「彼女は殺されたのよ」少年「僕たちは台所にてミサイル爆発、弟は内臓が出ていた」記者「アメリカは清潔な戦争と言っていたはず」	アルジャジーラTV記者	バグダッドほか	52
3	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること3 米司令部記者会見	米ミサイル戦国サウジにも被害、少将「サウジ領土に数発着弾、発射行程見直し約束」	レニョアート少将	カタール(?)	19
4	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること4 29日クエートにイラクのミサイル着弾	着弾現場の被害、市民「支援で食料送っているのに独裁者サダム、ミサイルの贈り物」	ANN取材団斎木文武記者	クエート	50
5	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること5 29日自爆	記者「アラブの人たち自爆行為＝殉教」市民「賛成だんどんやって」「神の為の行動だ」	ANN取材団隠岐勝記者	ナジャフ・アンマン	94
6	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること6 30日イスラエルでも	38人が重軽傷、「自爆犯は19歳のバレスチナ人」イラク聖戦「志願者をイラクに送った」義勇兵「侵攻を防ぐのは信仰心」イラク政府「4000人がイラク入り」アジス副首相「彼らは英雄」	(コメント)	イスラエル(ネタニア)	60
7	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること7 記者リポ	「前線部隊バグダッドまで100キロ」、足踏みしたまま、「食事が1日1回になることも」ゲリラ補給路の寸断をねらい攻撃、ラムズフェルト「攻撃続行」増援部隊展開1ヶ月かかるといふ。	(コメント)	バグダッド(アルジャジーラ)前線映像(?)	41
8	最新情報1 イラク南部戦線と開戦後の被害	カルバラ付近「米第3歩兵師団と共和国衛隊が交戦」「イラク兵200人が死傷が拘束」「米英連合軍ナジャフを包囲」「米第2空挺師団がゲリラ100人以上殺害か」イラク政府「開戦から11日で市民420人死、4万人が負傷」	(コメント)	カルバラ(AFP通信)・ナジャフ	49
9	最新情報2 エジプト ムバラク演説	ムバラク「イラク戦争は100人のビンラディン氏を生む」		?(ロイター通信)	14
10	米英軍の出撃拠点にイラク反撃	イラク、補給ルートの起点クエートに揺さぶり、「一昨日のミサイル、発射地点米英占領のはずのファウ」昨日アメリカ軍の集団にトラック突っ込み15人ケガ(米軍キャンプ地内)、サダム決死隊が連合軍服で潜入の情報、連合軍補給路根元のバスラで人道援助と軍事攻撃組み合わせた作戦展開、増援部隊の到着・配置補給路確保4月半ば以降、砂漠の気温40℃越え、戦闘環境さらに悪く。	ANN取材団内藤正彦記者	クエート	131
11	週末の空爆開戦以来最大1 28日アッシュウラ地区市場	アッシュウラ地区に2発のミサイル、市場を直撃55人死亡、数百人が負傷、	(久米コメント)	バグダッド	59
12	週末の空爆開戦以来最大2 31日イラク情報省	屋上のアンテナ設備破壊すべての機能停止の報、	(久米コメント)	バグダッド	31

放送日 3月31日(月) 番組名「ニュースステーション」放送局(テレビ朝) 放送局(テレビ朝) イラク関連時間計(25' 09") No.2

配列順	項目名(字幕・キーワードなど)	備考(キーワード・要旨・特徴)	リポーター・ゲスト (肩書き・氏名)	発信源	時間
13	週末の空爆開始以来最大3 バグダットからの生中継	「断続的に空爆継続、無気味な音に昼夜を問わず支配されている。市内全域で電話ダウン。情報省空爆でプレスセンター、市内のホテルに移動、街で奇妙な現象、市内で商店次々閉店。空爆の犠牲者増える可能性。長期戦の予測市民に、臨戦ムード和らぎ警官・兵士の姿減る」	アジアプレス綿井健陽記者	バグダッド	160
14	米軍、南部ルメイラ油田の取材許可	「奇襲避けバスラ避けて移動」「煙です！」9箇所中3箇所が消火、湾岸戦争の引き金になった因縁の油田、「一番ひどい状態の油田」「ダイナマイト使用の鎮火方法検討」「開戦日の20日に炎上」米兵「破壊のための爆弾発見」食い違ふ双方の主張、イラク「連合軍の仕業」。消火活動約100人「ブッシュ大統領の地元の民間会社が参加」イラク軍破壊の証拠「公開せず」	ANN取材団内藤正彦記者	イラク・クエート 国境	189
15	企画 焦りといらだちー米英政権の中核 1 米政府	アメリカ陸軍司令官「机上の演習では会った事のない相手」ウォルフビッツ国防副長官「我々は敵を侮りすぎたかもしれない」「衝撃と恐怖作戦は失敗だ」ワシントン・ポスト「制服組と背広組の亀裂が始まる」「ラムズフェルトへの批判」FOXテレビに出演全面否定、マイヤーズ統合参謀本部議長「作戦は順調」	(コメント)		104
16	焦りといらだちー米英政権の中核 2 英ブレア首相	ブレア首相、戦死遺族からうそつき呼ばわりされている。ブレア「処刑されたイギリス兵士」遺族「戦闘中の名譽の戦死と知らされている」ブレア、兵士だけでなく遺族の名譽も傷つけた？口を閉ざしたまま。	(コメント)		80
17	焦りといらだちー米英政権の中核 3 米ブッシュ大統領	ブッシュのラジオ演説「フセイン体制恐怖で支配、捕虜は残忍に処刑、戦いの拒否者は殺され、米英軍に手を振っただけで女性絞首刑」	(コメント)		107
18	ブッシュ政権苦しい弁明 生中継記者リポ	「制服組と背広組の亀裂深刻、ラムズフェルト『変えるつもりない』マイアーズ『準備整うまでバグダッドに進攻しない』、陸軍当局者『夏かそれ以降までかかるかもしれない』、長期化！北朝鮮の攻撃中東の不安定化・駐留と復興困難に、ブッシュの指導力問われている。ワシントンポスト記事背後にパウエル、ラムズフェルトの戦争からパウエルの戦争へ、2人の確執が。	ANN取材団畑正記者	ワシントン	193
19	久米・清水コメントーターまとめ	久米「短期で終わることはなくない？」清水「米指導部の甘い見通し忘れないようにした方がいい」	朝日新聞編集委員清水建宇		66

放送日 4 月 4 日 (金) 番組名「ニュース10」 放送局 (NHK) イラク報道関連計 (31' 55") NO.1/1

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター ゲスト(両書き)	発信地	時間	報道 スタンス
1	オーブンニング 米軍サダム国際空 港は制圧	戦場シーン キャスター ブッシュ演説 サダム国際空港付近戦闘 米軍部隊の司令官インタビュー	空港 制圧 迫る米軍 米発表 イラク兵320人死亡 40人捕虜			115(115)	
3	リ	イラク サハバ情報相	フセイン大統領演説「イラク国民は昼夜を通して戦いぬけ」		バグダード イラク 国営放送	25(330)	
4	リ	バグダード空爆 (夜) 市内の民兵インタビュー (屋)	「攻めてくれれば徹底的に戦う」 北部、南部で戦闘活発化 米英軍首都包囲網狭める		バグダード	35(405)	
5	リ	米軍戦車			従軍取材	17(422)	
6	空港制圧を空から 支援	津屋尚記者 キティホーク艦上 艦載機の発進	「イラク空軍の司令部に激しい攻撃。指揮機能を奪うことで、イラクが小型機を使って生物化学兵器を撒き散らすことを防ぐかもしれない」とみられる	津屋尚記者 (空母キティ ホーク)	空母キティホーク	157(619)	
7	米ABC" 空港制 圧の道のり"	移動する部隊 道路に炎上するイラクの車両 手を振って歓迎する市民 夜 攻撃する米軍 サダム国際空港 説明する米将校			米ABC	208(827)	
8	アルジャジーラ" 爆弾" 危険な段階 に	バグダード (夜) 市内、爆弾の残骸 病院 怪我の少女 インタビュー 空港施設内	「バグダード南部ドーナツで大規模空爆、イラク側によれば発電所がクラストー爆弾で 攻撃 市民18人が死亡 この戦いはイギリスとアメリカには解放の戦いだだが、イラ クとイスラム世界には侵略」		アルジャジーラ	120(947)	
9	アンマン中継	出川記者 アンマン フセインの声明読むサハバ情報相 バグダード市内民兵 モスクでの礼拝風景	「最終的な勝利は神が約束」 出川「声明はイラク市民に届いていない」	出川展恒記者 (アンマン)	アンマン	227(1214)	
10	【スタジオ】戦況 解説	バグダード市内地図 サダム国際空港	市内 空港、宮殿の位置の説明「空港のイラク兵が少ない」	中東調査会大野元裕客員研 究員	【スタジオ】	212(1626)	
11	" もうひとつの戦 争" イラクの 情 報戦	イラク国営テレビ、番組映像 アルジャジーラ 不時着 したアメリカ軍ヘリ アラブ系テレビ局特派員 米軍国 営テレビを攻撃 米司令部フリーフィング イラク国営 テレビ番組 簡易アンテナの設置 イラク国営テレビ 送信のしくみ (CG) 元総裁インタビュー	アラブ系特派員「イラクはアラブ系テレビ局の価値を知っている」NHKリポーター 「テレビ局攻撃はジュネーブ条約違反とされる」ブルックス准将「テレビ局は正当な 目標」イラク国営テレビ総裁「万一の準備はできている」一矢記者「湾岸戦争とちが いアラブ系テレビ局が大きな存在感」	一矢好彦記者 (アンマン)	アンマン	419(2045)	
12	【スタジオ】解 説・バグダード市 内のメディアの位 置	市内地図 バグダード市内	イラク国営テレビのねらい イラク国民はテレビが好き。停電でラジオを聞く	中東調査会大野元裕客員研 究員	【スタジオ】	335(2420)	
13	米英軍最新情報	米中央軍司令部会見 ブルックス准将 空港の米軍	「バグダード国際空港と命名」	植原美樹記者 (カタール)	カタール米中央軍司 令部	255(2715)	
14	" 終戦のあり方" 元国防次官が語る	米元国防次官フレッド・イクラ氏 "ベトナム、湾岸、 そしてイラク" のスーパーステージ 書籍「EVERY WAR MUST END」湾岸戦争当時バウエル、チェイニー ら	イクラ「戦争は終らせる時になっても長く続きがち」 山下「この本はバウエルに影 響」バウエル (声)「この本をチェイニーらに渡した」山下「バウエルは湾岸戦争を 終りに導いた」イクラ「フセインを倒したら直ちに直ちに戦闘停止を」	山下毅記者 (ワシントン)	ワシントン	440(3155)	

放送日 4 月 4 日 (金) 番組名「NEWS23」 放送局 (TBS) イラク報道関連計 (21' 00") NO.1/1

配列順	項目名	映 像 ・ 字 幕	音 声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター ゲスト(肩書き)	発信地	時間	報道 スタンス
1	オープニング	空港 スーパー「空港制圧」「バグダッド停電」「首都めぐる攻防緊迫」	空港 制圧 迫る米軍				
2	新型肺炎現地報告					545(545)	
3	【スタジオ】戦況解説	イラク地図 佐古キャスター	佐古「空港制圧で重大局面」			40(625)	
4	4月4日 イラク戦争ドキュメント	空港付近 スーパー「アメリカ側、イラク兵320人が死亡」「イラク側 民間人告め88人死亡」	米兵士「この滑走路が使える」		従軍取材	100(725)	
5	バグダッド全破壊電	バグダッド(夜)スーパー「英フィナンシャル・タイムズ紙・米英軍の爆撃が原因 停電後特殊部隊が活動」「米中央軍・電力施設への攻撃を否定」	(ほぼスーパーの内容)			24(749)	
6	ブッシュ「バグダッド攻略は近い」	演説するブッシュ ラムズフェルド会見	ブッシュ「残虐な政権が幕を下ろしつつある」 ラムズフェルド「フセインの亡命は認められない」		ワシントン	41(830)	
7	イラク「反撃態勢」に。モスク立ち入りにNO!	バグダッド市内 決戦に備えるバース党員 ナジャフ抗議する民衆	バース党員「ブッシュとブレシアは出ていけ。さもないと血をみるぞ」「モスクはNO」		バグダッド	52(922)	
8	フセイン大統領声明	声明を読み上げるサハフ情報相 フセインの映像	声明「最後の勝利は間違いない我々」		バグダッド	31(951)	
9	最新戦況 カタール米軍前線本部	竹島史浩記者 カタール・アッサイリヤ基地 ブリックス准評会見 (映像のみ) サダム国際空港	竹島「AP通信は、バグダッドの南400キロで、アラビア語で書かれた化学兵器に関する本と、数千の白い粉の入った箱を発見、と伝えた」	竹島史浩記者	カタール米中央軍司令部	121(1112)	
10	バグダッド最新情報	筑紫キャスター アジアプレス綿井健陽記者	市内の様子のリポート 綿井「断水があると水の供給が大きな影響を受ける」	アジアプレス綿井健陽記者	バグダッド	218(1330)	
11	ブッシュ大統領 人気ワケ	金平茂紀記者リポート ノースカロライナ海兵隊基地 キャンプ・ルジューン ブッシュ演説 海兵隊員インタビュー 原爆投下 構ったイラクの子ども、世界の反米デモ	ブッシュ「完全な勝利しかない」 兵士「彼を100%支持、彼のためならなんでもやる」「イラクの人たちのことも考える心の温かい人」「演説をきいて私たちがいいことをしている気になった」 ブッシュ「イラクが解放されるまで戦いはやめない」 【レ・ジャ】ブッシュは倒 近に「歴史を転換する決断をしていることを自覚している」と語った。広島に原爆を落として第二次世界大戦を終結させたトルーマン以来と評価する声も。しかし、戦争の悲惨な映像が伝えられる中で、アメリカ以外のブッシュへの目はきびしくなっている。 の追加観る。ブッシュ演説「わが国に神	金平茂紀記者 (ワシントン)	ワシントン	328(1658)	
12	筑紫コメント	【スタジオ】筑紫キャスター他・・・後藤田紹介	筑紫「アメリカとそれ以外の世界の空気がまるで違っている。これは世界にとって危険なこと」			31(1728)	
13	CM					200(1928)	
14	「この戦争の正体」検証 日本の選択 後藤田正晴氏の切る	スーパー「この戦争の正体」 後藤田正晴 筑紫キャスターとの対論 筑紫キャスター	後藤田「(湾岸戦争後の自衛隊派遣について)よその国がやられているからといって出かけていて助けるなど憲法ではできない」「ソ連が無くなったときに安保条約見なおすべきだった」「日本は半保護国」「なぜ無原則になるか、健全な野党勢力がない」筑紫「日本が世界のリーダーから消える」後藤田「アメリカの後についていって」と思っている」			916(2844)	

放送日 4 月 4 日 (金) 番組名「ニュースステーション」 放送局 (テレビ朝日) イラク報道関連連計 (20' 23") NO.1/1

配列順	項目名	映像・字幕	音声 (キーワード・要旨・特徴)	リポーター ゲスト(肩書き)	発信地	時間	報道 スタンス
1	オープニング・・・ 新型肺炎・日本の 備えはー	新型肺炎関連連映像				625(625)	
2	首都空港ほぼ制圧 バグダッド停電	久米キャスター バグダッド地図 レッドライン サハフ情報相会見 サダム国際空港付近戦闘 フセインの姿 バグダッド停電 開戦以来の死者イラク兵1250 (イラク側発表) 米軍40 (米側発表)	久米「イラクが生物化学兵器を使うとされるレッドラインを越え、空港をほぼ制圧」【ハルジャ】「イラクは全面否定」アルジャジーラTV「バグダッドは停電」	CNNロジャース記者 アルジャジーラTV	【スタジオ】 CNN アルジャジーラ	308(933)	
3	〃	地図・連合軍の制圧地域 (米国防総省発表) 中央軍司令 部会見 バグダッド北西の大統領官邸を襲撃制圧 暗殺 映像 プッシュ演説 ラムズフェルド会見	プッシュ「望むのは完全な勝利」ラムズフェルド「イラク指導部に逃げ道はない」 「神が敵を地獄に落とす」		ワシントン	119(1052)	
4	〃	サハフ情報相フセイン大統領の声明読む			イラク国营テレビ	25(1117)	
5	ナジャフのモスク で米兵VS民衆	シリア派の聖地ナジャフ アメリカ軍”スクリーミン グ・ホーク”対峙する民衆と米部隊 頭を下げて退却す る部隊	久米「思わぬ敵が立ちふさがりました」ナジャフ民衆「街OK、モスクNO」			136(1253)	
	CM					130(1423)	
6	悩む米軍、イラク は利用 攻撃難し いモスク	都内にあるモスク 信者インタビュ 米中央軍会見場 で質問する記者 ブルックス准将の説明 対峙する民衆 と米兵 (CNN) サハフ情報相声明 米兵インタビュ	ブルックス「敵はモスクから攻撃、しかし、我々はわきまをえている」 サハフ「だから聖戦が義務」【ハルジャ】「正しい詰めながら次の一手にふみ切れない現状、これこそがイラクの戦略だった。イラク側は戦争の度にモスクを利用してきた」米兵「聖地に敬意を払いいたんだ」	米中央軍司令部 イ ラク国营放送		302(1725)	
7	イラク戦場に向 かった義勇兵と母 の死	ヨルダン 戦死した義勇兵の母 戦死した青年ピラールの 部屋 ヨルダン民衆民主党副書記長ダンデス インタ ビュ 母インタビュ 弟インタビュ 傷ついた市 民の写真	【ハルジャ】「6000人を越すアラブ義勇兵」副書記長「サダムを守るのではな く、アラブ国士防衛。土地を奪い、人を殺す敵にたいし、どんなアラブ人も立ち上が る」母「イラク戦争が悪いことだとみんな知っている。あの子は人が殺されるのを 見たくなかった」	ヨルダン		345(2110)	
8	連合軍発表	スーパー「バグダッド北西部の検問所で車が爆発、米兵 3人が死亡 バグダッド領回2500人が投降、米中央 軍ブルックス准将会見 ピンの並ぶ棚	ブルックス「工場で白い粉の入ったビンと神経ガスの解毒剤を発見」		米中央軍司令部	49(2159)	
9	メディア情報	フセインと政府要人の会議風景にスーパー「4日付けワ シントンポスト・戦争終結前にも「勝利宣言」か 暫定 政権樹立を検討」 ラムズフェルド (映像のみ) ブッ シユ (映像のみ) スーパー「3日米FOXテレビ・米通 中にも暫定政権樹立の準備作業」			ワシントン	32(2231)	
10	首都空港ほぼ制圧 でバグダッド攻撃 は	久米キャスター 内藤正彦記者 ナジャフの様子 サダ ム国際空港の様子	内藤「完全制圧にあと一歩というところで手詰まり状態 バグダッドでは500万人 の命を盾にして足止めをかける」	内藤正彦 (クウェート)	クウェート	153(2424)	
12	停電・脱出 バグ ダッドは今	アジアプレス綿井健陽記者 停電のバグダッド	綿井「停電、断水、脱出が見られる 人通り少ない」	アジアプレス綿井健陽記者	バグダッド	235(2659)	
13	【スタジオ】これ からの見とおし	久米キャスター 萩谷順朝日編集委員	萩谷「ニュースの検証が必要」久米「ニュースのどこかはきちんと伝えるようにし ている。みなさまもお気をつけてご覧になっていただきたい」		【スタジオ】	117(2818)	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目
3月20日（木）

		数字は秒数	放送を語る会		
		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況解説 (解説者)	731 江畑謙介（軍事評論家）	188 小川和久（軍事アナリスト） 浅井信雄（国際政治学）	595 森本敏（拓殖大） 渡辺真理 キャスター	
2	米英政府側の動き・会見・発表情報等 (登場人物)	760 ブッシュ、ストロー、手嶋記者、山下記者（ワシントン）	758 ブッシュ、フライシャー、ストロー、金平記者（ワシントン）	338 ブッシュ、フライシャー、田端記者（ワシントン）フーン	
3	イラク政府側の動き・会見・発表情報 (登場人物)	418 フセイン、サハフ、出川記者（アンマン）	316 フセイン、アジズ、榎本記者	403 フセイン、シャキール、イラク国営TV	
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)	548 池光記者（クウェート）	211 共同通信	341 CNNグプター（クウェート国境）	
5	従軍記者リポート (記者名)	220 油井（米歩兵師団）津屋（キティホーク）	103 向山明生（米空母）		
6	米中央軍記者会見・発表情報 (記者リポートを含む) (記者のリポートを含む)	110 榎原美樹	100 竹島史浩	116 川端進	
7	イラク側被害の情報 (内容)	214 バグダッド火災、市民生活、けが人	347 バグダッドの火災、子ども、人間の盾、久保田記者（フリー）	437 バグダッドの黒煙、こどもたち、綿井記者（アジアプレス）、Qサカキ、アルジャジーラ記者、宮崎記者（フリー）	
8	米英市民の反応・世論にかんする情報	26	18	31	
9	イラク市民の反応・世論にかんする情報	54	44		
10	日本政府の主張・動き	993	400	585	
11	野党の主張動き	90	59	39	
12	米英に批判的な各国政府、国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	361 フランス、ドイツ、ロシア、中国	125 ロシア、フランス、ドイツ、中国	362 フランス、ロシア、中国、ドイツ、国連	
13	米英に協力的な各国政府、国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	145 トルコ	308 クルド人自治区	51 フィリピン、オーストラリア、韓国	
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)	19 アメリカ、ロシア、パキスタン	12 アメリカ、フィリピン	63 オーストラリア、フィリピン、韓国、メキシコ、米	
15	反戦運動・日本		41	34	NHKは項目作らず
16	戦争の性格や背景に関する構成部分・ゲストの討論インタビューなどのコーナー (ゲスト名)	608 大野元裕（中東調査会）、市瀬記者	1988 小川、浅井、岸井（毎日）、嵐信彦、十市勉	1222 森本、高橋和夫（放送大）、萩谷順（朝日）	
17	放送時間合計	1時間28分17秒	1時間23分38秒	1時間16分57秒	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

3月21日(金)

数字は秒数

放送を聴る会

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況解説 (解説者)	805 江畑謙介、大野元裕	103 浅井信雄	1341 コーデスマン(戦略国際研)、田岡俊次(アエラ)、水口章(敬愛大) 萩谷順(朝日)	
2	米英政府側の動き・会見・発表情報等 (登場人物)	685 ラムズフェルド、フライシャー、ブレア、手嶋記者、神田記者(ワシントン)	186 ブッシュ、ラムズフェルド、金平記者(ワシントン)	245 ブッシュ、マイヤーズ、ブレア、田端記者(ワシントン)	
3	イラク政府側の動き・会見・発表情報 (登場人物)	609 フセイン、サハフ、出川記者(アンマン)	259 サハフ、斎藤記者(アンマン)	488 ドゥッリー大使、サハフ、原田記者(ベルリン)	
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者レポートを除く)	834 池光記者(クウェート)	94	444	
5	従軍記者レポート (記者名)	195 油井(第3歩兵師団)、津屋(キティホーク)		112 田辺・共同通信記者(キティホーク)、ベリーニ記者(CNN)	
6	米中央軍記者会見・発表情報 (記者レポートを含む)	116 榎原記者	100 橋本記者	97 川端記者	
7	イラク側被害の情報 (内容)	112	313 久保田記者(バグダッド)	259 宮崎茂樹(フリー)、綿井記者	
8	米英市民の反応・世論にかんする情報				
9	イラク市民の反応・世論にかんする情報		24		
10	日本政府の主張・動き	461	139	39	
11	野党の主張動き				
12	米英に批判的な各国政府、国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	175 北朝鮮、ロシア、朝鮮中央TV		18 北朝鮮	
13	米英に協力的な各国政府、国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	124 韓国、望月記者		223 内藤記者、山野記者、大西健丞(ピースウィンズ)	
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)	84 アメリカ、フランス、ベルギー、エジプト、韓国	78 ヨルダン、アメリカ、フランス、イギリス	263 仏、独、露、伊、米、エジプト、トルコ、パキスタンなど17か国	
15	反戦運動・日本	36	450	217	
16	戦争の性格や背景に関する構成部分・ゲストの討論・インタビューのコーナー (ゲスト名)	740 畑中美樹(国際開発センター)、高橋和夫	1204 姜尚中、ダグラス・ラミス、浅井信雄	346 オハンロン(ブルッキングス研)、田岡、水口	
17	放送時間合計	1時間22分56秒	49分10秒	1時間08分12秒	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

3月24日（月）

		数字は秒数		放送を語る会	
		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況報告 （解説者）	430 宮井キヤスター、江田謙が、入野元	100 佐古アナ	600 久米キャスター、田岡俊治	
2	米英政府発表情報・会見等 （登場人物）	100 ブッシュ大統領会見 フライシャー報道官	350 ワシントン中継 金平記者 英軍スポークスマンインタ ラムズフェルドTV出演	300 ラムズフェルド会見 フランクス司令官 ラジオのブッシュ演説	
3	イラク政府発表情報 （登場人物）	120 フセイン大統領演説 他	250 アフマドヤミール 同田記者 ジャブリ国防相会見 フセイン大統領演説	140 サハフ情報相会見 ジャブリ国防相 ラマダン副大統領	
4	米英軍の戦闘に関する情報 （従軍記者リポートを除く）	200 米英軍10人死傷、米ヘリ墜落、米軍捕虜の公開	250 米軍ヘリ墜落 米軍捕虜公開 空母トルーマンから出撃する戦闘機	310 米軍の被害 ワシントン田辺記者	
5	従軍記者リポート （記者名）	300 油井記者 津屋記者			
6	米中央軍記者会見 （記者のリポートを含む）	145 榎原記者	220 橋本記者	150 川端記者	
7	イラク側被害の情報 （内容）	120 バグダッド空爆	130 バグダッド空爆	120 バグダッド空爆	
8	米英市民の反応・世論にかんする情報			30 米軍捕虜の家族	
9	イラク市民の反応・世論にかんする情報	250 バグダッド市民インタビュー 他		240 綿井健陽（アジアプレス）のリポート	
10	日本政府の主張・動き	210 予算委の小泉首相	40 川口外相		
11	野党の主張動き				
12	米英に批判的な各国政府、国際団体の主張・行動 （国名・団体名）				
13	米英に協力的な各国政府、国際団体の主張・行動 （国名・団体名）				
14	反戦運動・国際 （国名・団体名）	25 アメリカ、メキシコ		50 ニューヨーク50万人デモ	
15	反戦運動・日本	10 広島	355 「人間の盾」4人の紹介 視聴者からのメール	15 日本の反戦デモ	
16	戦争の性格や背景に関する討論・ゲストのコメントのコーナー （ゲスト名）	435 酒井啓子	130 筑紫キャスターの「多事争論」	520 寺島実郎	
17	放送時間合計	39分05秒	30分25秒	41分15秒	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

3月25日（火）

		数字は秒数	放送を語る会		
		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況報告 （解説者）	800 今井キャスターと江畑謙介	835 筑紫キャスターと小川和久	540 久米キャスターと田岡俊治	
2	米英政府発表情報・会見等 （登場人物）	520 ブレア首相、フランス司令官、 ブッシュインタ、ラムズフェルド会 見、パール議長	400 ワシントン中継 金平記者、ブレア 首相、ラムズフェルド会見	200 フランス司令官、ブレア首相、ラ ムズフェルド会見	
3	イラク政府発表情報 （登場人物）	20 ラマダン副大統領	300 アンマン中継、フセインの声明、化 学兵器（小川和久）	200 フセインのテレビ演説、サハフ情報 相、アジス副大統領	
4	米英軍の戦況に関する情報 （従軍記者リポートを除く）	40 英軍の戦況、砂嵐の中の米軍	30 バグダッドへ進む米軍	225 クエート中継、カルバラの米地上軍	
5	従軍記者リポート （記者名）	325 油井記者、津屋記者			
6	米中央軍記者会見 （記者のリポートを含む）	150 榎原記者		300 川端記者、米中央軍の会見（ビンポ イントの映像）	
7	イラク側被害の情報 （内容）			200 投降したイラク兵、バグダッドの非 軍事施設へ爆撃	
8	米英市民の反応・世論にか んする情報		40 米CBSの世論調査		
9	イラク市民の反応・世論に かんする情報	30 カルバラの市民デモ	400 遠藤盛彦氏のボイス・リポート、久保田 弘信氏の「人間の盾」デモリポート	115 民間施設への爆撃、市民の反発、綿 井健陽氏のリポート	
10	日本政府の主張・動き	410 小泉インタ、川口、人道援助			
11	野党の主張動き				
12	米英に批判的な各国政府、 国際団体の主張・行動 （国名・団体名）				
13	米英に協力的な各国政府、 国際団体の主張・行動 （国名・団体名）				
14	反戦運動・国際 （国名・団体名）	205 ドイツ、オーストラリア、インド、 韓国			
15	反戦運動・日本				
16	戦争の性格や背景に関する 討論・ゲストのコメントの コーナー （ゲスト名）	30 米の戦費が拡大、国際戦略研究所 ワード氏	550 NGOの活動（大西健丞）、筑紫キャス ター「多事争論」、テレビゲーム	650 イラクの軍隊について（田岡俊治） 米国とイラクの関係（高橋和夫）	
17	放送時間合計	42分10秒	42分35秒	40分30秒	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

3月26日(水)

		数字は秒数	放送を語る会		
		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況報告 (解説者)	540+800 今井キャスター、江畑謙介	900 佐古アナ、京紫キャスターと浅井信雄	320 久米キャスターと田岡俊治	
2	米英政府発表情報・会見等 (登場人物)	210 米英首脳会談、ワシントン手嶋記者	215 ワシントン中継 金平記者	210 ブッシュ、ラムズフェルド会見 ワシントン中継 田畑記者	
3	イラク政府発表情報 (登場人物)	800 共和国防衛隊の解説、大野元裕	250 フセインの演説他	200 フセインの演説他	
4	米英軍の戦況に関する情報 (従軍記者レポートを除く)	600 反撃と砂嵐、米ABC女性記者	220 開戦以来最大の戦闘	810 砂嵐の解説 久米キャスター他、米 軍のE爆弾使用の可能性 米CBS の報道	
5	従軍記者レポート (記者名)	400 油井記者、津屋記者			
6	米中央軍記者会見 (記者のレポートを含む)	120 ブルックス准将会見	205 カタール中継 福本記者	200 レニユアート少将会見	
7	イラク側被害の情報 (内容)	415 バグダッドの住宅街を空爆、アンマ ン中継 二村記者	50 26日空爆のひとさ バグダッド 久保田記者の電話レポート	455 空爆を受けた国営テレビ カタール中 継 川端記者、市場への空爆 バグ ダッド中継 綿井健隆	
8	米英市民の反応・世論にか んする情報		30 米軍の捕虜と母親		
9	イラク市民の反応・世論に かんする情報		140 無人偵察機を撃ち落として喜ぶ市民 たち	200 米英に対して批判のトーンを強める アラブメディア、クエート中継 内 藤記者	
10	日本政府の主張・動き	720 小泉、福田会見、人道援助の日本人	30 小泉会見		
11	野党の主張動き				
12	米英に批判的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)				
13	米英に協力的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)				
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)		130 フランス、ドイツ他13ヶ国のデモ		
15	反戦運動・日本				
16	戦争の性格や背景に関する 討論・ゲストのコメントの コーナー (ゲスト名)		200 情報戦(米・イラク) 筑紫、浅 井、草野	230 イラク国民の本音 川村晃司、酒 井啓子	
17	放送時間合計	1時間16分45秒	39分30秒	54分25秒	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

3月31日(月)

数字は秒数

放送を語る会

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション
1	戦況報告 (解説者)	534 秋元解説委員	374 佐古キャスター・小川和久	
2	米英政府発表情報・会見等 (登場人物)	266 統参本部マクリスタル・企画「テネット」	148 ラムズ・フランクス	212 米レニョアート少将・ワシントン田畑
3	イラク政府発表情報 (登場人物)	98 サブリ外・出川・ラマダン副		
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)	83 ナジャフ・ナシーリア・バスラ	129 ナジャフ・カタル	221 C・AFP通信・クエート内藤
5	従軍記者リポート (記者名)	243 油井・津屋		
6	米中央軍記者会見 (記者のリポートを含む)	105 櫻原		
7	イラク側被害の情報 (内容)	101 アンマン出川・森田	125 C・福岡	382 C・アルジャジーラ・綿井
8	米英市民の反応・世論に かんする情報 (内容)	0	126 ワシントン金平	
9	イラク市民の反応・世論 にかんする情報 (内容)	18 アルジャジーラ		94 ナジャフ自爆攻撃
10	日本政府の主張・動き (内容)	0	13 PKOでヨルダンに2機	
11	野党の主張動き	0		
12	米英に批判的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	0		64 クエート斉木・ムバラク
13	米英に協力的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	0	156 韓国(派兵めぐり)	60 イスラエル自爆テロ
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)	0	35 インドネシア・アメリカ・中国	
15	反戦運動・日本	0	4	
16	戦争の性格や背景に関する 討論・ゲストのコメントの コーナー (ゲスト名)	0		357 企画「焦りといらだち」・清水久米ラスコメ
17	放送時間合計	24分08秒	18分30秒	26分19秒

*「株価直撃」92

*「ルメイラ油田取材」189

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

4月 1日 (火)

数字は秒数

放送を語る会

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション
1	戦況報告 (解説者)	390 大野元裕中東調査会研究員	48 佐古キャスター	378 渡辺キャスター・田岡俊次
2	米英政府発表情報・会見等 (登場人物)			
3	イラク政府発表情報 (登場人物)	94 サハフ情報相	16 イラク国営テレビ	20 サハフ情報相
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)	93 ヒンディーアC	350 バスラC	290 ヒンディーアC・ナジャフC・シャ トラロイター・クエート内藤
5	従軍記者リポート (記者名)	284 ナジャフ油井・空母津屋		113 カルバラ共同機関記者
6	米中央軍記者会見 (記者のリポートを含む)	120 榎原	109 福本	
7	イラク側被害の情報 (内容)	63 アンマンニ村	163 アンマン武田・バグダッド遠藤	195 バグダッド綿井・VC
8	米英市民の反応・世論に かんする情報 (内容)	227 テロ対策最新事情	102 DVD「サダムおじさん」発売	
9	イラク市民の反応・世論 にかんする情報 (内容)	262 ロンドンイラク亡命軍人		
10	日本政府の主張・動き			
11	野党の主張動き			
12	米英に批判的な各国政 府、国際団体の主張・行 動 (国名・団体名)		9 エジプトムバラク	36 シリア政府
13	米英に協力的な各国政 府、国際団体の主張・行 動 (国名・団体名)			
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)			
15	反戦運動・日本			
16	戦争の性格や背景に関す る討論・ゲストのコメン トのコーナー (ゲスト名)		276 名物記者解雇の理由	1419 冒頭久米・特集「『民主化』という 名の戦争・藤原郷一東大教授
17	放送時間合計	28分45秒	17分53秒	40分51秒

*イラク戦争景気に暗雲192

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

4月 2日 (水)

数字は秒数

放送を語る会

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション
1	戦況報告 (解説者)	249 冒頭今井森田・国際部市瀬	97 佐古キャスター	297 久米キャスター・田岡俊次
2	米英政府発表情報・会見 等 (登場人物)		70 C	102 C・ラムズフェルト
3	イラク政府発表情報 (登場人物)		57 アンマン・岡田	19 フセイン大統領声明
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)	145 カルバラABCニュース	146 C・アンマン岡田	274 冒頭・C・クエート斉木記者・C
5	従軍記者リポート (記者名)	253 ナジャフ油井・空母津屋・C女性兵士救出		
6	米中央軍記者会見 (記者のリポートを含む)	131 榎原	103 竹島文浩記者	
7	イラク側被害の情報 (内容)	133 アンマン出川	555 V・バグダッド久保田	256 C・バグダッド綿井
8	米英市民の反応・世論に かんする情報 (内容)		18 反戦ヒーロー	182 ワシントン田畑
9	イラク市民の反応・世論 にかんする情報 (内容)	588 ヨルダン国境報告・解説「今イラク の人々は」		
10	日本政府の主張・動き (内容)			
11	野党の主張動き			
12	米英に批判的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)			
13	米英に協力的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)		100 韓国派兵可決	
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)			
15	反戦運動・日本			83
16	戦争の性格や背景に関する 討論・ゲストのコメントの コーナー (ゲスト名)			812 企画「衝撃と恐怖の現実」・兵士の 息子と父
17	放送時間合計	24分59秒	19分06秒	33分45秒

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

4月 3日 (木)

数字は秒数

放送を語る会

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション
1	戦況報告 (解説者)		43 佐古キャスター	10 冒頭
2	米英政府発表情報・会見 等 (登場人物)		25 ブッシュ	40 渡辺キャスター・ラムズフェルト
3	イラク政府発表情報 (登場人物)		31	61 防衛隊師団長・サハフ
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)	283 C・カルバラABCニュース	72 C・AP	215 渡辺キャスター・C
5	従軍記者リポート (記者名)	265 ナジャフ油井・空母津屋		139 カルバラ機関記者・クエート内藤
6	米中央軍記者会見 (記者のリポートを含む)	167 榎原	109 竹島	
7	イラク側被害の情報 (内容)	245 アルジャジーラ・アンマンニ村	12 C	278 アルジャジーラ・久米コメ・バグ ダッド綿井
8	米英市民の反応・世論に かんする情報 (内容)			181 ジェシカ家族・ワシントン田畑
9	イラク市民の反応・世論 にかんする情報 (内容)	267 亡命クルド人ワシントン神子田	C	40 バグダッド
10	日本政府の主張・動き (内容)		21 小泉首相	
11	野党の主張動き			
12	米英に批判的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)		61 C	
13	米英に協力的な各国政府、 国際団体の主張・行動 (国名・団体名)		24 C	
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)			
15	反戦運動・日本		31	
16	戦争の性格や背景に関する 討論・ゲストのコメントの コーナー (ゲスト名)	447 アジア経済研究所酒井啓子氏	630 日本総合研究所寺島実郎氏	288 企画「米軍の用いる兵器大いに異議 有り
17	放送時間合計	27分54秒	17分39秒	22分56秒

*日本国際ボランティアセンター二
人インタビュー

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目
4月 4日（金）

数字は秒数

放送を語る会

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション
1	戦況解説 (解説者)	470 大野元裕 (中東調査会)	0	113 内藤正彦記者 (クウェート)
2	米英政府の動き・会見、演説等 (登場人物)	14 ブッシュ	42 ブッシュ、ラムズフェルド	37 ブッシュ、ラムズフェルド
3	イラク政府側のうごき・会見、演説等 (登場人物)	427	29 サハフ、フセイン	85 サハフ
4	米英軍の戦闘に関するメディア取材情報(従軍リポート、米軍発表情報以外) メディア名(判明分)	92 米ABC	130	231
5	従軍記者リポート (記者名)	245 米ABC・津屋尚記者	0	67 CNNロジャース記者
6	米英の戦闘に関する情報 自局従軍記者リポートを除く	172	122	123
7	イラク側被害の情報 (内容)	116 傷ついた市民、子ども、落ちた爆弾	238 停電、水不足、民兵	205 停電、水不足、民兵
8	米英市民の反応・世論にかんする情報	0	0	0
9	イラク市民の反応・世論にかんする情報	0	0	0
10	日本政府の主張・動き	0	0	0
11	野党の主張動き	0	0	0
12	米英に批判的な各国政府、国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	0	0	0
13	米英に協力的な各国政府、国際団体の主張・行動 (国名・団体名)	0	0	0
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)	0	0	0
15	反戦運動・日本	0	0	0
16	戦争の性格や背景に関する企画・構成部分、討論、インタビュー等 (ゲスト名)	255 山下毅記者	793 金平茂紀記者、後藤田正晴	0
17	放送時間合計	29分51秒	22分34秒	14分21秒

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

4月14日（月）

		数字は秒数	放送を語る会		
		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況報告 (解説者)	108 今井	104 草野 柴田特派員	64 久米、渡辺真理	NHKはフセイン像が引き倒される場面を戦況説明の背景につかった。TBS派アメリカが意図的に行なったものの映像として使用した。
2	米英政府発表情報・会見等 (登場人物)		84 ラムズフェルド、ブッシュ	272 ブッシュ ウォルフォフィット ツ パウエル ラムズフェルド シリア大統領-外相 フ ランクス司令官 マイヤーズ 議長	略奪、治安の乱れについて 14秒 「自由とはまともなくなり、 間違いや悪さもいい、それ がイラクで起きている」と 投げやりな発言
3	イラク政府発表情報 (登場人物)				
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)		74 山下特派員		
5	従軍記者リポート (記者名)				
6	米中央軍記者会見 (記者のリポートを含む)	136 ブルックス司令官、榎原特派 員			
7	イラク側被害の情報 (内容)	329 アルジャジーラ、二村特派員	212 山下特派員 ラムズフェルド	626 久米、山野 鈴木大介特派 員、ラムズフェルド	略奪や治安の乱れに対する ラムズフェルドの発言、治 安の責任の所在について NHKは触れない。
8	米英市民の反応・世論にかん する情報				
9	イラク市民の反応・世論にか んする情報		17		
10	日本政府の主張・動き			7	
11	野党の主張動き				
12	米英に批判的な各国政府、国 際団体の主張・行動 (国名・団体名)			220 仏 独 □ G7	
13	米英に協力的な各国政府、国 際団体の主張・行動 (国名・団体名)				
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)			周辺国の米批判の市民の動き 衰えない反米感情と米政府の 高圧的発言 1分20秒	
15	反戦運動・日本		136		
16	戦争の性格や背景に関する企 画・構成部分、討論、インタ ビュー等 (ゲスト名)	306 アルジャジーラ ABC フラン クス ブッシュ 今井 市の 瀬	367 朝日：西村洋一 共 同：会田弘継 JNN:金平茂紀	301 明石元国連次長、朝日新聞編 集員荻谷 6分1秒	
17	放送時間合計	14分39秒	16分39秒	26分10秒	

「イラク戦争」ニュース・情報量比較項目

4月15日（火）

		数字は秒数	放送を語る会		
		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況報告 (解説者)			13	
2	米英政府発表情報・会見等 (登場人物)			57 フライシャー、ラムズフェルト	
3	イラク政府発表情報 (登場人物)				
4	米英軍の戦闘に関する情報 (従軍記者リポートを除く)	256 バクダッドを占領した米英軍 による掃討作戦など、ABC記 者リポートの翻訳版もある	136 バクダッドでの掃討作戦関連	198 バクダッドでの掃討作戦	
5	従軍記者リポート (記者名)				
6	米中央軍記者会見 (記者のリポートを含む)	155 榎原記者のカタール司令部報 告			
7	イラク側被害の情報 (内容)		103 バクダッドでの治安悪化	225 爆撃で手足を失った少年につ いて	
8	米英市民の反応・世論にかん する情報				
9	イラク市民の反応・世論にか んする情報 内容など	169 残存兵器や市民生活関連	54 イラク市民のデモなど	59 イラク市民のデモなど	
10	日本政府の主張・動き		28 イラク派遣に対する反応	321 占領統治と日本	
11	野党の主張動き				
12	米英に批判的な各国政府、国 際団体の主張・行動 (国名・団体名)		11 国連の反応		
13	米英に協力的な各国政府、国 際団体の主張・行動 (国名・団体名)				
14	反戦運動・国際 (国名・団体名)				
15	反戦運動・日本				
16	戦争の性格や背景に関する討 論・企画・ゲストのコメント のコーナー (ゲスト名)	315 竹沢記者	568 ベシャワール会中村医師によ るアフガニスタン戦争・統治 などとの比較	734 朝日新聞編集委員 清水建宇	
17	イラク戦争報道合計時間	15分26秒	15分26秒	29分31秒	

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目
3月20日（木）

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	放送を聴く会 備考
1	イントロ・タイトル、今井、森田キャスター（スタジオ） 米軍巡航ミサイル（ペルシャ湾）、ブッシュ、フセイン演説	イントロ・タイトル 攻撃前のバグダッド（アルジャジーラTV）ミサイル発射、バグダッド被害、ブッシュ・フセイン演説	イントロ・タイトル、久米キャスター冒頭コメント バグダッドの被害、ピカソのゲルニカ	
2	攻撃の第1段階 ブッシュ、フセイン演説、ミサイル発射、バグダッドの被害	筑紫キャスター・冒頭コメント（スタジオ）	開戦までのドキュメント 日本政府の動き、空爆前のバグダッド、駐日イラク代理大使、嘉手納基地	
3	現地記者報告 油井（米歩兵師団）、池光（クウェート）、出川（アンマン）	1日ドキュメント・海外、国内 米政府、バグダッド被害・市民の声、ブッシュ演説・米国民の声、小泉演説、空港警備	攻撃開始後の反響 空爆下のバグダッド（アルジャジーラ、アブダビTV、綿井健爾・アジアプレス）、徳永記者（ニューヨーク）	
4	緊迫の1日ドキュメント ホワイトハウス、ミサイル発射、戦闘機、ニューヨーク市民、サハフ情報相、バグダッド市民、英ストロー、仏シラク	各国反応、国内反応 フィリピン・デモ、シラク、ブーチン、中国報道官、国内野党談話、抗議行動、株価	日本の反応 横田・佐世保基地の警戒、小泉会見、イスラム寺院（平石リポーター）	
5	日本の反応、世界の反戦運動 小泉、市民の声、米、パキスタン	現地記者報告 久保田（フリー・バグダッド）、柴田（クルド自治区）、竹島（米中央軍）向山（米空母）榎元（アンマン）金平（ワシントン）	世界の反戦運動 オーストラリア、フィリピン、韓国、メキシコ、ホワイトハウス前	
6	ブッシュのねらい、攻撃決断ドキュメント 手嶋記者、山下記者（ワシントン）	戦況分析（スタジオ） 小川和久（軍事アナリスト）、浅井信雄（国際政治）、岸井成格（毎日）、高信彦、十市勉	現地記者報告 綿井、内藤（クウェート）、川端（米中央軍）田端（ワシントン）	
7	第1波攻撃の成果 手嶋、榎原記者（カタール米中央軍）	戦争の正体討論1.（米デモクラシーの野望） 上記のゲスト	ブッシュ決断ドキュメント 田端（ワシントン）	
8	戦況分析（スタジオ） 江畑謙介（軍事評論）	2.（新パワーバランスの出現） 上記のゲスト	イラク攻撃の根拠解説 久米キャスター	
9	イラクからのミサイル攻撃 アブダビTV（クウェート）	最新情報、関連ニュース 衆院本会議・自、民、稲井記者、バグダッド被害、政府の対応	イラク攻撃をどう見るか 森本敏（軍事評論家）、高橋和夫（放送大）	
10	戦況分析（スタジオ） 大野元裕（中東調査会）	3.（世界への挑戦） 上記のゲスト	各国反応 英フーン、仏シラク、豪ハワード、フィリピン・アロヨ、独声明、露ブーチン、中国政府、韓ノ・ムヒョン、EU	
11	政府・国会、与野党反応 小泉会見、自、公、保、民、由、共、社	（世界への挑戦・石油問題） 上記のゲスト	各国の姿勢と米、国連の関係で討論 高橋、森本、萩谷順（朝日）	
12	政府の対応、記者報告 西原（政治部）、各地の警戒、株価	最新ニュース（空爆再開） 外信デスク	日本の反応 政府対応、小泉会見、各党声明（公、民、共、社、由）、反戦デモ、市民の声	
13	各国反応 露ブーチン（モスクワ石川記者）、英、独	4.（あぶりだされた日本の姿） 上記のゲスト	戦況分析（スタジオ） 渡辺キャスター、CNNグプター（クウェート国境）、森本	
14	最新情報（現地記者） ワシントン、アンマン、空母キティホーク、アンカラ	多事争論（世界が変わった日）スタジオ 筑紫キャスター	フセイン演説のなぜ（スタジオ） 久米キャスター、高橋、森本	
15	戦況分析（スタジオ） 江畑		最新・関連ニュース 宮崎茂樹・フリー（バグダッド）、イラク死傷者（外報デスク）、国内警備体制	
16	攻撃反対国の姿勢（スタジオ） 市瀬記者（国際部）			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

3月21日（金）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	タイトル イラク地上戦、投降兵士	タイトル 地上戦、空爆、日本のデモ	タイトル、久米・渡辺キャスター イラク地上戦	
2	今井・森田キャスター（スタジオ） 米軍戦車、バグダッドのがれきの山	筑紫キャスター（スタジオ）この戦争の定義 姜尚中（東大）、ダグラス・ラミス（政治学）、浅井信雄（国際政治学）	イラク攻撃2日目ドキュメント 米戦車進撃、日本は深夜国会、クウェートにミサイル、バグダッドの市民被害、CNN記者、宮嶋カメラマン、共同・田辺記者	
3	従軍記者報告・油井、津屋 米第3歩兵師団（クウェート）、キティホーク	空爆2日目 久保田弘信（フリー）	現在の戦況リポート 綿井健陽（アジアプレス）、内藤記者、川端記者、田端記者	
4	現地記者リポート・池光、出川 クウェートにミサイル、サハフ会見、バグダッド被害	米政府、イラク政府の動き 金平記者（ワシントン）、イラク国営TV、斎藤記者	戦況分析（衛星中継）スタジオ 米戦略国際問題研・コーデスマン、ブルッキングス研・オハノン、田岡俊次	
5	イラク攻撃2日目ドキュメント 米軍攻撃、ラムズフェルド会見、バグダッドのけが人、ブレア演説	各地の戦況・イラク、クウェート、ヨルダン AP、Fox、樫元記者	フセイン演説の真偽 原田記者（ベルリン）、ボーマン博士、水口章（敬愛大）	
6	戦況分析（スタジオ） 江畑謙介（軍事評論家）	世界の反戦運動 サンフランシスコ、パリ、ロンドン	フセインの居場所、共和国防衛隊の動向（スタジオ） 水口、萩谷順（朝日）	
7	ブッシュ決断ドキュメント、フセイン演説の真偽 山下記者（ワシントン）、森田	最新情報・米中央軍、イラク側 南部の米軍、フセイン演説、ヨルダン反米デモ、福元記者（中央軍）	世界の反戦運動 エジプト、ヨルダン、トルコ、仏、独、伊、米（隠岐、山田、山田浩仁、原田、各特派員）	
8	戦況分析、影響 大野元裕（中東調査会）、畑中美樹（国際開発センター）	// アメリカ側 金平記者（ワシントン）	日本の反戦運動 芝公園、日比谷公園、佐世保基地前、宮下公園（平石、上山、各リポーター）	
9	日本政府対応 日米電話会談、外務省、米軍基地	戦況分析（スタジオ） 浅井	バグダッド市民、クルド人自治区、ヨルダン、ウムカスル・リポート 綿井、大西健丞（ピースウィンズ・ジャパン）、山野記者、CNNベリーニ	
10	日本の反戦運動 日比谷公園	戦争の性格について討論 姜、ラミス	イラク戦のゆくえ（スタジオ） 水口、久米	
11	各国反応、世界の反戦運動 米韓軍事演習（望月記者）、露下院（高尾記者）、米、仏、ベルギー、エジプト、韓国、パリ、ニューヨークの警備	日本の反戦運動 芝公園、渋谷の高校生、嘉手納基地前、広島、米大使館前		
12	米軍の進撃 イラク北部、B52発進	日本政府の姿勢、ドイツとのちがいを討論 姜、ラミス、浅井		
13	ブッシュ政権の動き、原油動向 手嶋、神子田（ワシントン）	北朝鮮への対応と日本の選択肢 姜、筑紫、浅井		
14	現地記者リポート クウェート（池光）アンマン（出川）中央軍（榎原）	アメリカ最新情報 金平（ワシントン）		
15	イラク戦背景解説（スタジオ） 高橋和夫（放送大）			
16	日本政府の対応			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

3月24日（月）

放送を聴く会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	地上軍で米軍10名死傷 バグダッド、カルバラ	フセイン大統領演説の真偽 ヨルダン 岡田記者の報告	本格攻撃はじまる バグダッド、ワシントン	
2	フセイン大統領4日ぶり演説 イラク国营テレビ	公開された米軍捕虜 アルジャジーラテレビなど	23日の空爆 バグダッド、カタール	
3	米軍同行リポート（戦車） 油井記者の顔写真	フセイン演説について ワシントン中継 金平記者	開戦から米英軍の進撃を解説 渡辺、バグダッド・ワシントン	
4	米軍同行リポート（空母） 津屋記者 ビデオフォン映像	地上戦の解説 スタジオ 佐古アナ	戦況解説 スタジオ 久米キャスター、田岡俊治	
5	カタールの米軍司令部 中継 榎原記者	米中央軍の動き カタール中継 福本記者	米軍の戦略 カタール中継、小川記者	
6	アンマンからの報告 中継 二村記者	米軍同行リポート（空母） 向山記者	米軍に被害出る ワシントン中継 田辺記者	
7	ワシントンからの報告 中継 手嶋記者	バグダッド空爆の報告 遠藤盛章 ビデオフォン映像	バグダッドからの報告 中継 フリー 総井健陽	
8	イラク戦争開始からの3日間 バグダッド、ナシーリアなど	バグダッドの「人間の盾」 4人の紹介と意見	今後の展開 スタジオ 久米キャスター、田岡俊治	
9	戦況の解説 今井、江畑謙介、大野元祐	日本政府の対応 福田官房長官、川口外相	アカデミー賞授賞式	
10	ワシントンからの報告 中継 手嶋記者	筑紫キャスターの「多事争論」 戦争報道についての私論	イラク反戦デモ ニューヨーク、東京	
11	イラク戦争とアラブ世界 今井、酒井啓子	イラク戦争の視聴者の意見 メールを紹介	イラク戦争についての考察 久米キャスター、寺島実郎	
12	日本政府の対応 小泉首相の発言など			
13	イラク戦争の難民問題 日赤の難民救援センターほか			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

3月25日（火）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	まもなく重大局面 イラク南部、ロンドン、カタール	米中央軍の動き カタール中継 福本記者	米英地上部隊バグダッドまで80km カルバラ、ウンムカスル、カタール	
2	米軍戦車同行リポート ナジャフ 油井記者	米英地上軍の動き スタジオ 小川和久	イラク軍と地上戦へ 中継クエート 内藤記者	
3	米空母キティーホーク同乗リポート 津屋記者	米政府の動き ワシントン中継 金平記者	米中央軍の動き 中継カタール 川端記者	
4	カタール米中央軍リポート 中継 榎原記者	イラク政府の動き アンマン中継 岡田記者	戦況分析 スタジオ 久米キャスターと田岡俊治	
5	ワシントン米国防総省リポート 中継 高橋記者	イラクの捕虜公開 スタジオ 筑紫キャスターと小川和久	サダムフセインの軍隊を解剖 カタール、ワシントン	
6	英ブレア首相会見 ロンドン	バグダッド市民の状況 ビデオジャーナリスト遠藤盛章	バグダッド市内の状況 中継バグダッド 綿井健陽	
7	ブレア首相会見の意味 中継 山本記者	人間の盾のデモ 久保田弘信	イラク複雑な構造	
8	戦況解説 スタジオ 今井キャスターと江畑謙介	イラク軍の分析 スタジオ 筑紫キャスターと小川和久	フセイン後のイラクについて スタジオ 久米キャスターと高橋和夫	
9	アンマンからリポート 中継 出川記者	イラクのクルド人の状況 NGO大西健丞のテレビ電話リポート		
10	クルド人地域の解説 スタジオ 今井キャスターと河野記者	筑紫キャスターの「多事争論」		
11	イラク戦争の中東和平への影響 中継 エルサレムの鴨志田記者			
12	世界にひろがる反戦の声 ドイツ、オーストラリア、インド、韓国			
13	日本政府の対応、小泉首相 小泉首相			
14	イラク戦争米経済への影響 ワシントン 神子田記者のリポート			
15	日銀の金融政策			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

3月26日（水）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	バグダッドの住宅街に爆撃 中継アンマン 二村記者	きょうの動き 最大規模の空爆 バグダッド、ナジャフ	バグダッド南で激戦 イラク南部、クエート、ワシントン	
2	米英軍を阻む反撃と砂嵐 イラク南部、バグダッド	開戦から1週間 スタジオ 筑紫キャスターと浅井信雄	米中央軍の動き 中継カタール 川端記者	
3	米軍同行リポート 油井記者 ビデオフォン映像	バグダッド空爆 中継バグダッド 久保田記者	アラブメディアの動き 中継クエート 内藤記者	
4	空母キティホーク同乗リポート 津屋記者 ビデオフォン映像	米中央軍の動き 中継カタール 福本記者	砂嵐について解説 スタジオ 久米キャスター	
5	戦況解説 スタジオ 今井キャスターと江畑謙介	米政府の対応 中継ワシントン 金平記者	砂嵐の検証 鳥取大、空母	
6	砂嵐の解説 イラク南部	アメリカの誤算 米兵捕虜 スタジオ 佐古アナ	空爆に新しい爆弾 アルジャジーラテレビ	
7	共和国防衛隊の解説 スタジオ 今井キャスターと大野元裕	アメリカの誤算 イラク市民の抵抗 スタジオ 筑紫キャスターと浅井信雄	新兵器E爆弾 米CBSテレビ、スタジオ	
8	メディア部隊について 中継ロンドン 山本記者	アメリカの誤算 世界に広がる反米感情 フランス、ドイツ、スペイン、韓国	バグダッドへ最大規模の空爆 中継バグダッド 綿井健陽	
9	キャンプデービッドの米英首脳会談 中継ワシントン 手嶋記者		イラク国民の本音 川村晃司、酒井啓子	
10	ある日本人の人道援助 アンマンの井上記者		開戦から1週間アメリカ世論 中継ワシントン 田畑記者	
11	日本政府の対応			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目
3月31日（月）

放送を聴く会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	米軍最前線！「激化する情報戦」 ナジャフ米軍同行記者リポ	模型使用で「現在の戦況」 スタジオ・佐古キャスター	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること 1 週末の空爆 バグダッド・アルジャジーラ	
2	米軍最前線！「攻撃ヘリ集結」 ナジャフ・米軍同行記者リポ	3/31イラク戦争ドキュメント1 米英軍イラク情報省を爆撃 バグダッド	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること 2 米司令部記者会見 カタール？	
3	米軍最前線！「激化する夜間攻撃」 空母・米軍同行記者リポ	3/31イラク戦争ドキュメント2 初の自爆攻撃も ナジャフ	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること 3 29日クエートにイラクのミサイル弾 クエート	
4	イラク国内の最新状況！爆撃 アンマン・出川記者（アルジャジーラ）	3/31イラク戦争ドキュメント3 進めぬ地上部隊 カタール	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること 4 29日自爆 ナジャフ	
5	イラク国内の最新状況！サブリ外相記者会見 アンマン・出川記者（イラク国营テレビ）	3/31イラク戦争ドキュメント4 世界中で反戦 インドネシア・アメリカ・大飯・中国	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること 5 30日イスラエルでも ネタニア	
6	イラク国内の最新状況！自爆攻撃 アンマン・出川記者（アルジャジーラ？）	3/31イラク戦争ドキュメント5 日本の難民用テント到着 ヨルダン	空爆の犠牲・自爆攻撃 戦場で起きていること 6補給部隊リポ ？	
7	米軍司令部ブルックス准将記者会見 カタール・榎原記者	バグダッド最新情報 Vジャーナリスト福岡孝浩氏	最新情報！イラク南部戦線と開戦後の被害 カルバラ（AFP通信）・ナジャフ	
8	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」1 巡航ミサイルイラク情報省を直撃 バグダッド	戦況解説！ 軍事アナリスト小川和久氏	最新情報！エジプト・ムバラク演説 カイロ？・ロイター通信	
9	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」2 グリラ戦と掃討作戦 ナジャフ	ラムズフェルト国防長官作戦は順調？ ワシントン・金平記者	米英軍の出撃地点にイラク反撃 クエート・内藤記者	
10	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」3 イラクマダダン大統領記者会見 イラク国营テレビ	戦況解説 軍事アナリスト小川和久氏	週末の空爆開戦以来最大1 28日アッシュウラ地区 バグダッド	
11	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」4 米統合参謀本部マクリスタル作戦副部長記者会 （ワシントン？）	派兵めぐり韓国苦悩 韓国・梶井正人記者	週末の空爆開戦以来最大2 31日イラク情報省 バグダッド	
12	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」5 米英軍イラク民兵組織の掃討作戦強化 ナシーリア	イラク戦争殊死を直撃 草野キャスター	週末の空爆開戦以来最大3 生中継 バグダッド・綿井氏	
13	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」6 29日 ナシーリア		米軍、南部アルメイラ油田取材許可 イラク・クエート国境・内藤記者	
14	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」7 30日 バスラ		企画「焦りといらだちー米英世間の中枢 Vリポ+ワシントン・田畑記者	
15	戦況「自爆テロなどイラク兵の抵抗増す」(30日) アルジャジーラ			
16	模型使用の戦況解説 秋元千明解説委員			
17	企画「イラク情報戦、CIAの戦い」（テネット長官を追う） ワシントン・山下記者			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目
4月01日（火）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	米軍補給基地にミサイル攻撃 ナジャフ・油井記者	人間の橋に負傷者生中継 アンマン・武田信晃記者	首都バグダッドの状況・生中継 バグダッド・綿井氏	
2	自爆攻撃警戒する米軍 ナジャフ・油井記者	米兵発砲 女性と子ども7人死亡 バスラ	最前線激しい戦闘が 1 31日 ヒンディーア	
3	空母艦載機最大の空爆 キティホーク・津屋記者	前線司令部生中継 カタール・福本芳郎記者	最前線激しい戦闘が 2 米英軍イラク進攻部隊展開（地図使用） スタジオ・渡辺キャスター	
4	共和国防衛隊と米軍が地上戦 ヒンディーア	本格的な地上戦へ 1 ヒンディーア	最前線激しい戦闘が 3 ナジャフ近郊	
5	イラク最新情報1 サハフ会見とバグ ダッドクウバク被害 アンマン・二村記者	本格的な地上戦へ 2 イラク国営テレビ	最前線激しい戦闘が 4 米指導者の発言と被害 V	
6	イラク最新情報2 ナジャフ近郊の自爆 攻撃 カタール・榎原記者	企画「名物記者解雇の理由」 アメリカ・佐藤夕夏記者	最新情報 1 海兵隊員小型トラック銃撃 シャトラ・ロイター通信	
7	戦況解説 1 （地図使用） 大野元裕中東調査会客員研究員	バグダッド市民は・・・生中継 Vジャーナリスト遠藤盛幸氏	最新情報 2 サハフ情報相記者会見 バグダッド	
8	イラク亡命軍人インタビュー ロンドン・田中真理記者	現在の戦況（地図使用） 佐古キャスター	最新情報#シリア政府アメリカを非難	
9	戦況解説 2 大野元裕中東調査会客員研究員	フセイン大統領の独占映像 DVD映像	「攻撃のポイント橋と補給路」1 V+解説 田岡俊次氏	
10	警戒のアメリカ「テロ対策最新事情」 ワシントン・神子田竜輔記者		「攻撃のポイント橋と補給路」2 従軍記者リポ カルバラ・儀間朝浩記者	
11	イラク戦争景気に暗雲 大阪・経済部藤田義隆記者		「攻撃のポイント橋と補給路」3 V+解説 田岡俊次氏	
12			大づかみの状況 クエート・内藤記者	
13			特集「『民主化』という名の戦争 ～パウエルとベトナムの記憶・Vリポ	
14			ゲストに聞く 東大藤原帰一教授	

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

4月02日（水）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	地上戦激化前線リポ ナジャフ・油井記者	戦況（地図使用） 佐古キャスター	バグダッド南方米軍が大規模攻撃 Vリポ・渡辺キャスター	
2	地上部隊支援最大規模の空爆 キティホーク・津屋記者	4/2イラク戦争ドキュメント 1 最大規模の地上戦 カルバラ	激戦の街を見る（地図使用） スタジオ・久米キャスター	
3	カルバラの同行記者リポート ABCニュース	4/2イラク戦争ドキュメント 2 増援第4歩兵師団到着 クエート	激しい空爆経て本格地上戦へ 1 米軍 ヒンディーア・カルバラ	
4	女性兵士救出 米軍提供映像	4/2イラク戦争ドキュメント 3 女性兵士救出 カタール	激しい空爆経て本格地上戦へ 2 増援第4歩兵師団 クエート	
5	最近の戦況ブルックス准将記者会見 カタール・榎原記者	4/2イラク戦争ドキュメント 4 誤爆民間人がさらに・・・ アルヒラ	激しい空爆経て本格地上戦へ 3 イラク側の被害 バグダッド・ヒッラ	
6	イラク側はどう反応 アンマン・出川記者	4/2イラク戦争ドキュメント 5 士気低下作戦ミスの声に イラク北部・ワシントン	激しい空爆経て本格地上戦へ 4 国防長官ら記者会見 ワシントン	
7	現在の戦況（解説） スタジオ・国際部市瀬記者	4/2イラク戦争ドキュメント 6 フセイン姿見せずサハフ代読 イラク国営通信	激しい空爆経て本格地上戦へ 5 フセイン大統領声明	
8	ヨルダン国境報告「祖国に戻る人々」 ヨルダン国境・井上裕司記者	4/2イラク戦争ドキュメント 7 反戦ヒーロー現る バリ郊外	アメリカの思惑は ワシントン中継・田畑記者	
9	今イラクの人々は スタジオ・国際部竹沢顕記者	4/2イラク戦争ドキュメント 8 米英軍に暗雲 ヨルダン気象台	米軍の進撃田岡俊次の分析 スタジオ・田岡俊次氏	
10		4/2イラク戦争ドキュメント 9 パウエルトルコ訪問 アンカラ	南方の地上戦激化バグダッドは 中継・綿井氏	
11		最新情報ブルックス記者会見 カタール・竹島史浩記者	最新情報 渡辺キャスター	
12		イラクの動向 アンマン・岡田徹也記者	企画「作戦立案者が語る『衝撃と恐怖』の現実」 戦略国際研究所ハーラン・ウルマン博士	
13		帰国報告「空爆下のバグダッド」 フォトジャーナリスト久保田弘信氏	今も続く反戦の声 明治公園・平石直之アナ	
14		韓国イラク派兵を可決 ソウル・梶井正人記者	企画 「兵士の息子と父それぞれの戦い」 ワシントン・ニューヨーク州ガスポート	

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

4月 03日（水）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	米軍バグダッドから20km地点に V+スタジオ地図解説 今井・森田キャスター	現在の戦況（地図使用） スタジオ・佐古キャスター	米地上軍サダム国際空港に Vリポ 渡辺キャスター	
2	米軍補給基地前線リポート ナジャフ・油井記者	4/3イラク戦争ドキュメント 1 米英軍の攻撃 カルバラほか	一日の動き 1 従軍記者リポ カルバラ・機関記者	
3	米攻撃機墜落空母に衝撃 キティホーク・津屋記者	4/3イラク戦争ドキュメント 2 米軍2機墜落	一日の動き 2 昨日から始まった開戦後最大級の戦闘 カルバラ・クート・統参・中央軍記者 会見	
4	最新の動き 1 カルバラ付近・ABC記者	4/3イラク戦争ドキュメント 3 無人偵察機残骸に市民が バスラ	一日の動き 3 ジェシカ・リンチさん救出と家族	
5	最新の動き 2 民間人の被害 アルジャジーラ	4/3イラク戦争ドキュメント 4 応酬マイヤーズ・サハフ	一日の動き 4 イラク兵士500人死亡情報・攻撃ヘリ 撃墜 カルバラ	
6	最新の動き 3 ブルックス准将記者会見 カタール中継・榎原記者	4/3イラク戦争ドキュメント 5 産婦人科病院も空爆 バグダッド	一日の動き 5 共和国防衛隊師団長会見	
7	最新の動き 4 サハフ記者会見ほか アンマン中継・二村記者	最新の状況 カタール中継・竹島記者	一日の動き 6 支援活動も始まったが クエート・大平一郎記者	
8	解説「フセイン政権とクルド人」 1 アジア経済研究所酒井啓子氏	イラク戦後の世界ニッポンの選択 1 日本総合研究所寺島実郎氏	一日の動き 7 市民の動向 イラク国営テレビ	
9	亡命クルド人インタビュー ワシントン・神子田竜輔記者	アジア諸国のスタンス・独仏の決定 Vリポ	一日の動き 8 ラムズ会見	
10	解説「フセイン政権とクルド人」 2 アジア経済研究所酒井啓子氏	イラク戦後の世界ニッポンの選択 2 日本総合研究所寺島実郎氏	確実に増える犠牲者 産婦人科病院で も 1 「被害」 アルジャジーラ	
11		日本の反戦デモ Vリポ	確実に増える犠牲者 産婦人科病院で も 2 日本国際ボランティアセンター 二人 ヨルダン	
12		イラク戦後の世界ニッポンの選択 3 日本総合研究所寺島実郎氏		

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目
4月04日（金）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	サダム空港ほぼ制圧 (ブッシュ演説、米部隊司令官他) バグダッド・ABC従軍取材	新型肺炎現地報告	新型肺炎・日本の備えはー	
2	サダム空港ほぼ制圧 (イラク側) バグダッド・イラク国営放送	戦況解説 TBSスタジオ	首都空港ほぼ制圧 ・バグダッド停電・米英軍の戦闘 従軍取材・CNNロジャース記者	
3	サダム空港ほぼ制圧 (バグダッド空爆とイラク民兵の声) バグダッド	4月4日の動き ・空港をほぼ 制圧 ロイター？	首都空港ほぼ制圧 ・バグダッド停電 イラク側否定 バグダッド・イラク国営テレビ	
4	サダム空港ほぼ制圧 (米英軍首都包囲) バグダッド・ABC従軍取材	バグダッド全域停電 契約通信社？	首都空港ほぼ制圧 ・バグダッド停電・イラク被害・死者 バグダッド・ロイター、アルジャジーラ	
5	空港制圧を空から支援 キティホーク・NHK従軍取材	「バグダッド攻略は近い」ブッシュ演 説、ラムズフェルド会見 ノースカロライナ海兵隊基地・ワシ ントン	首都空港ほぼ制圧 ・大統領宮殿を特殊部隊が襲撃 米中央軍司令部	
6	” 空港制圧の道のり” 従軍取材・ABC	イラク「反撃態勢」に・モスク立ち入 りにNO！ バグダッド、ナジャフ	首都空港ほぼ制圧 ・バグダッド停電・ブッシュ・ラムズ フェルド・サハフ会見 ワシントン・バグダッド	
7	” 侵略” 危険な段階に バグダッド・アルジャジーラ	フセイン声明 バグダッド・イラク国営放送	ナジャフのモスクで・米兵VS民衆 ナジャフ・CNN	
8	アンマン中継 (イラク側の動き) アンマン・出川展恒記者	米軍最新情報・米メディア、自爆テロで 米兵士が死亡 米中央軍司令部・竹島史浩記者	悩む米軍・イラクは利用・攻撃難しいモ スク 東京・平石直之記者／米中央軍司令部・ CNN	
9	戦況解説 NHKスタジオ	バグダッド最新情報 バグダッド・アジアプレス綿井健陽記 者	ヨルダン人義勇兵・戦死に母は ヨルダン	
10	” もうひとつの戦争” イラク側の情報戦 アンマン・一矢好彦記者	ブッシュ大統領人気のワケ ワシントン・金平茂紀記者	連合軍情報・米軍に対する自爆攻撃、バ グダッド師団の投降、白い粉の入ったビ ン発見 米中央軍司令部	
11	解説・バグダッドのメディア NHKスタジオ	「この戦争の正体」 後藤田正晴インタビュー TBSスタジオ	メディア情報 戦争終結前に勝利宣言か ワシントン	
12	米英軍最新情報 米中央軍司令部・榎原美樹記者		バグダッド攻撃どうなる クウェート・ANN内藤正彦記者	
13	” 終戦のありかた” 元国防 次官が語る ワシントン・山下毅記者		停電・脱出・バグダッドは今 バグダッド・アジアプレス綿井健陽記者	
14			バグダッド攻撃どうなる スタジオ・萩谷順	

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

4月14日（月）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	タイトル／オープニング	タイトル／オープニング	タイトル／オープニング	
	テイクリット制圧 北朝鮮拉致関連	テイクリット制圧 掠奪された博物館	フセイン政権の最後の拠点：テイクリット制圧	
2	テイクリット制圧 戦況解説	テイクリット制圧 戦況解説	テイクリット制圧 戦況解説	
	アルジャジーラ バグダッドから二村記者	大統領宮殿、テイクリット：柴田記者	アルジャジーラ CNN 米軍中央指令部	
3	略奪…治安の乱れ	治安の乱れ、自衛するバグダッド市民の動き、米軍の無責任対応	掠奪、治安の状況 W り：止まらない掠奪、何もしない米軍	
	アルジャジーラ バグダッドから二村記者	バグダッド：山下記者	バグダッド：山野記者	
4	アメリカ軍の作戦 動向	米軍に対する市民の動き	バグダッド市民の生活 W: 水も電気も食料もないバグダッド 病院 公共住宅の住	
	カタール中央軍指令部 榎原記者	バグダッド：山下記者	バグダッド：鈴木記者	
5	米軍作戦の課題 動向	拘束された日本人フリージャーナリスト	米政府の会見、動向	
	アルジャジーラ ABC 中央軍司令官の会見	ジャーナリスト：遠藤	大量破壊兵器の行方	
6		治安の回復をめざす取り組み、イラク警察と米軍	イラク国内、各地の掠奪被害 治安状況の説明	
		バグダッド：山下記者		
7		米政府、シリアに警告	イラク周辺国民の米国批判の 大衆行動と米政府の応酬	
		ブッシュ、ラムフェルド	アンマン：隠岐記者	
8		ワシントン記者団に聞く米政府の狙い、今後の動向をさぐり、日本政府の行動を検証、分析する	米政府、強烈なシリア非難	
9			イラク戦後復興、米国と批判的な諸国とのつば競り合い	
			ワシントン ペテルブルク イラク復興人道支援室ガーナ室長	
10			イラク治安回復と米軍の対応・責任	
			ワシントン：田畑 朝日編集員：荻谷 久米キャスター	
11	北朝鮮拉致関連・帰国者関連の報道			
	家族の会見、インタビュー、北朝鮮論評、小泉首相 600秒			

「イラク戦争」ニュース・ニュースオーダー（発信地・情報場所）比較項目

4月15日（火）

放送を語る会

	NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
	タイトル	タイトル／オープニング	タイトル／オープニング	
1	イラク戦争、捜索する米英軍、北朝鮮はイラク戦争をこう伝えた	筑紫キャスター	北朝鮮問題 故金主席 誕生 日報道 拉致被害者	
2	イラク戦争	初の暫定統治	（イラク戦争の中…故金主席生誕祭）	
	戦闘フラッシュ、今井キャスター	ナシリア	北朝鮮	
3	米軍制圧後のティクリット	日本の対応	（イラク見つめながら 故金主席生誕の「奇跡」）	
	イラク・ティクリット、米ABC記者リポート	外務省など	北朝鮮と日本の在日の人々	
4	イラク軍兵器おびえる市民	バグダッド中継（危険なバグダッド）	（家族会「経済制裁を」五人それぞれの半年）	
	バグダッド、アルジャジーラの映像	斉藤記者とバグダッド中継、バグダッド状況、米兵の捜索	日本の拉致被害者家族たち	
5	バグダッド中継	アメリカ、シリア批判	（イラク戦争で軟化？「北の核」と大国の影）	
	バグダッド、二村記者	シリア、国境、ラムズフェルト、アナン	北朝鮮の核開発についてのVTR	
6	バグダッド治安回復は	「この戦争の正体」	戦争の大義発見できず アメリカ「シリア制裁を」	
	バグダッド、二村記者	アフガニスタンの状況、中村医師と筑紫キャスター討論	イラク ティクリット戦闘。捜索、シリア国境、アメリカパウエルなど	
7	バグダッド市民生活は		アップス君の今	
	バグダッド、二村記者		バグダッドの犠牲者少年を追う V構成	
8	アメリカ中央軍司令部カタル中継		消えた政権幹部	
	榎原記者		イラクの政権幹部の行方を追う V構成	
9	竹沢記者スタジオ解説		バグダッド中継	
	スタジオ解説（中東地図と竹沢記者と今井キャスター）		バグダッド鈴木記者と掛け合い	
10	どうなる暫定統治		反フセイン派会合	
	ナシリーヤ、竹沢記者スタジオで解説		イラク ナシリア（鈴木記者のリポ）	
11	参考（北朝鮮はイラク戦争をどう見たのか）		占領統治と日本	
			イラク占領についてのV構成（イラク、アメリカ、日本外務省など）	
12			スタジオ論評	
			久米キャスターと朝日新聞編集委員 清水建宇	
13			戦後経済	
			ワシントン、日本 出町記者	
14		ある海兵隊員の死	ある海兵隊員の死	
			アメリカ・ユタ州海兵隊遺族	

(参考資料)

< 1 > 英 BBC の戦争報道指針 (2003年3月7日 発表)

(序文) BBC は、英国だけでなく世界の視聴者に正確なニュースと情報を提供する特別の責任を負う。視聴者に公平な分析を提供し、英国内外での反戦の声を含む多様な意見を番組の中に取り入れていくべきである。

(報道用語) 我々は客観的であらねばならない。感情的に飾ることなく情報を提供することが主な仕事である。明確さのために、「わが軍」とは呼ばず「英国軍」と呼ぶのが適切。

(取材源) レポーターはニュースソースを決定的に明らかにしなければならない。戦場のレポーターや特派員が自分で見ていないことを報道する際はそれを明らかにしなければならない。軍や政府関係からの大量の情報を得ても、その信頼性をチェックしなければならない。一方の広報担当者による情報を伝える場合、視聴者にそのことを伝えなければならない、など。

(報道の差し控え) 我々は英軍や国防相が十分に説明を与える限り、その要請により報道を一時的に差し控える用意をする。その決定は国防相や軍ではなく、我々が行なうものである。

(報道の差し控えの周知) 情報が差し控えられた時、その理由を視聴者に明らかにするべきである。また、理由がなくなれば、すみやかに公表しなければならない。もしレポーターが検閲されたりしたときや情報を差し控えた時は、そのことを伝え、視聴者になぜ我々がそうしたのかを知らせる。

(専門家の寄与) 特に注意が必要。専門科による軍事行動の詳細や選択肢の予測は、これを避けねばならない。

(犠牲者報道) 近親者が BBC の番組やサイトから、身内の死や負傷を知ることのないようにすべきである。近親者に知られることを確認するまで、死や負

傷の詳細について報道は差し控える。

（犠牲者報道の用語）死亡かどうか確認できない際には「犠牲者」と呼ぶ、など。

（死や負傷の場面）死者や負傷者の映像は、慎重に用いなければならない。国籍に関わらず、個人の尊厳に配慮しなければならない。

（親族へのインタビュー）死傷者の親族へのインタビューは、得に最新の注意が必要。

（戦争捕虜）捕虜になったかもしれない人の関係者とのインタビューは放送しない。そのような素材は尋問に利用されるかもしれず、捕虜の安全に影響する。

（航空機のクルーへのインタビュー）このような任務に就いている人々について、どんな情報源からのいかなる情報であっても、いかなる個人的情報も出してはならない。

（反戦）公平の概念のもと、あらゆる意見を放送に反映すべきである。国内外の軍事紛争についての反対意見も聞き、吟味する。このような意見や反戦デモは、国内外の現実の一部として報道される。

（大量破壊兵器）生物化学兵器や核兵器は特別な恐怖を呼び起こす。もしそれらが使われたと伝えるときは、決定的な事実の確信がなければならない、など

（24時間サービス）特にテレビにおいては、継続的にニュースを提供する。時には、死傷者の映像を含む生の最新映像が入手可能かも知れないが、編集者は十分な配慮をもって報道しなければならない。

（BBC i）これらの戦争ガイドラインは、BBC iのニュースや他のオンラインサービスにも適用される。

＜2＞TBS「イラク戦争報道ガイドライン」

戦争は悲惨な出来事です。その戦争を報道するのですから、視聴者に興味本位とか面白半分といった誤解を招かないよう十分注意して下さい。衝撃的な悲惨な映像を特別な理由もなくひたすら繰り返さないように番組でも十分連絡を取ってください。また分かりやすいという理由だけで、戦争をゲームやスポーツにたとえることも戦争報道では適切ではありません。以上今回の戦争報道について気になる点を考えてみました。

- 1—戦争報道はあくまで第三者の立場で公正中立に伝える。敵や味方という報道はしない。善や悪といった構図も極力使わない。被害者側と加害者側という表現も安易に使わない。
- 2—宗教上の表現や価値観を安易に使わない。イスラム教をオカルト的に扱うことはしない。例：狂信的なイスラム教徒
- 3—戦果の情報には、しばしば故意のミスリードが含まれることに注意する。また米英側の情報量が圧倒的に多いことにも留意する。この対処として、情報源を示すことや未確認情報であることを明示することを、心掛ける。
- 4—テレビゲーム映像のような空爆映像もその映像の中に悲惨な犠牲者がいることを忘れない。戦争報道がテレビゲーム感覚に陥ることがないように注意する。効果音やBGMの使い方にも十分な配慮をする。
- 5—ハイテク新兵器も戦争の道具である。能力の説明などで過度な表現を使うと、兵器を賛美していると誤解されかねない。例：攻撃による犠牲者をつくらぬ最新鋭兵器
- 6—戦争の当事者であるアメリカの報道が、そのまま日本でも適切であるとは限らない。安易に翻訳して使うのではなく、十分注意して扱う。アメリカの報道ぶりを紹介する場合は、その旨を明確に告知する。
- 7—警備に関する報道や生物化学兵器に関する報道ではいたずらに不安感を煽らないように注意する。

＜ 3 ＞ 日本放送協会（NHK）国内番組基準

（制定 達 3 4 号 昭和 3 4.7.2 1 改正 平成 7.9.26 平成 10.5.26 ）

日本放送協会は、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、何人からも干渉されず、不偏不党の立場を守って、放送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、よい放送を行なうことによって、公共の福祉の増進と文化の向上に最善をつくさなければならない。

この自覚に基づき、日本放送協会は、その放送において

- 1 世界平和の理想の実現に寄与し、人類の幸福に貢献する
- 2 基本的人権を尊重し、民主主義精神の徹底を図る
- 3 教養、情操、道德による人格の向上を図り、合理的精神を養うのに役立つようにする
- 4 我が国の過去のすぐれた文化の保存と新しい文化の育成・普及に貢献する
- 5 公共放送として権威と品位を保ち、公衆の期待と要望にそう

ものであることを基本原則として、ここに、国内放送の放送番組の編集の基準を定める。

第1章 放送番組一般の基準

第 1 項～ 1 4 項まであり。

第 1 項 人格・人権・名誉

第 2 項 人種・民族・国際関係

- 1 人種的、民族的偏見を持たせるような放送はしない。
- 2 国際親善を妨げるような放送はしない

第 3 項 宗教

宗教に関する放送は、信仰の自由を尊重し、公正に取り扱う。

第 4 項 政治・経済

- 1 政治上の諸問題は、公正に取り扱う
- 2 公職選挙法に基づく政見放送および経歴放送は、法律に従って実施する

- 3 経済上の諸問題で、一般に重大な影響を与えるおそれのあるものについては、特に慎重を期する

第5項 論争・裁判

- 1 意見が対立している公共の問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにし、公正に取り扱う。
- 2 現在、裁判にかかっている事件については、正しい法的措置を妨げるような取扱いはしない。

第6項 社会生活～第14項 訂正まで省略

第2章 各種放送番組の基準

第1項 教養番組～第8項 娯楽番組のなかで報道番組について紹介する。

第5項 報道番組

- 1 言論の自由を維持し、真実を報道する。
- 2 ニュースは、真実を客観的に取り扱い、ゆがめたり、隠したり、また、せん動的な表現はしない。
- 3 ニュースの中に特定の意見をはさむときは、事実と意見が明らかに区別されるように表現する。
- 4 災害など緊急事態に際しては、すすんで情報を提供して、人命を守り、災害の予防と拡大防止に寄与するようにつとめる。
- 5 ニュース解説または論評は、ニュースと明確に区別されるように取り扱う。

【資料】「イラク戦争」関連番組より

02・12・8 NHKスペシャル「イラク情勢2002」

03・3・2 NHKスペシャル「アメリカとイラク・蜜月と敵対の20年」

03・3・16 ワールドドキュメンタリー(NHKBS1)

「なぜイラクと戦うのか〜ブッシュ政権密室の攻防〜」

03・3・22 NHKスペシャル「アメリカはなぜイラクを攻撃するか」

03・3・23 日曜討論(NHK総合)「イラク攻撃・日本の対応は？」

03・3・29深夜(放送開始 24 時以降)朝まで生テレビ(テレビ朝日)

「激論・イラク戦争はいつ終わる」

03・4・4 BS23(NHKBS1)「“地下放送”市民の受け止め方」

03・4・6 NHKスペシャル「イラク戦争・アメリカとイラクの人々のいま」

03・4・21 BS23(NHKBS1)「アルジャジーラが伝えたイラク戦争」

03・4・23 BSプライムタイム(NHKBS1)「イラク戦争までの長い道」

03・4・28 緊急特集(日本テレビ)「女性従軍記者の 36 日間」

03・5・11深夜(放送開始 24 時以降)NNNDキュメント03

「検証・戦争報道〜イラク戦争・テレビは何を伝えたか〜」

03・5・17 NHKスペシャル「亡命イラク人たちの戦争」

03・5・24 ETVスペシャル(NHK教育)

「バグダッド日記〜イラク戦争とインターネット〜」

03・6・6 世界のレポート(NHKBS1)「イラク戦争報道検証」(BBC制作)

03・7・15 BSプライムタイム(NHKBS1)

「アルジャジーラは戦争をどう伝えたか」(BBC制作)

03・7・16 BSプライムタイム(NHKBS1)

「問われるアメリカの大義」(ドイツWDR制作)

03・8・2 BSプライムタイム(NHKBS1)

「平和を知らない子どもたち〜アグネスのイラク報告〜」

03・9・14 世界潮流(NHKBS1)

「メディアはどこに向かう〜イラク戦争とジャーナリズム〜」

「放送を語る会」 14年の歩み

「放送を語る会」とは ～視聴者、研究者、放送労働者のトライアングル～

「放送を語る会」は、視聴者、放送研究者、放送労働者の三者が、放送について語り合い、研究し、発言する場を作ろうという趣旨で、1990年8月に正式に発足した団体です。以後、毎年一回の「放送を語る集い」、隔月の研究会などの開催や、機関誌を発行するなどの活動を続けてきました。

会が生まれたきっかけは、1988年の「天皇報道」でした。この業務に従事した放送労働者の中から、放送メディアのあり方や、放送現場の状況について批判的に検討しようという動きが生まれ、翌1989年に、放送労働者有志が研究と実践のためのサークルを立ち上げたのが会の始まりです。その後、視聴者市民、メディア研究者、ジャーナリストが参加し、1990年に初めて「放送を語るつどい」という名称で集会を開きました。現在ではさまざまな立場の人びとが放送について考え、研究する視聴者団体の一つとなっています。（準備期の集会を含め、年次集会の内容は別項にかかげました）

1991年11月からは、年1回の集会のほかに、隔月で「放送問題研究会」を開催してきました。「放送問題研究会」の開催は2001年まで54回を数えましたが、多様なテーマでより多くの人びとが参加できるように、2001年11月からは、「放送問題研究会」に代わって新たに「放送フォーラム」と銘打った集会を発足させました。隔月の「放送フォーラム」は、2003年の「放送を語る集い」までに9回開催しています。（「放送フォーラム」の内容も後に掲げてあります）

また、90年の「つどい」の直前に、機関誌「放送トライアングル」を創刊しました。「トライアングル」という誌名には、視聴者市民、研究者、放送労働者の三者の連携を強めたいという願いがこめられています。この機関誌には「放送を語るつどい」や「放送問題研究会」の記録や研究内容を掲載し、昨年までに9号を数えました。2003年には第10号を発行することになっています。

会の組織、会費など

現在、会の運営は、代表と事務局長、若干名の運営委員であたっています。また、会を維持するため、年間3000円を拠出して下さった方に会員になっていただき、会の活動を共にすすめています。

最近の「放送を語るつどい」や「放送フォーラム」には、視聴者市民、視聴者団体メンバー、研究者、民放や出版などマスコミ関係者、さまざまな職種の放送労働者とそのOBなど、多岐にわたる立場の人びとが参加しています。今後、「放送を語る会」では、他の視聴者団体と連携を強めながら、放送に関する市民の多様な関心に応える活動を展開してゆこうと考えています。

（2003年10月4日）

・放送を語る会主催「放送を語るつどい」の記録

1989.5.4～5 「放送と労働・全国研究集会」

(この集会を「つどい」第1回としています・会場大阪市)

基調講演 立命館大学教授 松田 浩氏

- 分科会 ・「公共放送とジャーナリズム」
・「NHK受信料制度と営業現場」
・「放送局の職場実態と労働運動」

1990.8.25～26 「放送を語るつどい'90」(第2回・東京)

基調講演 立命館大学教授 松田 浩氏

- 分科会 ・「いま、受信料制度を考える」
・「よりよい放送をめざして」
・「ニューメディア時代の公共放送」

1991.8.24～25 「放送を語るつどい'91」(第3回・東京)

基調報告 放送を語る会代表

問題提起 市橋松江氏(新婦人新聞記者)

安藤英典氏(勤労者山岳会)

佐伯千恵氏(田端のまちづくりを考える会)

田中英樹氏(川崎市幸保健所)

鈴木益邦氏(朝日新聞労組)

沖野皓一氏(ジャーナリスト会議東海)

発言 松田浩、須藤春夫、斉藤茂男、岩田進午、山口孝氏ら

分科会 テーマを分けずに三つの分科会に分かれて討議

1992.11.21～22 「放送を語るつどい'92」(第4回・京都)

基調報告 「川口体制の一年」 放送を語る会事務局

講演 「KBS労組のたたかい」

KBS労組委員長 古住公義氏

「過労死を防ぐために」

京都民医連中央病院 清洲早紀氏

- 分科会 ・「報道や放送番組のありかた」
・「放送職場はどう変わったか」
・「受信料制度とハイビジョン」

1993.11.27～28 「放送を語るつどい'93」(第5回・東京)
基調講演「市民的公共放送を考える～新しいNHK像を求めて～」
立命館大学教授 松田浩氏
パネルディスカッション「私のNHK体験と放送批判」
パネリスト 岩田芙美子氏(主婦)
大原穰子氏(日本俳優連合理事)
川本裕司氏(朝日新聞学芸部記者)
木村愛二氏(フリージャーナリスト)
分科会・テーマを分けずに三つの分科会に分かれて討議
講演 「BS-4とハイビジョン、NHKの政策をめぐって」
法政大学教授 須藤春夫氏

1994.11.26～27 「放送を語るつどい'94」(第6回・東京)
“放送メディア・何をどう変えていくのか”
基調講演「テレビはジャーナリズムとして再生できるか」
共同通信顧問 原 寿雄氏
パネルディスカッション「問われる放送現場」
パネリスト 斎藤茂男氏(ジャーナリスト)
小松健一氏(フォト・ジャーナリスト)
松田 浩氏(立命館大学教授)

1995.11.25～26 「放送を語るつどい'95」(第7回・大阪)
問題提起「戦後50年・ジャーナリズムの流れとして」
関東学院大学教授 松田 浩氏
「自分史としての放送」
元NHKアナウンサー 沖野皓一氏
「テレビにおける東京中心主義とローカルの視点」
元民放労連副委員長 西山清雄氏
講演 「無定見な放送行政とNHK」
法政大学教授 須藤春夫氏

1996.11.16～17 「放送を語る集い'96」(第8回・東京)
“NHKの放送は今”
シンポジウム パート1「NHKの放送は今」
視聴者、NHK現場からの報告
シンポジウム パート2「変わる放送とNHKのあり方」
パート1を受けて討議
講演 「多チャンネル時代の放送とNHK」
法政大学教授 須藤春夫氏

1998.4.18 「第9回 放送を語る集い」 (東京・早稲田奉仕園)

“デジタル時代の公共放送～海老沢体制のNHK

第1部「NHKでいまなにが起こっているか」

NHK現場からの報告

第2部「問題提起と討論 デジタル時代の公共放送」

問題提起 法政大学教授 須藤春夫氏

1999.5.15 「第10回 放送を語るつどい」(東京・早稲田奉仕園)

“デジタル時代の公共放送～NHKの動きをどうみるか～”

第1部・報告と討議「NHKの動きをどうみるか」

NHK現場からの報告

第2部・講演と討議「公共放送と視聴者運動～これからの課題～」

関東学院大学教授 松田 浩氏

「デジタル時代の公共放送～21世紀へ向けて～」

法政大学教授 須藤春夫氏

2000.5.13～14 「第11回放送を語る集い」(名古屋・ウイル愛知)

“市民とメディア”

第1日 基調講演 「デジタル時代の放送をめぐる状況」

立教大学教授 服部孝章氏

パネルディスカッション “市民とメディア”

パネリスト 尾石美智代氏(ケーブルテレビ可児・ディレクター

岡 久美子氏(女性とメディア研究会代表)

辻 淳夫氏(藤前干潟を守る会代表)

津田正夫氏(市民とメディア研究会代表)

第2日 5月14日 現地見学バスツアー

海上の森、藤前干潟、長良川河口堰 など

2001.5.12～13 「第12回放送を語る集い」(東京・オリンピック青少年センター)

“いま放送になにを求めるか”

第1日 基調講演「いま放送メディアになにを求めるか」

ジャーナリスト 原 寿雄氏

報告「高校生がみた松本サリン事件」

～メディアリテラシーへの旅～

梓川高校教諭 林 直哉氏

元松本美須々ヶ丘高校放送部部員 安田恵子さん・

矢久保飛鳥さん

分科会1「メディア規制とどう向き合うか」

分科会2「市民とメディアの関係をどう組み換えるか」

第2日 討論・視聴者運動をどう進めるか

2002. 6. 1～2 「第13回放送を語るつどい」(東京・オリンピック青少年センター)

“テレビとジャーナリズム”

第1日 第1部 基調講演「ジャーナリストの志とはなにか」

～放送現場のひとたちに～

ルポライター 鎌田 慧氏

第2部 番組視聴と報告「ハンセン病問題の向こうに」

南日本放送報道制作本部次長 陶山賢治氏

番組「人間として～ハンセン病原告団の闘い～」

第2日 第3部 報告と討議「市民参加と放送ジャーナリズム」

市民とメディア研究会・あくせす代表 津田正夫氏

むさしのみたか市民テレビ局代表 川井信良氏

第4部 討議「いまテレビの現状を問う」

パネルディスカッション

法政大学教授 須藤春夫氏

日放労（NHK労組）委員長 佐滝剛弘氏

元民放労連委員長 岩崎貞明氏

市民団体役員 南澤和雄氏

2003. 10. 4～5 「第14回放送を語るつどい」

“戦争報道を問う”

第1日 基調講演「イラク戦争から日本の戦争報道を考える」

アジアプレス・インターナショナル代表 野中章弘氏

報告 「テレビはイラク戦争をどう伝えたか？」

～ニュース3番組を検証～

「放送を語る会」番組分析チーム

第2日 講演 「有事法制とマスメディア」

関東学院大学教授 丸山重威氏

徹底討論・有事法制とNHK・民放

発言・メディア総合研究所所長 須藤春夫氏ほか

討議 「視聴者運動の課題～「放送を語る会」の今後のために

※1997年は開催せず。

放送を語る会主催「放送フォーラム」の記録

第1回 2001. 11. 14

「E T V 2001 問題を考える～制作現場からの発言～」

映像ジャーナリスト 坂上 香氏

第2回 2002. 1. 23

「私のみた日本のニュース」

韓国K B S 記者 林 炳杰氏

第3回 2002. 3. 27

「テレビとスポーツ～市場主義とナショナリズム～」

スポーツジャーナリスト 谷口源太郎氏

第4回 2002. 9. 20

「番組と教育現場の葛藤～NHK『中学生日記』～」

元NHKディレクター 小滝一志氏

第5回 2002. 11. 15

「ジャーナリズムが失いつつあるもの～E T V 番組改ざん問題の再検討～」

フリージャーナリスト 竹内一晴氏

第6回 2003. 1. 24

「問われるアメリカメディアの姿勢～9・11からイラクまで～」

京都学園大学教授 隅井孝雄氏

第7回 2003. 4. 4

「拉致報道の現場から～自粛報道とジャーナリズムの課題～」

フリージャーナリスト 小田桐 誠氏

第8回 2003. 5. 23

「“知事・田中康夫” 報道～メディアが伝えたこと、伝えなかったこと～」

信州の教育と自治研究所所長 野口清人氏

第9回 2003. 7. 28

「イラク最新報告～フォトジャーナリストとして何を訴えるか～」

フォトジャーナリスト 森住 卓氏

拉致報道の現場から～自肅報道とジャーナリズムの課題～

講師 小田桐 誠氏（フリージャーナリスト）

4月4日（金）、フリージャーナリストの小田桐誠さんを迎えて第7回放送フォーラムが開かれ、北朝鮮からの拉致事件被害者帰国をめぐる自肅報道の実態が詳しく報告されました。

参加者は25名、小田桐さんの1時間半近い報告を受けての質疑討論では発言が相次ぎ予定の30分では足りず、参加者からは「語る会なのに語りきれなかった」との声が聞かれるほどでこの問題に対する関心の高さを示しました。

小田桐さんは、参加者の理解が深まるようにとあらかじめレジュメと多数の資料を用意してくれました。

資料の一部を紹介します。

- 1) 10月15日の拉致被害者帰国を前に、13日出された「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」（代表横田滋）、「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会」（会長佐藤勝巳）連名の「拉致被害者の帰国に当たっての節度ある取材のお願い」
- 2) 「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会」「内閣官房『拉致被害者の帰国受け入れチーム』」連名で報道機関に出された「取材要領」。自社腕章着用・顔写真付身分証明書の携行・各社の取材者数制限・金属探知機による検査やボディーチェック、荷物の開被などの予告・航空機、ヘリなどの航空取材、車両や徒歩の追従取材禁止などこと細かく規制している
- 3) 帰国当日の10月15日付、蓮池・奥土夫妻、曾我ひとみさんらが帰郷する新潟県で蓮池透・奥土一男氏連名、金子富美子氏（曾我さんの実妹）から出された県政記者クラブ宛て「節度ある取材のお願い」とそれらに添付された「内閣官房中山参与室帰国受け入れチーム」の「要請書送付について」
- 4) 10月16日付、地元区長連名で「報道関係各位」に出された「地村保志さん・浜本富貴恵さん滞在中の区内における取材について（お願い）」
- 5) 10月11日、事前に出された福井県報道責任者会議（NHKはじめ放送・新聞・通信13社加盟）が「全国の新聞・テレビ・ラジオ・雑誌取材記者・カメラマンのみなさんへ」出した取材協力要請「集团的過熱取材（メディアスクラム）を発生させないために」
- 6) 10月11日、在京社会部長会21社（NHK、民放・新聞・通信各社）による「節度ある取材・報道につとめる＜申し合わせ＞」

小田桐さんは、その後の自肅報道につながる取材協定が出来た背景を3点にわたって指摘しました。

1. メディア規制法案を通させないためにメディア側が自主的に規制したこと
2. メディアのこれまでの習性から過熱取材が起こりそうだと予測して初めて事前に話

し合ったこと

3. 9月中旬、誰が帰国するかわからない段階で、山梨・埼玉など各地で取材合戦がすでに始まっていたこと

発端は、家族が心配して「そっとしておいて」と、政府や自治体に要請したことから始まったと思われるとしながら、その後の取材制限は、政府・地方自治体・町内会が三位一体で前代未聞の厳しさだったことを生々しくレポートしました。

また「救う会」「拉致議連」「家族会」の関係やその情報コントロール、読売・サンケイなどの役割についても触れました。

97年ごろには、拉致問題についての世間の関心は全くなく、家族会・救う会などが記者会見を設定してもどこの社も来ないような状態が続いたこと、今年9月被害者帰国が予想されるころからマスメディアの態度が180度転換して取材が殺到し、家族や関係者はメディアに対し積年の想いがあったと思われそれが今回のようなマスメディアへの要請につながったのではないかと。

そして、「救う会」も「家族会」も当初は一時帰国と考えており、マスメディアへの会見予定も日本への帰国時・帰郷時・北朝鮮への帰国時の3回と説明していたこと、それが何故永住帰国に変わったかは未解明だが、読売やサンケイが経過報道やスクープの形で報道して流れを作っていた様子なども報告されました。

その後の拉致問題と事件関係者や喜び組などの北朝鮮報道について、ウラを取れないことをいいことにテレビがやたらに無責任報道を垂れ流していることに強い疑問を提出して報告を締めくくりました。

(資料は、残部が若干あります。必要な人は事務局まで)

<小滝記>

2003. 7. 28 第9回放送フォーラム

イラク最新報告～フォトジャーナリストとして何を訴えるか～

講師 森住 卓 さん

「放送を語る会」主催の第9回放送フォーラムはフォト・ジャーナリスト森住卓氏をお招きし、イラク最新報告とフォト・ジャーナリストは何を訴えるのかをテーマにお話しをきいた。参加者は35名。

森住さんは1998年から一貫して「劣化ウラン弾」の影響をテーマにイラク取材を続けている。ついこの間の英米が起こしたイラク戦争にも自分の命を賭けてバグダットとその周辺を取材し、戦争が終わると同時に再度イラク取材に入っている。それだけにビデオ・プロジェクターで写し出された写真は凄いインパクトを見る者に与える。特に私達を惹きつけた写真はイエロ・ケーキが残る不発の劣化ウラン弾、戦車の鋼鉄を射抜いた穴が残る残骸、イエロ・ケーキが残る道を裸足で遊ぶ子供たち。そして劣化ウランの影響を受けた赤ちゃんの姿は見るのも堪え難い。生まれて数時間で死ぬという。

日本や外国のマスコミは劣化ウランの因果関係がはっきりしない理由で報道しない。少数のマスコミは取材して報道しているが。まだまだ不十分だ。森住さんの発言で、注目した点はドイツの医者が劣化ウランを持ち帰り告発しようとしたが、目に見えない圧力がかかり、その後追求がないという。また、一般のマスコミの取材では一週間や二週間の取材ではイラク取材は難しい。理由は公共機関が午前中しか受付しないため。やはりフリー・ジャーナリストは時間がとれるので取材には有利という。

またジャーナリストはしっかりした取材目的をもたなければいけないと強調。イラクの産院の取材では生まれたばかりの奇形児を森住さんに見せて、写真で世界に報せてほしいと医師から頼まれたという。単にプロパガンダだけではない心を感じたと森住さんは語る。

会場からの質問で森住さんは劣化ウランの粉を吸う危険がありますかときかれ、その危険はあるという。命がけの取材に彼は人を殺す側を告発したいからと答えていたことが印象に残る。彼は自分の写真集をアメリカ大統領にぜひ見てもらいたいと語る。

いまフリー・ジャーナリストもビジュアル・ジャーナリスト協会を組織して見えない圧力と戦いながら横のつながりを保ちつつ活動の場を広げている。

森住さんのお話しをききながら大いなる成果と安全な取材を願うものである。

(放送を語る会会員 増田康雄)



～放送労働者・視聴者・研究者をむすぶ～

特集

テレビはイラク戦争をどう伝えたか

～ニュース3番組を検証する～

放送を語る会